

# D

## 履修ガイド

1	学修にあたって	<a href="#">D - 2</a>
2	教育課程	<a href="#">D - 7</a>
3	授業のしくみ	<a href="#">D - 10</a>
4	科目履修	<a href="#">D - 22</a>
5	試験	<a href="#">D - 34</a>
6	成績	<a href="#">D - 39</a>
7	進級と卒業	<a href="#">D - 44</a>
8	学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧	<a href="#">D - 47</a>

# 1 学修にあたって

## 1-1 大学で学ぶ

大学は「生涯学び続け、主体的に考える人材」を育成する場であり、学生は、主体的に問題を発見し解決していく能動的な学修へ転換する必要があります。

教えてもらう（＝学習）だけではなく、自らが進んで学問を身に付け修める（＝学修）場が大学です。

## 1-2 三つのポリシー（三つの方針）について

大学は、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」、「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」の三つのポリシーを、一貫性あるものとして策定し、公表しています。入学から卒業まで一貫した方針を用いて大学教育を実践することにより、学生の学修成果を向上させ、学位授与にふさわしい人材を育成し社会に送り出すことを目指しています。

- **ディプロマ・ポリシー（DP、学位授与の方針）** は、大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針のことです。  
ディプロマ・ポリシーは、学生にとって自身が身に付ける資質・能力の目安・指針となり、学修目標となるものです。
- **カリキュラム・ポリシー（CP、教育課程編成・実施の方針）** は、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方針を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針のことです。
- **アドミッション・ポリシー（AP、入学者受入れの方針）** は、大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」についてどのような成果を求めるか）を示すものです。

卒業までの見通しを持って学生生活を送るためにも、卒業までに求められる学修成果について定めるディプロマ・ポリシーや、ディプロマ・ポリシーを達成するために定められるカリキュラム・ポリシーについて、しっかりと理解しておく必要があります。

## 1-2-1 全学共通ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

---

本学は、保健医療福祉の分野において高い知識と優れた技能と人間性を併せ備えた社会の要請に応え得る有為な専門職業人を育成することを目的としており、各学科において、人材の育成に関する目標を定めている。その実現のために、総合教育と専門教育に重点を置いた体系的なカリキュラムを構築し、学生に明示する成績評価基準に沿って厳格な成績評価を行う。卒業要件を満たす所定の単位を修得した者に対して、卒業を認定し、学位を授与する。

### IUHW-DP1：専門職業人としての社会的責務と倫理観

専門職業人を目指す者として、社会的責務と倫理観を根幹とした幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、一人の人間として豊かな心を身につけることができる。

### IUHW-DP2：保健・医療・福祉への貢献とコミュニケーション能力

保健・医療・福祉への貢献のため、専門領域へつながる基礎的な学力を養い、多職種を理解し、専門領域を超えて問題を探究する姿勢とコミュニケーション能力を身につけることができる。

### IUHW-DP3：専門的な知識と技能を活用する能力

各学科における目的に沿った専門分野を極め、専門職に必要とされる高度な専門的知識や技術を身につけることができる。

### IUHW-DP4：創造的な問題解決力と生涯学習力

様々な状況において備えた高度な専門的知識や技術力を統合して創造的な問題解決に取り組み、自身の更なる発展のため、生涯学習を行うことの重要性を知り、新しい知識を追求（研究活動）する方法を身につけることができる。

本学では、上記の全学ディプロマ・ポリシーを基盤に、各学科の専門性を考慮したディプロマ・ポリシーを学科ごとに設定している。

※各学科のディプロマ・ポリシーは「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を参照してください。

## 1-2-2 全学共通カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

---

本学は、「人間中心の大学」「社会に開かれた大学」「国際性を目指した大学」という理念のもと、「共に生きる社会」を実現するため、幅広い教養科目を基礎におき、専門分野に関する科目については体系的に構成する、総合教育と専門教育に重点を置いたカリキュラムとなっている。以下に本学のカリキュラム体系を示す。

### IUHW-CP1 :

幅広い教養や視野、国際センス、思考力を備えた豊かな人間性を養うための総合教育科目

### IUHW-CP2 :

有益なコミュニケーション能力、関連職種との連携能力および問題解決能力を身につけた専門職業人を育成するための専門基礎科目

### IUHW-CP3 :

保健医療福祉のプロフェッショナルになるための専門知識および技術、さらに新しい知識を探究する方法を身につけた専門職業人として、社会に貢献できる人材を育成するための専門科目

本学では、上記のカリキュラム体系を基盤に、4つの学士力である「知識、理解」「総合的な学習経験と創造的志向」「汎用的技能」「態度、志向性」を柱とするカリキュラム・ポリシーを学科ごとに設定している。また、各学科では教育目標を学生が達成できるよう、カリキュラム・ポリシーに則り教育課程を編成・実施する。

※各学科のカリキュラム・ポリシーは「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を参照してください。

## 1-2-3 全学共通アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

---

本学が入学者に求める要件

本学は、建学の精神である「共に生きる社会の実現」に基づく深い人間理解の上に、高度な知識・技能を修得し、また多職種と連携・協働してその責務を果たし、日々進化する保健・医療・福祉分野の需要に対応できる指導的な人材の育成を実現すべく、学生、社会人、留学生、帰国生徒に対して学修の機会を提供し、このような社会的な需要に応える教育を展開するものである。本学が入学者に求める要件は、以下のとおりである。

### 1.知識・技能

幅広い教養と視野を備えた豊かな人間性を養うため、積極的に自らを磨いていける人。なお、日々進化する保健・医療・福祉分野における高度化・専門化及び国際化に対応し学びを深めるために、入学までに身につけていることが望ましい内容は以下のとおりである。

【国語】物事を的確に理解し、論理的に思考し表現するために必要な国語の文章力と読解力、言語によるコミュニケーション能力

【地理歴史・公民】多様な文化や歴史、価値観、生活背景を持つ他者を理解するために必要な基礎知識

【数学】論理的かつ数量的に物事を考え表現するために必要な数学的知識と技能

【理科】自然の現象や人体に関する諸問題を科学的に理解するために必要な自然科学（物理、化学、生物）に関する基礎知識

【英語】国際的視点で物事をとらえ、諸外国の人々と交流するために必要な基礎的な英語の理解力とコミュニケーション能力

### 2.思考力・判断力・表現力

- これからの時代の保健・医療・福祉分野を担っていこうとする情熱を持ち、自ら積極的に学ぶ意欲や課題を発見し解決する能力を有していること。
- 保健・医療・福祉分野における情報科学技術の高度化、専門化及び国際化に対応するため、幅広い関心と好奇心を持って努力を継続できる人であること。
- 学業・社会貢献・技術・文化・芸術・スポーツの分野で優れた活動実績を有し、本学で修得した技術をもとに、将来それぞれの分野で活躍したいという意欲を持つ人であること。

### 3.主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- 本学の基本理念及び教育理念を十分に理解し、専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する強い意志を持つ人であること。
- あらゆる人に対して自らの心を開き、コミュニケーションをとれる人であること。
- 本学での学びを生かし、将来、母国あるいは国際社会において、保健・医療・福祉分野の発展に貢献したいという強い意志を持つ人であること。

### 1-3 修業年限・在学年限・学位授与

各学部・学科の本学の教育課程を修了するために必要な期間（修業年限）および授与する学位は次のとおりです。

学部	学科	修業年限	学位
成田看護学部	看護学科	4年	学士（看護学）
成田保健医療学部	理学療法学科	4年	学士（理学療法学）
	作業療法学科	4年	学士（作業療法学）
	言語聴覚学科	4年	学士（言語聴覚学）
	医学検査学科	4年	学士（医学検査学）
	放射線・情報科学科	4年	学士（放射線・情報科学）
成田薬学部	薬学科	6年	学士（薬学）

\* 休学・停学期間は修業年限に算入しません。

\* 成田看護学部、成田保健医療学部においては8年を、成田薬学部においては12年をそれぞれ超えて在学することはできません。

\* 上記の他、成田薬学部においては、同一年次における在学年限を2年とします。ただし、5年次及び6年次については、通算で4年とします。

## 2 教育課程

国際医療福祉大学には、医療福祉専門職としての専門的な知識や技術の修得にとどまらず、幅広い視野と豊かな人間性を育む教育課程が用意されています。

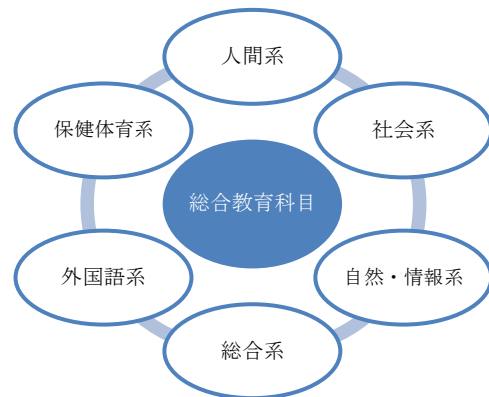
### 2-1 教育課程の構成

#### 2-1-1 授業科目の区分

授業科目は、幅広い教養を学ぶ「総合教育科目」と高度な専門知識や技術を学ぶ「専門教育科目」により構成されています。

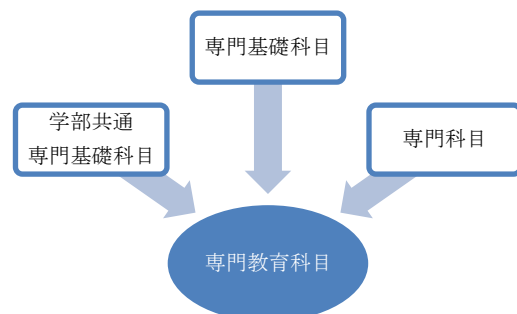
##### (1) 総合教育科目

- 総合教育科目は、幅広い視野と豊かな人間性を育むとともに、専門教育を受けるうえで必要となる基本的な知識を修得する科目です。科目により、人間系科目、社会系科目、自然・情報系科目、総合系科目、外国語系科目、保健体育系科目の6つの系統に分類されています。
- 4年間（成田看護学部、成田保健医療学部）または6年間（成田薬学部）にわたり学べる機会が設けられており、原則としてキャンパス共通の開講科目となっています。
- 外国語系科目の英語は実用性を重視した内容になっています。



##### (2) 専門教育科目

- 専門教育科目は、専門職において必要となる専門的な知識や技術を修得する科目です。科目により専門基礎科目と専門科目に分類されています。
- 専門基礎科目は、専門科目(高度な専門的知識・技術)を学ぶための前提となる知識・技術を学ぶ科目です。医療関連専門職として共通して修得すべき科目である学部共通専門基礎科目と学科独自に開講される専門基礎科目に分かれています。
- 専門科目は、高度な専門的知識・技術を修得するための科目であり、学科独自の開講科目になっています。



## 2-1-2 必修科目・選択科目・自由科目の区分

授業科目には必ず修得しなければならない科目と学生が自主的に選択できる科目の区分があります。

区分	説明
必修科目	卒業資格を得るために必ず単位を修得しなければならない授業科目です。すべての必修科目の単位を修得しなければ卒業することができません。
選択科目	定められた選択科目の中から、学生が自主的に選択して履修する授業科目です。定められた単位数以上修得しないと卒業することができません。 選択科目には、指定されているいくつかの科目の中から、各学科の要件に従って必ず選択して履修し、単位を修得しなければならない科目があります。
自由科目	選択科目と同様に定められた科目の中から、学生が自主的に選択して履修する科目です。単位を修得することができますが、進級や卒業に必要な単位数には算入されません。

## 2-1-3 科目の配当年次

授業科目は、科目ごとに開講される学年が定められています。これを配当年次といいます。教育課程は、各授業科目を各学年に配当して編成されます。

配当年次は、「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」の授業科目一覧で確認することができます。

## 2-2 DP-教育目標カリキュラムマップ／履修系統図

教育課程は、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修目標を達成するために、カリキュラム・ポリシーのもとで体系的かつ組織的に編成されたものです。教育課程を構成する個々の授業科目には、学修目標の達成に向けて担うべき役割があります。

卒業までの見通しを立てながら主体的に学修を進めるためには、個々の授業科目が、教育課程内でどの科目と関連し、学生がどのような資質・能力を獲得するために設定されているか、各授業科目が担う役割を把握しておくことが重要です。

### 2-2-1 DP-教育目標カリキュラムマップ

DP-教育目標・カリキュラムマップは、教育課程を構成する個々の各授業科目が、ディプロマ・ポリシーや教育目標とどのように対応しているか、その体系を明確にするためのものです。



各授業科目が教育課程の中で果たす役割、つまり、学生が身に付けることが期待される知識・技能・態度と授業科目との対応関係を確認することができます。

## 2-2-2 履修系統図

---

履修系統図は、カリキュラムツリーともよばれ、授業科目相互の関係や、学位取得に至るまでの履修順序（配当年次）など、授業科目の系統性を示したものです。カリキュラムの全体像を俯瞰することができ、履修の計画を立てやすくなります。

各学科の教育課程については、「D. 履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を参照してください。

## 2-3 授業計画（シラバス）

---

教育課程を構成する個々の授業科目には、到達目標が設定されます。この到達目標はディプロマ・ポリシーに掲げる学修目標をさらに具体化する観点で作成されたものです。

教員は、授業の到達目標に学生を導くため、各回の授業を計画します。また、この授業計画を記した文書（シラバス）をあらかじめ明示したうえで授業を行います。

授業計画（シラバス）には、授業の概要、その授業の到達目標、ディプロマ・ポリシーに定められた学修目標と授業科目の関係、授業の進め方、成績評価方法や評価基準、準備学修（事前学修と事後学修）の内容、教員のオフィスアワーなど授業の全体像が記されています。

シラバスは、個々の授業科目について学生と教員との共通理解を図るうえで極めて重要なものであり、授業の行程表として機能するとともに、成績評価の基点となるものです。

### 2-3-1 シラバスの活用

---

- 履修登録を行うにあたっては、科目を選択する際の基準としてシラバスを活用してください。
- 科目を履修するにあたっては、常にシラバスを確認するように心がけてください。授業の目的、到達目標、その日の授業内容等を繰り返し確認することにより学修効果を高めることができます。

### 2-3-2 シラバスの閲覧方法

---

- 各授業科目のシラバスは年間を通してUNIPAから閲覧できます。UNIPAで公開されているシラバス情報に修正が生じた場合は、教員から周知するので確認してください。
- シラバスの閲覧方法については「F.資料集」の「3-1. 「UNIVERSAL PASSPORT」操作説明書」を参照してください。

## 3 授業のしくみ

### 3-1 単位

#### 3-1-1 単位と単位制

##### (1) 単位

- 単位とは、学修の量を示す基準のことであり、大学における授業では、各科目の授業時間と学修量を「単位」という数値で表します。
- 授業科目の単位数は、大学設置基準により、1 単位あたりの学修時間が授業時間および自主学修（予習・復習など）時間を合わせて 45 時間（試験時間は除く）と定められています。
- 各授業科目の単位数は、大学で行う授業とその準備のために学生が行う自主学修時間等を含めて計算されており、授業科目の性質や授業の方法によって、大学で行う授業とその準備のために学生が行う自主学修時間の割合は異なります。

##### (2) 単位制

単位制とは、所定の授業科目を履修することにより、その授業科目の単位を修得し、在学期間（成田看護学部および成田保健医療学部生においては 4 年以上 8 年以内）のうちに、卒業に必要な単位数を修得する制度のことをいいます。

#### 3-1-2 単位と学修時間数

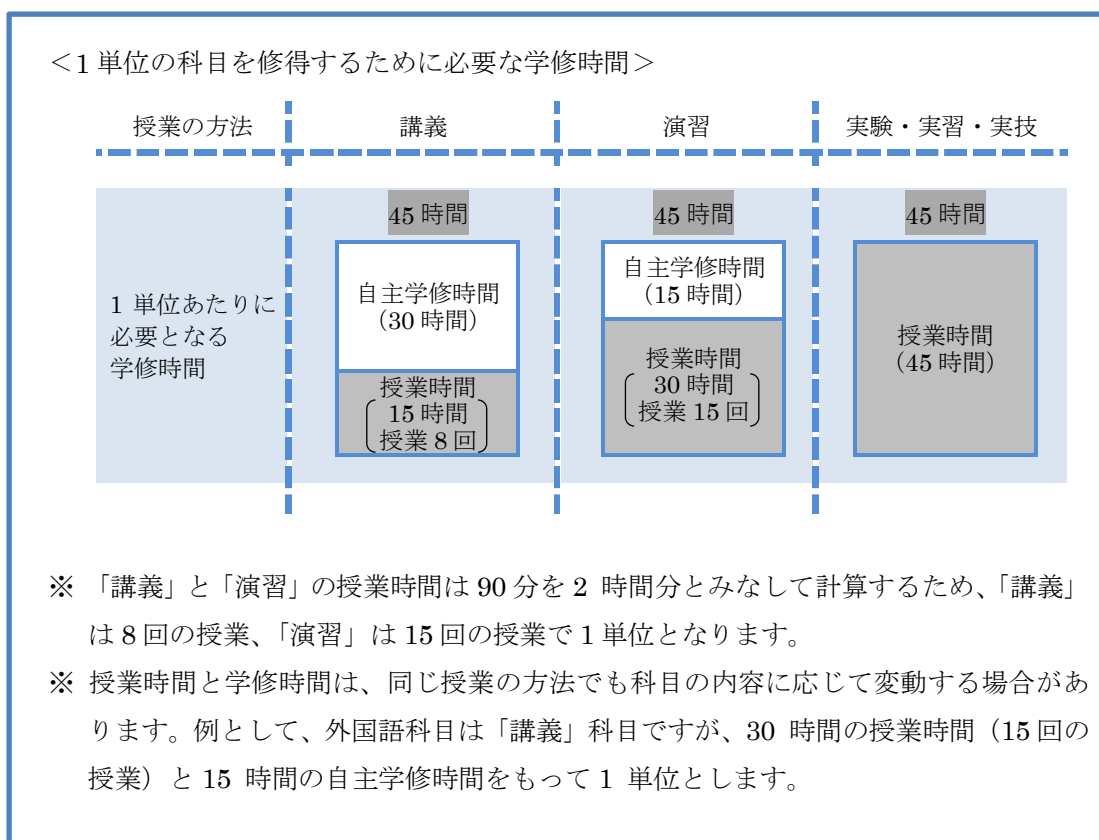
##### (1) 授業の方法と単位修得に必要な授業時間

本学では原則として次のように授業の方法を区分し、1 単位に必要な授業時間を定めています。

授業の方法	単位修得に必要な授業時間 ( ) は教育上必要があるとき
講義	15 時間 (30 時間) / 1 単位
演習	30 時間 (15 時間) / 1 単位
実験・実習・実技等	45 時間 (30 時間) / 1 単位

## (2) 授業の方法と単位修得に必要な学修時間数

単位修得に必要な授業時間と自主学修時間は、授業の方法に応じて次のとおりとなります。



### ☑ CHECK ☑

たとえば、講義で 2 単位科目の場合は、授業時間 30 時間（15 回の授業）の他に自主学修時間 60 時間が必要です。

## (3) 単位と学修時間数の考え方

2 単位の講義科目を修得するために必要な学修時間は以下のとおりです。

- 単位修得に必要な授業時間と自主学修時間は合計 90 時間（45 時間×2 単位）です。
- そのうち授業時間は 30 時間（1 単位 15 時間の講義×2 単位）行われます。
- 単位修得に必要な自主学修時間は 90 時間－30 時間＝60 時間になります。



## 3-2 授業期間

- 1年を前期・後期の2学期に分け、授業は定められた期間内で行われます。ただし、授業において指定のあった科目および実習については、夏期休暇等の長期休暇期間中や別に定められた期間を利用して開講することがあります。詳細は学科のオリエンテーション等で確認してください。
- 授業日数を確保するため、土曜日や祝日に授業を行う場合やカレンダー上の曜日とは異なる曜日の授業を行う場合があります。授業期間や履修科目の授業日程は、授業週間および定期試験期間一覧（学年暦）、時間割表、各科目のシラバス（授業計画）を確認してください。
- 学年暦はUNIPAでお知らせします。

## 3-3 授業時間

本学の授業は90分を1時限として、1日5時限で構成されています。なお、科目によっては6時限に開講される場合もあります。

時限	授業時間帯	時間
1時限	9:00 ~ 10:30	[90分]
2時限	10:40 ~ 12:10	[90分]
昼 休 み		
3時限	13:00 ~ 14:30	[90分]
4時限	14:40 ~ 16:10	[90分]
5時限	16:20 ~ 17:50	[90分]
6時限	18:00 ~ 19:30	[90分]

\* 授業計画等の都合（休講等）により、授業時間帯を変更して授業を行う場合があります。その場合はUNIPAで連絡します。

## 3-4 時間割と教室

- 当該年度の各科目の授業時間や使用教室は「時間割表」で確認してください。時間割表はUNIPAでお知らせします。
- 大学には、授業の方法に合わせて大中小の教室やゼミ室、実験・実習室、演習室などの学修環境が用意されており、科目によって指定された教室で授業が行われます。各科目の開講時間および校舎・教室を間違えないように十分注意してください。
- 開講時間や教室など、時間割表に変更が生じた場合は、別途掲示やUNIPAで連絡します。
  - \* 履修者数や教室設備の都合などにより、開講日時や教室が、年度当初の時間割表やシラバスに記載のものから変更されることがあります。
  - \* 変更は、学期を通して変更する場合と1回のみ（指定日限り）変更する場合があります。特に各期の授業開始直後は教室を変更することがありますので、UNIPAをよく確認するようにしてください。

## 3-5 授業の方法と種類

### 3-5-1 授業の方法

授業は、講義、演習、実験、実習（学内実習・臨床実習）、実技など、さまざまな方法で行われます。

授業の方法	説明
講義	教員が学生に対し、学問の方法や成果、また、研究対象などについて、その内容・性質などを解説する授業の形式です。座学ともいいます。
演習	教員の指導のもと、学生が研究・発表・討議を行うことを主眼とした、主に少人数グループに分かれて行われる授業の形式です。
実験・実習・実技	講義や演習形式で学んだ理論や知識、技術を活用し、実践的に学修する授業の形式です。医療福祉系大学では病院や福祉施設に赴いて実践的な臨床を学修する「臨床実習」が行われます。

### 3-5-2 メディアを利用した授業（ICT 授業）

本学の授業には、教室で教員と対面して受講する通常の授業（対面授業）に加え、ソフトウェア授業やeラーニング授業などがあります。

#### (1) ソフトウェア授業（本学での呼称：オンライン授業、ICT 授業）

- 教員が講義しているキャンパスや教室とは別のキャンパスや教室で受講する授業です。自宅などで受講する場合があります。
- 同時双方向ソフトウェア「Zoom」などを利用して講義をリアルタイムに配信し、学生は教員の映像や音声を視聴できるだけでなく、教員への質問やディスカッションを行うなど双方向のコミュニケーションが可能です。
- 複数のキャンパスで同時に授業を実施することが可能です。
- 対面授業とオンライン授業を組み合わせる、ハイブリッド型授業を行うことがあります。
- Zoom のログイン方法については「F.資料集」の「3-3 Zoom について」を参照してください。

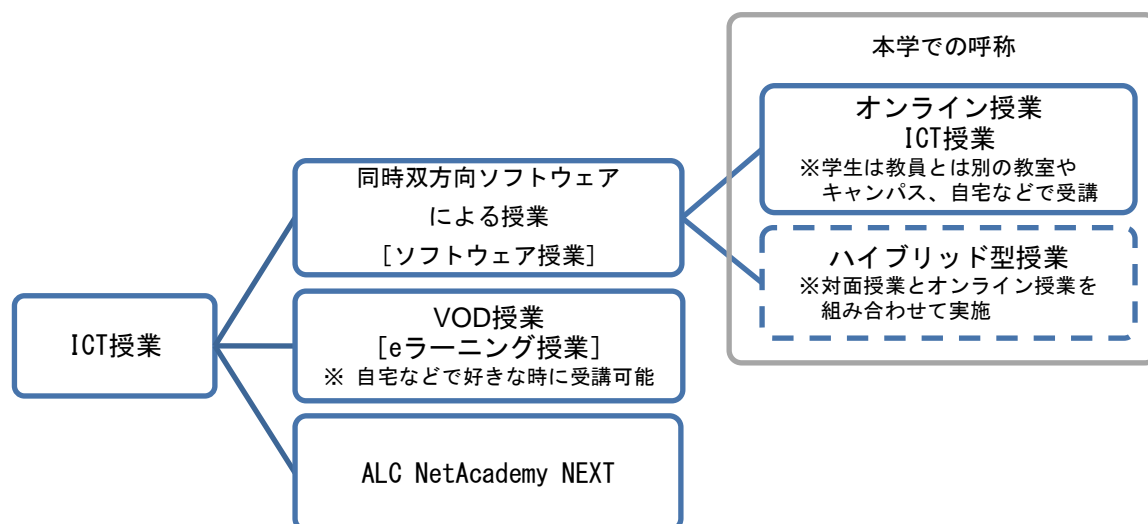
#### (2) eラーニング授業（本学での呼称：VOD 授業）

- あらかじめ収録した授業映像を、Google Classroom により受講する授業です。インターネットに接続されたパソコンさえあれば、自宅などで好きな時に受講し、繰り返し学修できるため、利便性が高い授業です。

#### (3) ALC NetAcademy NEXT

- 英語の e-learning 教材「ALC NetAcademy NEXT」で TOEIC (R) L&R テスト対策の学習や英語力をアップさせるためのトレーニングができます。
- 本学の在学学生は無料で利用ができます。

URL : <https://nanext.alcnanext.jp/anetn/Student/stlogin/index/iuhw>



### 3-5-3 VOD 授業

- VOD授業の履修期間は講義科目同様（前期・後期）です。ただし、視聴期間が定められています。視聴期間を学内掲示板で確認し、各自計画的に学修を進め、期間内にすべての回の視聴を完了してください。
- VODを主とした科目であっても、VODの視聴に加えて、視聴期間中に対面授業を実施します。対面授業の日程等は学内掲示板で連絡しますので、必ず出席してください。
- 各回視聴後、必ず確認問題に回答してください。VOD授業の成績評価にあたっては、各回の講義動画視聴終了後、設問に対する回答を完了していることが必要となります。

#### ☑ CHECK ☑

VOD 授業の視聴方法、設問回答方法、問い合わせ方法や各科目の詳細は、学内掲示板やUNIPAに掲載します。

### 3-6 出席・欠席・遅刻

- 所定の時間割に従って授業には毎時間必ず出席しなければなりません。
- 遅刻については、科目担当教員の判断により、遅刻者の出席を認めないまたは遅刻者を入室させない場合があります。やむを得ない事情により遅刻する場合は、事前または事後速やかに科目担当教員に相談してください。
- 病気等やむを得ない事情以外の欠席・遅刻について生じた不利益は補償しません。また、出席回数が3分の2に満たない科目は定期試験の受験資格やそれに代わるレポート提出等の提出資格を得られず、単位修得もできません。  
※科目によっては、試験の受験資格に必要とされる出席時間数がこの基準より引き上げられることもあります。科目担当教員の指示に従ってください。  
※原則として大学では、学生個人の出席状況の開示は行いません。出席状況は各自で管理してください。
- 病気等やむを得ない事情により授業を欠席する場合は、科目責任者または教務課に欠席届を提出してください（提出先は別途指示に従うこと）。ただし、欠席届はあくまで欠席理由を明らかにするものであり、必ずしも公欠が認められるものではありません。詳細は「B.大学生活を送るにあたって」の「4-5.授業の欠席に関する届出」を参照してください。
- 欠席届は欠席した日から7日以内（欠席した日を含め8日以内）に提出してください。理由なく提出が遅れると、欠席届が受理されない場合があります。別途、学科や授業担当教員が提出方法や提出期限を設けている場合はその指示に従ってください。
- 学外における実習の欠席は、所属学科の取り決めに従い欠席連絡を行ってください。
- 定期試験（成績評価に係る試験）の欠席については追試験が認められる場合があります。この場合の手続きについては「D. 履修ガイド」の「5-6. 追試験」を参照してください。

- 不測の事態で授業を欠席する時は、速やかに学科の担当教員および大学事務局に連絡してください。

### 3-7 休講と補講

- やむを得ない理由により、授業が行われないことを「休講」といいます。休講になった場合、原則その回の授業を別日に実施する「補講」が行われます。
- 休講や補講はUNIPA、Google Classroomで連絡します。

### 3-8 自然災害や交通機関等の影響による休講措置

#### 3-8-1 自然災害等による休講の決定

自然災害などの不測の事態が発生した場合、やむを得ず休講措置をとることがあります。

自然災害等が発生し下記のいずれかに該当する場合、学長の判断により当該授業は休講とします。

##### (1) 災害発生時の休講

・次のいずれかに該当する場合、授業は休講とします。なお、連絡はUNIPAで行います。

①暴風警報が千葉県北西部に発令された場合。

②地震・台風等により京成本線（京成船橋～京成成田）・JR 成田線（佐倉～佐原/成田～我孫子）・JR 総武本線（千葉～佐倉）のいずれかが、全面または部分を問わず運行停止（予定）となった場合。但し、事故等によりダイヤが乱れ運行本数を減らしている場合、バス等により振替輸送が実施されている場合は運行しているものとみなす。  
また、暴風警報以外の警報（大雨警報など）は、休講の対象にはなりません。

##### (2) 定期試験の実施について

・定期試験についても原則としてこの休講措置を準用しますが、暴風警報が解除された場合及び京成本線（京成船橋～京成成田）・JR 成田線（佐倉～佐原/成田～我孫子）・JR 総武本線（千葉～佐倉）の運行が再開された場合は、次の基準により定期試験を行います。

①午前 7 時の時点で暴風警報が解除された場合及び運行が再開されている場合は、平常通り定期試験を行います。

②午前 11 時の時点で暴風警報が解除されていないか、または運行が再開されていない場合は、全ての定期試験を中止します。

③午前 7 時～午前 11 時までの間は、それぞれの試験開始時間の 2 時間前の時点における暴風警報・運行状況に拠ります。

##### (3) 気象情報、災害等の状況によっては、前日の時点で休講の判断を行うことがあります。



### 3-8-2 休講措置の解除

---

暴風警報が解除された場合及び京成本線（京成船橋～京成成田）・JR 成田線（佐倉～佐原/成田～我孫子）・JR 総武本線（千葉～佐倉）の運行が再開された場合は、次の基準により授業を再開します。

- ①午前 7 時の時点で暴風警報が解除された場合及び運行が再開されている場合は、平常通り授業を行います。
- ②午前 8 時 30 分の時点で暴風警報が解除された場合及び運行が再開されている場合は、2 時限目から授業を行います。
- ③午前 11 時の時点で暴風警報が解除された場合及び運行が再開されている場合は、3 時限目から授業を行います。
- ④午前 11 時の時点で、暴風警報が解除されていないか、または運行が再開されていない場合は、全ての授業を休講とします。

### 3-8-3 オンライン授業、ICT 授業の扱い

---

いずれかのキャンパスが休講措置を講じた場合の遠隔授業の取り扱いについては以下のとおりとします。

- 遠隔授業の送信側キャンパス（教員がいるキャンパス）が休講措置を講じた場合、当該授業は、全キャンパスにおいて休講とする。
- 遠隔授業の受信側キャンパス（教員がいないキャンパス）が休講措置を講じた場合、当該授業は、休講措置をとったキャンパスのみ休講とし、他のキャンパスでは通常通り授業を実施する。

### 3-8-4 休講措置に関する情報の周知

---

- 休講措置を決定した場合または休講措置を解除した場合、事務局から、UNIPA のメール配信により速やかに周知します。
- 原則として、電話での問い合わせには応じられません。
- 適宜、キャンパス内の掲示板および入口等への掲示、校内放送（授業中であっても緊急連絡）により周知します。

### 3-8-5 休講措置を講じた授業科目等の扱い

---

休講措置を講じた授業科目については、各授業担当教員の判断により後日補講等を行います。  
なお、休講措置を講じない授業科目であっても自然災害の影響や公共交通機関の運休等のやむを得ない事情により授業を欠席した者については各授業担当教員の判断により受講上の不利益にならないよう配慮します。

### 3-8-6 学外における実習等の扱い

---

学外実習における実習等の中止については、当該実習の担当教員が当該学科長と協議のうえ、学科長が判断できるものとします。なお、実習先との調整と連絡、学生への連絡は当該学科より行います。また、実習先より中止の連絡があった際は、当該学科へ報告し指示に従ってください。

### 3-8-7 その他

---

その他、不測の事態が発生した場合は適宜対応を決定し、UNIPA 等を通じて連絡します。

#### CHECK

緊急時の連絡をスマートフォンなどの携帯端末で受け取れるよう、UNIPA のメールの転送設定をしましょう！転送されない場合、早めに相談。

## 3-9 授業を受講するうえでの留意事項

---

### 3-9-1 学生の本分に反する行為の禁止

---

学修上、次のような行為は学生の本分に反する行為として処分されることがあります。大学生としての自覚を持ち、十分注意してください。

- 授業内試験や小テスト等における不正行為
- レポート課題等を作成する際に他者の成果を盗用するといった不正行為
- 授業において、代返（授業を欠席したにもかかわらず、他の学生に出席確認を依頼することまたは引き受けること）等出席確認の際の不正行為
- 受講時のマナーに反する行為
  - ア. 授業中の私語
  - イ. 授業中、担当教員の許可なく入退室を行う行為
  - ウ. 授業中、携帯電話やスマートフォン、タブレット端末、ノートパソコン等の電子機器を授業以外の目的で使用する行為
    - ※担当教員の指示や許可が無い場合はこれらの機器を使用することは禁止です。
  - エ. 授業中、担当教員の許可なく飲食をする行為

### 3-9-2 授業の録音、撮影、Web 掲載等の禁止

---

- 科目担当責任者の許可なく、授業の録画や録音、講義資料の撮影を行うことを禁止します。やむを得ない事情により、授業の録画や録音、講義資料の撮影を必要とする場合は学務窓口まで申し出てください。
- 授業の映像・音声、講義資料等をWebやSNSなど、インターネット上で閲覧できるようにすることを禁止します。

### 3-9-3 受講時の合理的配慮

---

本学では障害等のある学生に対し、授業等における情報保障や施設のバリアフリー化を推進しています。障害等により合理的配慮を必要とする学生は、学生課に相談してください。

### 3-9-4 学生による授業評価アンケート

---

(1) 授業評価アンケートの目的

授業評価アンケートは授業の質の向上、延いては大学全体の教育の質の向上を図ることを目的として実施します。なお、目的達成のためには教員各人の教育力の向上も必須であることから、授業評価アンケートの集計結果は各科目担当教員へのフィードバックはもちろんのこと、各科目を所管する学科長・センター長にも情報を提供することとし、授業の質的向上、改善を大学全体として図ります。

(2) 対象科目

開講科目全科目（通年、前期・後期、必修・選択のすべて）

(3) 集計結果の公開

授業評価アンケートの集計結果は学期ごとに UNIPA で学生に公開します。

(4) その他

授業評価アンケートは、授業の質的向上、改善の目的にのみ利用するものであり、科目の成績評価には一切影響しません。また、学生個人が特定され不利になるようなこともありませんので、自身の責任で率直な意見を表明してください。

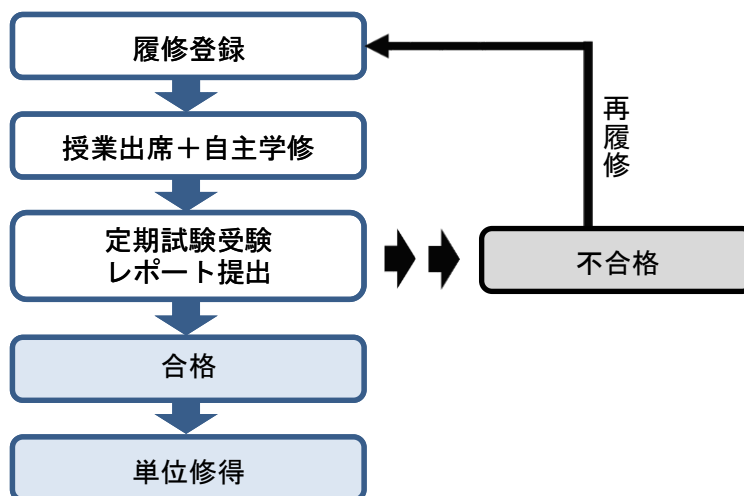
なお、アンケートの自由記載欄に、アンケートの趣旨から逸脱した誹謗中傷および人格や個性（容姿、国籍等）に対する差別的記述は絶対にしてはいけません。真摯に誠意ある記述をするよう心掛けてください。

## 4 科目履修

### 4-1 履修方法

#### 4-1-1 履修登録から単位修得までの流れ

大学では、自らの責任において履修計画を立て、履修を希望するすべての科目を所定の履修登録期間に履修登録する必要があります。



#### 4-1-2 履修登録

- 履修を希望するすべての科目は、所定の履修登録期間に履修登録しなければなりません。履修登録は必ず学生自身が責任を持って各自で行ってください。病気等により所定の期間内に履修登録が困難な場合には、必ず事前に学務窓口まで連絡し指示を受けてください。
- 履修登録期間に登録しなかった科目は、授業に出席し、試験を受けても単位を修得することはできません。
- 履修登録期間には、学内掲示板に履修登録に関する注意事項が掲示されますので、必ずよく確認してください。
- 履修登録はUNIPAにて行います。履修登録の方法は「F.資料集」の「3-1.「UNIVERSAL PASSPORT」操作説明書」を確認してください。
- UNIPAで履修登録をした際、必ずエラーが出ていないかを確認してください。万が一エラーが出ている場合は、指示内容を確認し、エラーを解消してください。
- 履修登録完了後は必ず学生時間割表を印刷し、保管してください。履修登録の証明になります。スクリーンショットや写真は証明として認めません。履修登録期間中は、登録の変更が可能です。変更をした際はその都度学生時間割表を印刷し、最新版を手元に保管してください。

### 4-1-3 履修登録期間

履修登録は、登録・取消できる期間が定められています。期間は年度によって異なります。日程は年度当初に事務局より連絡しますので、履修登録を怠ることがないように十分注意してください。

#### <履修登録期間概要>

時期	登録期間区分	登録・取消内容	手続方法
4月初旬～ 4月中旬	年間履修登録期間	<u>当該年度に履修するすべての科目を登録する期間。</u> 1年間の履修計画を立て、登録漏れのないようにすること。	UNIPA
5月末～ 6月中旬	前期後半選択科目 履修登録取消期間	4月に履修登録した科目のうち、 <u>前期後半から開講する選択科目についてのみ、登録を取り消すことができる期間。</u>	学務窓口 オンライン窓口
9月下旬～ 10月初旬	後期選択科目 履修登録変更期間	4月に履修登録した科目のうち、 <u>後期に開講する選択科目の登録を取り消したり、新たに追加したりすることができる期間。</u>	UNIPA
11月中旬～ 12月初旬	後期後半選択科目 履修登録取消期間	履修登録した科目のうち、 <u>後期後半から開講する選択科目についてのみ、登録を取り消すことができる期間。</u>	学務窓口 オンライン窓口

\*履修登録期間は授業期間です。履修登録期間の授業は授業回数に含まれます。選択科目は授業に出席した後で履修を継続するかどうかを決定することができます。一度履修登録した科目の履修を削除する場合は、必ず履修登録期間内に手続きを完了してください。

\*履修登録を変更した場合は、必ず UNIPA から学生時間割表を印刷し、各自保管してください。

### 4-1-4 進級および卒業に必要な単位

学部・学科ごとに、進級や卒業に必要な単位数や修得する必要がある必修科目、選択科目、進級条件や卒業要件が定められています。履修登録をするにあたって、必ず、「D.履修ガイド」の「7.進級と卒業」や「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を確認してください。

#### 4-1-5 科目等履修条件

---

授業科目によっては履修条件があり、条件によっては履修できない場合もあります。履修登録を行う際には十分注意してください。

- 科目には、履修学年の指定があります（配当年次）。指定以外の学年では原則履修できません。
- 同じ名称の授業科目でも、学科により履修可能な曜日時限が異なる場合があります。時間割表やシラバスで対象学科を確認のうえ、履修してください。
- 科目を履修するうえで条件が設定されていることがあります。また、学修の順序性を保つために、各学科において指定した科目の単位を修得しなければ履修できない科目があります。必修科目については「D.履修ガイド」の「8.学部・学科ポリシー／卒業要件／履修科目一覧」を、総合教育科目についてはシラバスを確認してください。
- 外国語系科目は、学科により、英語の必修科目と英語以外の外国語系の選択科目から所定の単位数を修得することが卒業の条件となる場合があります。所属する学科の外国語系科目の履修条件を確認してください。
- 外国語系科目の中で、日本語科目は留学生のための履修科目（留学生以外の履修は不可）です。

#### 4-1-6 科目の履修者数の制限／クラス分け

---

- 科目によっては、履修登録できる人数を制限することがあります。制限人数を超えた際は、抽選等の方法によって履修者を決定します。抽選等により履修者を決定する場合、履修登録期間の途中でも履修を締め切ることがあります。詳細は事務局からの連絡を確認してください。
- 同じ学科・学年であってもクラス分けなどが行われ、履修する曜日や時限が異なる場合があります（例：英語科目）。事務局からの連絡で自分がどのクラスになるかを確認し、履修登録に漏れのないよう十分注意してください。

#### 4-1-7 年間履修登録単位数の上限（キャップ制）

---

##### (1) キャップ制

「キャップ制」とは、学修の質および学修時間の確保のため、年間履修登録単位数の上限を定める制度のことをいいます。

本学では、単位制度を実質化（1単位あたり必要な45時間の学修時間を確保）し、学修すべき授業科目を精選することで、十分な学修時間を確保し、授業内容を深く身に付け、各学期にわたって適切に授業科目を履修することにつながるためキャップ制を導入しています。

##### (2) キャップ制による単位数の制限

原則として年間履修登録単位数は**50単位未満**とします。

ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生（直前の学期のGPA値※が3.00以上の場合）については、前期の年間履修登録期間または後期選択科目履修登録変更期間に学務窓口に履修単位数上限変更願を提出し、大学が認めた場合、履修単位数の上限を54単位とすることができます。

※GPAについては「D.履修ガイド」の「6.成績」を参照してください。

##### (3) キャップ制の対象となる単位

キャップ制の対象となる単位は、「卒業要件単位に含まれるすべての単位」とします。

ただし、以下の単位については、キャップ制の上限に含まないものとします。

- 海外保健福祉事情にかかわる授業科目の単位
- 本学が認定した単位（他の大学・短期大学等で修得した授業科目の単位認定や、TOEIC・英検による単位認定、外国人のための日本語テストによる日本語科目の単位認定、放送大学との単位互換協定による単位認定など）
- 再履修科目の単位
- 卒業要件に含まない科目の単位



#### 4-1-8 メディアを利用して行う授業科目の修得単位数の上限

---

- 同時双方向型授業やVOD授業など、メディアを利用して行う授業の回数が、全開講回数  
の半数以上となる授業科目を「メディアを利用して行う授業科目」といいます。
- 「メディアを利用して行う授業科目」により修得する単位数は、60単位を超えない範囲  
で履修するものとします。

#### 4-1-9 再履修

---

- 単位を修得できなかった科目（不合格の科目）は次学期もしくは次年度、再履修するこ  
とができます。
- 再履修しようとする場合は、改めて履修登録のうえ、授業に出席し、試験を受けなけ  
ればなりません。
- 現学年の必修科目と再履修しなくてはならない科目が同時限開講になる場合もあり、次  
年度もしくは次学期に必ず再履修できるとは限りません。特に必修科目は該当年次で単  
位を修得するように努めてください。

#### 4-1-10 他学科の授業科目の履修

---

- 他学科の授業科目を自学科の必修科目や学科から指定された科目と重複しない時限であ  
れば履修することができます。
- 他学科の授業科目を履修しようとする場合は、「他学科科目履修願」を学務窓口に提出し  
てください。

#### 4-1-11 授業の聴講

---

履修登録した科目以外の科目であっても、聴講するに正当な理由として認められ、あらかじめ担当教員の許可を得て聴講することができます。ただし、成績の評価を受けることはできず、単位も修得できません。

#### CHECK

UNIPAで履修登録をする際に、エラーを解消せずにいると、1年間の履修がすべて登録されず単位が修得できないこともあります。必ず確認してください。

#### 4-1-12 履修計画および履修登録時の留意事項

---

- 「D.履修ガイド」の「8.学部・学科ポリシー／卒業要件／履修科目一覧」をよく確認し、進級や卒業に必要な科目や単位数を確認してください。
- 進級と卒業に必要な単位および学修時間を考慮したうえで、当年度の時間割表を確認し、一年間で履修登録する授業科目について計画を立ててください。
- 必修科目は必ず修得しなければならない単位です。指定された年次（配当年次）に、必ず履修してください。
- 学科で履修指導されている選択科目がある場合、配当年次に履修してください。
- 上級年次に開講されている科目は原則として履修できません。
- 必修科目および学科指定の選択科目が入っていない時間帯に、修得したい選択科目を履修してください。選択科目は当該年度では履修登録ができて、次年度以降履修できるとは限りません。十分検討したうえで履修計画を立て、単位を修得するよう努めてください。
- 科目によっては、「履修のための条件」や「クラス」が定められていることがあります。シラバスや事務局からの連絡での指示事項、時間割表を確認してください。また授業中に担当教員から「履修のための条件」について指示される場合は、その内容に従ってください。
- 登録できる上限単位数が決められています。無理のない範囲で履修してください。
- 科目によっては、履修者数を制限することがあります。
- 履修希望者が所定の人数に満たない選択科目は開講しない場合があります。
- 国家試験等の受験資格を得るために必要な科目は、選択科目であっても必ず履修してください。必要な科目については学科のオリエンテーションや「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を参照してください。
- 総合教育科目を選択する場合、6つの系統別に選択すべき単位数が定められている場合があります。「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を参照し選択科目の系統が偏らないように気を付けてください。履修登録科目に迷う場合は、学科の担当教員に相談してください。
- 外国語系科目は、学科により、英語の必修科目と英語以外の外国語系の選択科目から所定の単位数を修得することが卒業の条件となる場合があります。所属する学科の外国語系科目の履修条件を確認してください。
- 外国語系科目の中で、日本語科目は留学生のための履修科目（留学生以外の履修は不可）です。
- UNIPA で履修登録をした際、必ずエラーが出ていないかを確認してください。万が一エラーが出ている場合は、指示内容を確認し、エラーを解消してください。
- 履修登録完了後は必ず学生時間割表を印刷し、保管してください。履修登録の証明になります。スクリーンショットや写真は証明として認めません。履修登録期間中は、登録の変更が可能です。変更をした際はその都度学生時間割表を印刷し、最新版を手元に保管してください。

## 4-2 単位認定制度

### 4-2-1 本学における単位認定制度の概要

本学に入学前もしくは入学後在籍中に、他大学等で修得した授業科目や大学以外の教育施設における学修等は、一定の基準に基づき、本学において修得した卒業に必要な単位として認定されます。

本学において行われている単位認定制度の種類は以下のとおりです。

- (1) 入学前の既修得単位等の認定
- (2) 「TOEIC または英検」による英語科目の単位認定
- (3) 「外国人のための日本語テスト」による日本語科目の単位認定
- (4) 「放送大学で修得した単位互換協定科目」の単位認定

### 4-2-2 単位認定で申請対象となる科目と認定単位数の上限

- 本学の科目すべてが申請対象となります。ただし、資格試験受験のための必須科目は、認定校での履修のみを条件としており、他大学での修得単位では認められない場合があります。
- 単位認定の種類により、認定科目、認定基準、認定の上限単位数が異なります。
- 入学前に大学、短期大学等、その他文部科学省で定める学修（大学以外の教育施設等における学修）で修得した単位は、60単位を超えない範囲で認定されます。
- 入学後に他大学、短期大学等、その他文部科学省で定める学修（大学以外の教育施設等における学修）で修得した単位は、30単位を超えない範囲で認定されます。
- 入学前に修得した単位および入学後に修得した単位を合わせて60単位を超えない範囲で認定するものとします。

### 4-2-3 単位認定制度に関する留意事項

- 単位認定が許可された場合、成績評価は「認定」となります（単位認定科目の成績はGPA<sub>※</sub>算出の対象には含まれません）。  
※GPAについては「D.履修ガイド」の「6.成績」を参照してください。
- 履修登録した科目の認定申請は可能ですが、申請結果より先に本学での成績が確定した場合、不可の場合を除き、本学での成績が優先されます。
- 履修登録科目を認定申請した場合、認定許可を確認するまでの間は必ず申請した授業に出席してください。
- 認定申請の結果、不許可となった科目の再申請はできません。
- 単位認定の審査結果は掲示もしくは個別に本人へ通達します。許可、不許可の理由は回答しません。

## 4-2-4 単位認定制度の詳細

---

### (1) 入学前の既修得単位等の認定

#### ① 制度概要

本学に入学する前に大学、短期大学、高等専門学校又は大学設置基準第 29 条第 1 項の規定による専修学校において履修した授業科目について修得した単位（本学科目等履修制度により修得した単位を含む）を、60 単位を超えない範囲で、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、卒業要件単位に算入することができます。

#### ② 申請手続き

- 既修得単位の認定を受けようとする場合は、所定の提出期間内に次の書類を学務窓口へ提出し、審査を受けてください。申請書の記載漏れや申請書類の不備は申請無効となります。
  - ア. 「既修得単位認定申請書」（本学所定様式・学務窓口で配付）
  - イ. 「成績証明書」（大学、短大等の発行で厳封されたもの）
- 申請期間は事務局より周知します。所定の提出期限を厳守してください。期限後の提出は一切認めません。  
注) 申請期間は、前期の年間履修登録期間のみ年 1 回
- 審査結果は個別に本人へ通達します。許可、不許可の理由は回答しません。

#### ③ 注意事項

- 本学の科目すべてが申請対象となります。
- 単位認定申請は原則として申請科目 1 科目に対し認定科目 1 科目で申請してください。既修得単位認定申請書は 1 科目につき 1 枚使用し必要項目をすべて記入してください。
- 他大学等で修得した同一の既修得単位科目を複数の認定希望科目に申請した場合、すべての申請を無効とします。また、認定申請の結果、不許可となった科目の再申請はできません。
- 既修得単位認定は、大学や短期大学等で単位修得した科目の単位数が本学で認定申請しようとする科目（本学の科目で認定申請予定）の単位数以上であり、かつ授業内容が本学の内容と一致し、申請者がその内容について十分に理解しているとみなされたものに限り認められます。
- 申請にあたり、科目内容の理解度は審査の際の大きな判断材料となります。よって、修得した科目の授業概要や内容を自身の表現で申請書に記載する必要があります。記入漏れがあるものや、明らかに要項等を書き写したもの、項目のみを羅列したものなどは認められませんので注意してください。
- 他の大学等で修得した英語科目の単位は単位認定申請をすることができません（本学に過去在籍していた者で、在学中に本学の英語科目を履修し単位を修得していた場合は、再入学後に英語の単位認定申請が認められます）。

(2) 「TOEIC または英検」による英語科目の単位認定

① 制度概要

- TOEIC または英検を受験するための学修は、大学設置基準第 29 条「大学以外の教育施設等における学修（その他文部科学大臣が別に定める学修）」として、獲得した TOEIC の得点または英検の等級により、指定した英語科目の単位を本学における授業科目の履修により修得したものとみなします。
- TOEIC または英検による英語科目の単位認定は在学期間中、合計 2 回、最大 3 単位までの単位認定を申請することが可能です。

② 単位認定基準

- 英語科目の単位認定申請は、単位認定を申請する日以前の 1 年間に取得した TOEIC の得点または英検の等級いずれかに基づき、各学期 1 件のみ申請することが可能です。

【TOEIC の得点による単位認定基準】

マークシート方式による TOEIC® Listening & Reading Test のスコアを単位認定の対象とします（公開テスト、IP テストいずれも可。）。

▼1 回目の申請

基準	単位数
550 点～645 点	1 単位
650 点以上	2 単位

▼2 回目の申請

1 回目の申請基準・スコアよりも高得点である場合に限り、2 回目の申請を行うことが可能です。2 回目の申請による認定単位数は以下のとおりです。

1 回目申請時の基準	⇒	2 回目の申請基準	単位数
550 点～645 点の場合	⇒	650 点以上	1 単位
	⇒	英検準 1 級	1 単位
	⇒	英検 1 級	2 単位
650 点～745 点の場合	⇒	750 点以上	1 単位
	⇒	英検 1 級	1 単位
750 点以上の場合	⇒	1 回目の申請得点より 高得点であること	1 単位
	⇒	英検 1 級	1 単位

【英検の等級による単位認定基準】

実用英語技能検定（英検）準 1 級以上を単位認定の対象とします。

▼1 回目の申請

基準	単位数
英検準 1 級	1 単位
英検 1 級	2 単位

▼2回目の申請

1回目の申請基準・スコアよりも上位階級を取得した場合に限り、2回目の申請を行うことが可能です。2回目の申請による認定単位数は以下のとおりです。

1回目申請時の基準	⇒	2回目の申請基準	単位数
英検準1級	⇒	英検1級	2単位
	⇒	TOEIC 550点～645点	1単位
	⇒	TOEIC 650点～745点	2単位
英検1級	⇒	TOEIC 750点以上	1単位

③ 単位認定対象科目

TOEIC または英検による単位認定の対象となる英語科目は次のとおりです。

単位認定を申請する科目は、下記対象科目の中から申請者自身が選択してください。

ただし、申請できる科目は、申請時の学年で履修できる科目のみとなります。

1年次後期より申請することができます。

学部	単位認定対象科目
成田看護学部	英語講読 2 (Basic)
成田保健医療学部	英語 CALL2 (Basic) ※
成田薬学部	英語講読 3 (Intermediate)
	英語講読 4 (Advanced)

※「英語 CALL2 (Basic)」の認定を受けた学生は「上級英語会話 2 (総合)」を1年次後期に履修することを推奨します。

④ 申請手続き

- 英語科目の単位認定を受けようとする場合は、所定の提出期間内に次の書類を学務窓口へ提出し、審査を受けてください。申請書の記載漏れや申請書類の不備は申請無効となります。
  - ア. 英語科目単位認定申請書 (学務窓口で配布)
  - イ. TOEIC L&R スコアレポートまたは英検合格証明書 (コピー不可、必ず原本提出すること。後日返却)
- 申請期間は事務局より周知します。所定の提出期限を厳守してください。期限後の提出は一切認めません。
 

注) 申請期間は、前期の年間履修登録期間および後期の履修登録変更期間の年 2 回
- 審査結果は個別に本人へ通達します。

⑤ 注意事項

- 申請可能な回数は各学期 1 件のみ、計 2 回までです。
- 認定可能な単位数は、1 回の申請につき 1～2 単位 (合計 3 単位まで) となります。
- 申請日から 1 年以内を取得した得点・等級でなければなりません。
- 1 回目の申請に利用した試験結果を 2 回目の申請にも利用することはできません。
- 認定対象となる科目や単位数は、各科目の履修基準年度に準じて申請者自身が選択できます。

### (3) 「外国人のための日本語能力テスト」による日本語科目の単位認定

#### ① 制度概要

- 外国人のための日本語能力テストを受験するための学修は、大学設置基準第 29 条「大学以外の教育施設等における学修（その他文部科学大臣が別に定める学修）」として、獲得した得点により、指定した日本語科目の単位を本学における授業科目の履修により修得したものとみなします。
- 外国人のための日本語能力テストは、次の試験が対象となります。  
「日本語能力試験（JLPT）」（注 1）、「BJT ビジネス日本語能力テスト」（注 2）
- 外国人のための日本語能力テストによる日本語科目の単位認定は「日本語能力試験」「BJT ビジネス日本語能力テスト」それぞれ 1 回のみとし、最大 2 単位までの単位認定を申請することが可能です。

#### ② 単位認定基準および単位認定対象科目

- 外国人のための日本語能力テストによる認定単位数は以下のとおりです。
- 単位認定を申請する日以前の 1 年間に取得した得点を認定対象とします。

	日本語能力試験 N1	BJT
スコア	120 以上	J1+（600 以上）
単位数	1	1
対象科目	・ 日本語 I -A（文法・表現） ・ 日本語 I -B（記述） ・ 日本語 I -C（読解） ・ 日本語 I -D（会話）	・ 日本語 I -A（文法・表現） ・ 日本語 I -B（記述） ・ 日本語 I -C（読解） ・ 日本語 I -D（会話）

（注 1）日本語能力試験（独立行政法人国際交流基金、公益財団法人国際教育支援協会 主催）

（注 2）BJT ビジネス日本語能力テスト（公益財団法人日本漢字能力検定協会 主催）

#### ③ 申請手続き

- 日本語科目の単位の認定を受けようとする場合は、所定の提出期間内に次の書類を学務窓口へ提出し、審査を受けてください。申請書の記載漏れや申請書類の不備は申請無効となります。  
ア. 日本語科目単位認定申請書（学務窓口で配布）  
イ. 次のいずれかの「外国人のための日本語能力テスト」の成績表（コピー不可、必ず原本提出すること。後日返却）
  - ・ 日本語能力試験の成績表（原本）
  - ・ BJT ビジネス日本語能力テストの成績表（原本）
- 申請期間は事務局より周知します。所定の提出期限を厳守してください。期限後の提出は一切認めません。  
注）申請期間は、前期の年間履修登録期間および後期の履修登録変更期間の年 2 回
- 審査結果は個別に本人へ通達します。

#### (4) 「放送大学で修得した単位互換協定科目」の単位認定

##### ① 制度概要

- 本学は放送大学と単位互換協定を結んでいるため、本学入学後に放送大学の授業科目を履修し修得した単位は 30 単位を超えない範囲で、本学の単位として認定することができます。ただし、本学の卒業に必要な単位への算入は 6 単位までとします。
- 本学入学後に他の大学・短大等において履修した授業科目について修得した単位の認定がある場合は、放送大学で修得した単位を合わせて 30 単位を超えない範囲で、本学の単位として認定されます。ただし、放送大学の単位互換制度による履修科目の本学の卒業に必要な単位への算入は、6 単位までとします。
- 放送大学と単位互換協定により単位を認定された科目は、総合教育科目の各区分（人間系科目、社会系科目、自然・情報系科目、総合系科目、外国語系科目）のいずれかに含まれます。

##### ② 単位互換協定科目および放送大学の特別聴講生の申請等について

- 放送大学は、テレビやラジオ、インターネットで授業を行う正規の大学（通信制）であり、18 歳以上であれば学歴等を問わず誰でも受講できます（受講には 1 単位あたり別途受講料が必要です）。
- 放送大学の授業科目を履修するには、所定の期間に特別聴講生として申請する必要があります。申請方法や単位互換協定科目、受講申込期間は事務局より案内します。なお、年度により日程や単位互換協定科目が異なりますので、履修を希望する場合は学務窓口で必ず確認してください。
- 放送大学の単位認定試験は放送大学が指定する方法で各自受験してください。

##### ③ 留意事項

- 単位認定対象科目は、本学に入学後、放送大学の単位互換制度により修得した単位のみが対象となります。
- 放送大学の単位互換制度による単位認定は、講座受講の申し込みにより単位認定申請とみなされます。



## 5 試験

単位を修得するにあたって、各学期末に試験期間を設けて定期試験を実施します。ただし、授業科目によっては、この期間外に行うこともあります。

### 5-1 試験の種類および形式

本学では主な試験を次のように分類しています。

試験の種類	内容
定期試験	学期末に期間を定めて実施される試験
追試験	やむを得ない理由（天災、公共交通機関の遅れ、病気等）により定期試験を受けられなかった者に実施される試験
再試験	成績が合格点に達しなかった場合に行う試験 原則として実施しない。ただし、必要に応じて科目担当教員等の判断により行う場合がある。

試験は、主に筆記試験、面接(口頭)試験、レポート提出または実技のいずれか、または複数の形式を用いて行われます。試験の形式は授業科目によって異なりますので、詳細はシラバスや教員の指示を確認してください。

### 5-2 受験資格

- 受験できる科目は、履修登録をしている科目に限られます。
- 出席時間数が授業時間数の3分の2に達しない授業科目については、当該授業科目に係わる定期試験を受験することができません。また、定期試験に代えて、論文や報告書（レポート）の提出が課されている場合は、当該授業科目の定期試験に代わる論文、報告書（レポート）を提出することはできません。
- 実験・実習・実技など、特に出席を重視する科目においては、必要とされる出席時間数が上記とは別に定められることがあるので、科目担当教員の指示に従ってください。
- その期の学生納付金未納者は、定期試験を受験できない場合があります。

### 5-3 試験の実施時期

- 定期試験は原則として、前期末（7月）と後期末（1月）の一定期間に実施します。
- 前期前半科目や後期前半科目は、定期試験期間とは別に試験を行う場合があります。
- 前後期にわたる通年の授業科目については、前期の終わりに定期試験に準じた試験を行う場合があります。
- 定期試験期間中は原則通常の授業を行いません。
- 科目によっては、授業期間内に試験を行うことがあります。教員の指示または事務局から連絡されますのでよく確認してください。

### 5-4 試験時間

定期試験期間は次の時間帯で試験を実施します。通常の授業時間とは異なりますので注意してください。

時 限	試験時間帯	時 間
1 時限	9 : 30 ~ 10 : 30	[60 分]
2 時限	10 : 50 ~ 11 : 50	[60 分]
3 時限	13 : 00 ~ 14 : 00	[60 分]
4 時限	14 : 20 ~ 15 : 20	[60 分]
5 時限	15 : 40 ~ 16 : 40	[60 分]
6 時限	17 : 00 ~ 18 : 00	[60 分]

### 5-5 試験に関する注意事項

#### 5-5-1 成績評価に係る試験受験上の注意事項

試験を受験する時は次のことに注意してください。

- 試験は、授業の時と異なる教室、曜日、時限で実施することがあります。学内掲示板に掲示される試験時間割表を確認してください。
- 試験室では監督者の指示に従ってください。
- 定期試験（定期試験に準じるものも含む。）追試験、再試験において、いかなる理由であっても不正行為や不正行為と受け取られる行為をしてはいけません。不正行為を行った場合、その期に履修登録した科目の成績がすべて不可となります。
- 試験当日は学生証を持参し、机上の指示された側に置いてください。学生証の提示がない

場合は受験できません。万が一学生証を忘れた、または当日紛失した場合は、証明書発行機にて「仮学生証」(当日限り有効)を発行してください(仮学生証については「B.大学生活を送るにあたって」の「4-3 学生証の再発行と仮学生証の交付」を参照してください)。

- 試験開始後20分までは入室を認めます。なお、試験開始後20分を過ぎた場合は入室を認めず、欠席扱いとします。
- 試験開始後30分から試験終了5分前までは原則として退出を認めます。
- 事前に持ち込みを許可された物以外は、机の上に置くことはできません。
- 試験室に入室後は携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等のウェアラブル端末、音の出る電子機器等は、アラームを解除してから電源を切り、カバンの中に入れてください。机の上にて時計として使用したり、身に付けて受験したりすることはできません。
- 公共交通機関の遅れ等で受験できなかった場合は、追試験の申請をすることができます(申請方法については「D.履修ガイド」の「5-6 追試験」を参照してください)。

### 5-5-2 レポート課題に関する注意事項

---

- レポート課題は、授業内やGoogleClassroomで、教員から課題および提出方法について説明されます。また、事務局から連絡する場合があります。
- 提出方法については教員の指示した方法を厳守してください。指定した方法でない場合、未提出扱いになることがあります。
- レポート課題の提出期限は時間厳守となります。提出期限に遅れた場合、提出することはできません。
- レポート課題提出後に差し替え、本文への加筆等は認められませんので注意してください。

### 5-5-3 不正行為

---

- (1) 定期試験において、いかなる理由であっても不正行為や不正行為と受け取られる行為をしてはいけません。不正行為を行った場合、その期に履修登録した科目の成績がすべて不可となります。
- (2) 以下のいずれかの行為を行った場合、不正行為とみなすことがありますので注意してください。
  - 他人の答案を見ること、又は故意に答案を見せること
  - 他人に答案を代筆させること、又は答案を代筆すること
  - 他人と答案を交換すること
  - 他人に代理で受験させること、又は代理で受験すること
  - 持ち込みが許可されていない参考資料等を用いて答案を作成すること
  - 書き込みが許可されていない持ち込み資料に書き込みをして参照すること
  - 持ち込みが許可されたものを、試験時に他の受験者と共有して使用すること
  - カンニングペーパー、机上・手掌・所持品等への書き込み、又はこれに類するものを

用いて答案を作成すること

- 言語、合図、動作、その他の方法で意思伝達を行い、他人と相談して答案を作成すること
- 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、パソコン、電子辞書等の情報通信機器を使用すること。又はそれらを身に着けたまま受験したり、指示された以外の場所・状態で保管したりすること（それらの機器を教室に持ち込む場合は必ずかばんの中に入れておかなければならない）
- 要回収の試験問題、解答用紙を試験場外に故意に持ち出すこと
- 試験監督者の指示、注意に従わない行為
- レポート等の作成において、他人の著作物・情報を盗用する行為やインターネット上の情報等を参照又は引用したにも関わらず、引用箇所の明示や出典の記載がなく、自らの考えとしてそのまま記載すること
- 他人が作成したレポートを模倣、又は転記し、自らの考えとして記載すること
- 他人に依頼もしくは人工知能（A I）技術その他の情報技術による文書作成機能等により作成されたレポートを、自らが作成したレポートとして提出すること（当該文書作成機能等による作成について、許可された場合を除く）
- 自らが作成したレポートを他人に提供し、盗用する機会を与えること
- 前各号に定める他、定期試験等の公正な実施及び成績評価を阻害すると認められる一切の行為

## 5-6 追試験

---

追試験とは、やむを得ない理由により定期試験を受けられなかった者に実施される試験のことをいいます。

### 5-6-1 追試験の受験資格

---

疾病、事故、忌引き、公共交通機関の遅れ等、やむを得ない理由により定期試験を欠席した者で、追試験の申請手続きを行い、これを認められた者は追試験を受験することができます。

### 5-6-2 追試験の申請

---

#### (1) 追試験の申請方法

やむを得ない理由によって定期試験を欠席し、追試験を希望する場合は、欠席の理由を証明できるものを添えて学務窓口またはオンライン窓口へ「追試験申請書（本学所定用紙）」を提出してください。

「欠席の期間とその理由を証明できるもの」  
医師の診断書、遅延証明書、事故証明書、葬儀が行われたことがわかる文書（会葬礼状等）

#### (2) 追試験の申請期限

やむを得ない理由によって試験を欠席した日から4日以内（欠席した日を含め5日以内）に学生本人が申請してください。やむを得ない事情により所定の期日までに、申請ができない場合は教務課へ連絡してください。

何らかの事情で本人が申請できない場合には代理人の申請も許可します。ただし、代理人の過失等で申請できなかった場合の特別な配慮は行いません。

### 5-6-3 追試験による試験の成績

---

追試験を受験した場合の試験の成績評価は90点を上限とします。

## 5-7 再試験

---

再試験とは、定期試験において成績が合格の基準を満たさなかった場合に行われる試験のことをいいます。

### 5-7-1 再試験の実施

---

再試験は、原則として行いません。ただし、必要に応じて科目担当教員等の判断により行うことがあります。

### 5-7-2 再試験の受験資格

---

定期試験を受験し合格の基準を満たさなかった者で、科目担当教員等が許可した者に限り再試験を受験することができます。

### 5-7-3 再試験対象者の発表と申請

---

- 再試験の実施については、定期試験後、実施科目、試験内容、再試験対象者をUNIPAにて連絡します。
- 再試験対象者は、指定された申請期間内に、「再試験願」を証明書発行機で購入のうえ（1科目につき2,000円）教務課に提出してください。

### 5-7-4 再試験申請時の注意事項

---

- 再試験の申請期間をUNIPAで必ず確認し、申請漏れがないように注意してください。
- 再試験の方法がレポートまたは面接試験など筆記試験以外の場合も再試験の申し込みを行ってください。申請期間内に申請がない場合は再試験を受験することはできません。
- 何らかの事情で本人が申請できない場合は代理人による申請も許可します。ただし、代理人の過失等で申請ができなかった場合に特別な配慮は行いません。

### 5-7-5 再試験による試験の成績

---

- 再試験で合格した場合のその科目の成績評価は「可（60点）」とします。
- 定期試験、再試験ともに不合格の場合は、定期試験の成績評価が最終評価になります。

## 6 成績

履修登録をしている科目の成績評価は、定期試験や授業期間中の修学状況等の評価により判定されます。成績判定の結果、合格になった場合は単位修得となります。

### 6-1 成績評価

- (1) 授業科目の成績の評価は、秀、優、良、可、不可の5種とし、秀、優、良、可を合格、不可を不合格とします。
- (2) 成績評価は、次の基準により行います。

評価 (和)	評価 (英)	評価 (総合得点)	合否
秀	S	100点満点法による100点から90点まで	合格
優	A	100点満点法による89点から80点まで	
良	B	100点満点法による79点から70点まで	
可	C	100点満点法による69点から60点まで	
不可	D	100点満点法による59点以下	不合格
認定	R	単位認定科目	—

- (3) 授業科目によっては、論文・報告書（レポート）の提出、平素の修学状況を試験に代える場合や、試験結果に加味する場合があります。

### 6-2 成績の発表

#### 6-2-1 成績発表の方法

成績発表は UNIPA で行われます。UNIPA による成績照会の方法については「F.資料集」の「3-1.「UNIVERSAL PASSPORT」操作説明書」を参照してください。

## 6-2-2 成績発表における注意事項

---

- 成績結果開示期間は事務局からの配信を確認してください。
- 成績結果開示期間以外は閲覧ができませんので、開示期間中に印刷し、各自保管してください。
- 成績結果は、修得科目のすべてが記載されています。次年度の履修計画を立てるための重要な資料となりますので、大切に保管してください。
- 本学は保護者にもUNIPA UserIDを付与していますので、保護者がUNIPAで成績を閲覧することができます。また、本学は保護者宛に出席状況、成績、単位修得状況等の学修の状況を通知する場合があります。

## 6-3 成績の問い合わせ

---

- 成績をよく確認し、不明点がある場合は所定の期間内に学務窓口申し出てください。成績の問い合わせ期間については、別途事務局から連絡します。

## 6-4 GPA 制度（GPA と f-GPA）

---

本学では、学生の学修意欲を高め、適切な履修指導や厳格な成績評価を推進し、学びの質を向上させることを目的として、「GPA（Grade Point Average）制度」を導入しています。

### 6-4-1 GPA と f-GPA

---

#### (1) GPA（Grade Point Average）とは

履修登録した科目の1単位あたりの成績平均値のことであり、成績基準のひとつです。

#### 【GPA 値の算出方法】

履修科目ごとの5段階評価（秀、優、良、可、不可）を4.00から0までの点数（GP：Grade Point）に置き換え、修得した授業科目の単位数を乗じ、その総和（GPT：Grade Point Total）を履修登録した単位数の合計で除して算出します。

GPA の計算式

$$\text{GPA} = \frac{[(\text{修得した単位数}) \times (\text{その科目で得たGP})] \text{の総和}}{\text{履修登録した総単位数 (不可科目含む)}}$$



(2) GPA の成績評価基準

評価 (和)	評価 (英)	評価 (総合得点)	評価基準	GP
秀	S	100～90点	学修目標をほぼ完全に達成するか、または傑出した水準に達している。	4.00
優	A	89～80点	学修目標を相応に達成している。	3.00
良	B	79～70点	不十分な点があるが、学修目標を相応に達成している。	2.00
可	C	69～60点	学修目標の最低限は満たしている。	1.00
不可	D	59点以下	不合格	0
認定	R	—	単位認定科目 (GPA 対象外)	—

注) 本学では、絶対評価<到達度評価>により成績評価を行います。

<到達度評価>

シラバス記載の「授業の到達目標」に対する達成度を得点化し、科目ごとの総合得点 (0～100点)により成績評価を行うこと。

(3) f-GPA (functional-GPA) とは

本学では、より厳正な評価方法としてf-GPA値を算出し、表彰等の一基準に用いています。

【f-GPA 値の算出方法】

f-GPA 値は、得点範囲に応じた評価に対応した点数を付与する GPA 値に対し、100点～60点まですべての総合得点に対し、0.1ポイント刻みで GP を付与し、その総和を履修登録した単位数の合計で除し算出します。この算出方法により、GPA 値よりさらに厳正な成績評価が可能となります。

f-GPA の計算式

$$f-GPA = \frac{[(\text{修得した単位数}) \times (\text{その科目で得たf-GPA用のGP})] \text{の総和}}{\text{履修登録した総単位数 (不可科目含む)}}$$

(4) f-GPA の成績評価基準

評価 (和)	評価 (英)	評価 (総合得点)	f-GPA 用の GP	GP
秀	S	100	4.50	4.00
		99	4.40	
		∫	∫	
		90	3.50	
優	A	89	3.40	3.00
		88	3.30	
		∫	∫	
		80	2.50	
良	B	79	2.40	2.00
		78	2.30	
		∫	∫	
		70	1.50	
可	C	69	1.40	1.00
		68	1.30	
		∫	∫	
		60	0.50	
不可	D	59	0	0
		∫	∫	
		0	0	

※GP < 0.5 の場合は 0 とする。

#### 6-4-2 GPA 制度の適用範囲 (算入される科目)

GPA 制度に算入される対象科目は、当該学期において履修登録したすべての科目 (成績が不可になった科目や再試験により修得した科目などを含む) が対象となります。ただし、次の科目は GPA の対象科目から除かれます。

##### 【GPA 制度の非適用範囲科目】

- 本学科目等履修生制度や他大学等で単位修得し、本学が「認定」した科目
- 他大学との単位互換協定により修得し、本学が「認定」した科目
- TOEIC・英検により、本学が「認定」した科目
- 本学が定めた「外国人のための日本語テスト」により、本学が「認定」した科目
- その他、本学が「認定」したすべての科目

### 6-4-3 GPA 制度の活用

---

本学では GPA 制度を次のとおり活用します。

- (1) 学生本人が成績、履修状況を把握し、学修を向上させる資料として（使用値：GPA, f-GPA）
  - ・成績開示期間に限り通算および年度学期別の GPA 値、f-GPA 値を UNIPA で確認できます。成績照会方法については「F.資料集」の「3-1.「UNIVERSAL PASSPORT」操作説明書」を確認してください。
- (2) 学生指導を行ううえでの教育、成績、履修指導の指標として（使用値：GPA, f-GPA）
  - ・2 学期連続して GPA が 1.5 未満で、かつ累積 GPA が 1.5 未満の学生に対し、退学勧告を行うことがあります。ただし、退学勧告は、学生が学習意欲を持ち、主体的に学習するよう、繰り返し注意や指導を行ったにもかかわらず成績向上や学業への取り組み姿勢の改善が見られない場合に行うものであり、退学を強要・強制するものではありません。
- (3) 成績優秀賞表彰のための一基準として（使用値：f-GPA）
  - ・国際医療福祉大学年間成績優秀賞の表彰者を選考する一基準として活用します。
- (4) 授業料免除のための一基準として（使用値：f-GPA）
  - ・特待奨学生の奨学金給付停止または給付停止解除の判断基準として活用します。  
特待奨学生に関する問い合わせ先：学生課
- (5) 奨学金貸与者選考のための一基準として（使用値：GPA, f-GPA）
  - ・各種奨学金のうち、学校推薦が必要な奨学金の学内推薦者を決定する判断基準の一つとして活用します。
- (6) 履修者を選抜する必要がある科目の一基準として（使用値：f-GPA）
  - ・履修者を制限している科目、履修コースの選択について、履修者を選抜するための一基準として活用する場合があります。

### 6-4-4 GPA 値および f-GPA 値の確認および通知

---

- (1) GPA 値  
成績証明書および学期ごとに UNIPA で公開される成績結果に記載されます。
- (2) f-GPA 値  
学期ごとに UNIPA で公開される成績結果に記載されます。

### 6-4-5 GPA 制度に関する留意事項

---

- 本学のGPA制度では、履修登録を行ったすべての科目がGPA算出の対象となります。よって、不可となった科目や履修を放棄した科目であってもGPA算出対象となります。再履修により合格になった場合にも、累積された不可は除外されません。
- 学科オリエンテーションでの説明やシラバスを十分に確認し、責任をもって学修計画を立案・履修登録してください。履修登録科目に迷う場合は学科の担当教員に相談してください。
- 所定の履修登録期間内であれば履修科目の取り消しを各自行うことができます。

# 7 進級と卒業

## 7-1 進級

大学では、各学科が指定する授業科目の単位を指定する学年に修得する必要があるなど、一定の基準を満たさなければ次学年に進級することができない場合があります。

### 7-1-1 進級条件

- 各学科が指定した授業科目の単位を指定した学年までに修得しなければ進級することができない場合があります。このような進級するために設定されている科目や年限の指定を「進級条件」といいます。
- 進級条件は、学科および学年により異なります。進級条件は「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を確認してください。

### 7-1-2 進級者発表

- 学年末に進級判定を行います。結果はUNIPAの学籍情報照会にて発表します。
- 進級者発表の期日は、事前に事務局より案内します。
- 進級することができなかった場合は留年となり、もう一度同じ学年に在籍し、修得できなかった科目を再履修することになります（再履修については「D.履修ガイド」の「4.科目履修」を参照してください）。
- 進級条件に満たない学生は、保護者宛に進級判定結果を郵送します。

## 7-2 卒業

### 7-2-1 卒業要件

大学を卒業するためには、次の要件を満たす必要があります。

- (1) 修業年限を満たすこと。

成田看護学部、成田保健医療学部では4年以上本学に在学している必要があります。ただし、休学期間は卒業に必要な在学期間には含まれません。

- (2) 所属する学部・学科の指定する卒業要件を満たすこと。

学科ごとに指定された必修科目全てと選択科目を合わせて、卒業に必要な単位を修得しなければなりません。卒業要件は、学科ごとに異なります。卒業要件は「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を確認してください。

### 7-2-2 卒業要件に関する注意事項

---

- 学科により、総合教育科目の系統（人間系、社会系、自然・情報系、総合系、外国語系、保健体育系）ごとに卒業に必要な最低単位数が定められている場合があるので注意してください。
- 外国語系科目は、英語の必修科目と英語以外の外国語系の選択科目から所定の単位数を修得することが卒業の条件となることがあります。所属する学科の外国語系科目の履修条件を確認してください。
- 外国語系科目の中で、日本語科目は留学生のための履修科目（留学生以外の履修は不可）です。
- 卒業要件に満たない場合は留年となります。

### 7-2-3 卒業生発表

---

- 卒業年度末に卒業判定を行います。結果は、UNIPAの学籍情報照会にて発表します。
- 卒業判定結果は開示期間が限られています。期間は事前に事務局より案内します。
- 卒業要件に満たない学生は、保護者宛に卒業判定結果を郵送します。



8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧

**成田看護**

**成田保健医療学部**

**成田薬学部**

8-1 看護学科

8-2 理学療法学科

8-3 作業療法学科

8-4 言語聴覚学科

8-5 医学検査学科

8-6 放射線・情報科学科

8-7 薬学科

8-8 アセスメント・ポリシー

## 8 学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧

### 8-1 看護学科

#### 8-1-1 教育研究上の目的

成田看護学部教育研究上の目的

看護学の分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれ十分な知識と技能を有し、国内外で保健医療の実践を担うことのできる応用能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成する。

成田看護学部看護学科教育研究上の目的

看護学科は、看護職に必要な知識と技能を習得するとともに、国際的視野を持つ幅広い教養と深い人間理解、倫理観を涵養し、コミュニケーション能力や現場で即応できる判断力を身に付け、国内外で活躍できる看護師、保健師を育成する。

#### 8-1-2 アドミッションポリシー

##### 1. 求める学生像

本学が入学者に求める要件を十分理解し、看護職者として、豊かな感性、コミュニケーション能力を発揮して人間理解に努めるとともに、国際的感覚を持ち、創造的に課題解決に取り組むための自己研鑽・自己開発の基礎能力と方法を身につけ、自らの健康を大切にしつつ、「共に生きる社会」の実現に貢献することが期待できる人

##### 2. 看護学科の入学者に求める要件

###### 1) 知識・技能

高等学校の教科科目を通して修得した基礎知識と語学力による読解力・文章力・コミュニケーション能力、主として理数系科目により身につけた論理的な思考力、科学的な理解力を有していること。

###### 2) 思考力・判断力・表現力

看護学を学ぶにあたり、相手を思いやり、誠実な人間関係を築くための柔軟な発想力と寛容性、個人・家族・地域社会のつながりや仕組みについて理解し考え行動できる思考力・分析力・判断力及び表現力を有していること。

###### 3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

看護職者として本学の基本理念及び教育理念を理解し、「共に生きる社会」の実現をめざして、多様な人々の生き方・暮らしについて興味を持ち、看護学の学びを通じて国内外の保健・医療・福祉分野の発展に貢献する意志を持ち、主体的に学修を進める意欲と多職種の役割を理解し協働する態度を身につけていること。

#### 8-1-3 ディプロマポリシー

DP1：看護専門職を目指す者として、社会的責務と倫理観を根幹とした幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、一人の人間として豊かな心を身につけている。

DP2：看護学の基礎となる学問を理解する専門職業人としての基盤力を養い、関連職種の機能を理解し、看護の対象となる人々の利益のために連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につける。



ている。

- DP3：個人、家族、組織、地域社会における人々の健康課題を査定し、基本的な看護実践を行うための知識・技術・態度を身につけている。
- DP4：看護を必要とする様々な事象について論理的かつ多面的に理解し、自らの考えを表現し、行動する資質と能力を身につけている。
- DP5：未知の事象に対し、専門的知識や技術力を統合して創造的に課題解決に取り組むための専門職業人としての基盤力と探究力を身につけている。
- DP6：看護専門職を目指す者として、責務を果たすために、必要な自己研鑽を重ねることの意義を理解し、自己開発の方法を身につけている。

#### 8-1-4 カリキュラムポリシー

---

- CP1：看護専門職者としての基盤となる社会的責務と倫理観を根幹とした幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、一人の人間として豊かな心を身につけるための科目を設定する。
- CP2：看護学の基礎となる学問を理解する専門職業人としての基盤力を養い、関連職種の機能を理解し、看護の対象となる人々の利益のために連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につけるための科目を設定する。
- CP3：個人、家族、組織、地域社会における人々の健康課題を査定し、基本的な看護実践を行うための知識・技術・態度を身につけるための科目、および、看護を必要とする様々な事象について論理的かつ多面的に理解し、自らの考えを表現し、行動する資質と能力を身につけるための科目を設定する。
- CP4：未知の事象に対し、専門的知識や技術力を統合して創造的に課題解決に取り組むための基盤力と探究力を身につけるための科目、および、看護専門職者としての責務を果たすために、必要な自己研鑽を重ねることの意義を理解し、自己開発の方法を身につけるための科目を設定する。

#### 8-1-5 学年ごとの教育目標

---

##### < 1年次 (SB0s1) >

- CP1：幅広い教養と豊かな感性を培い、人間を理解するための基盤力、語学力を高める。
- CP2：人間と環境を理解するための諸科学を学び、看護学に応用するための基盤を固める。
- CP3：個人や家族の健康状態を査定し、健康課題を解決するための看護の視点を身につける。
- CP4：自らの学修課題を認識し、自らを動機づけ、主体的な学修活動を行うことができる。

##### < 2年次 (SB0s2) >

- CP1：豊かな教養を持ち、グローバルな視点で考える力、異文化を理解する力、国際的な感覚を身につける。
- CP2：保健医療福祉関連職の機能や社会の仕組みを理解し、看護に活用するための基盤を固める。
- CP3：必要な看護を査定、計画、実践、評価し改善を行うための基礎的知識・技術・態度を身につける。
- CP4：演習や実習に主体的に取り組むことができ、看護専門職者としての自己研鑽力の基盤ができています。

##### < 3年次 (SB0s3) >

- CP1：多様性を理解し、自らの考えをもち、論理的かつ建設的に思考する力を身につける。
- CP2：保健医療福祉関連職の機能や社会の仕組みに関する知識を看護に応用することができる。
- CP3：必要な看護を行うための知識・技術・態度を実習で具体的にを行うことができる。
- CP4：看護に関する未知の事象への興味関心を表現でき、探究活動を開始することができる。

##### < 4年次 (SB0s4) >

- CP1：看護専門職者の社会的責務を認識し、倫理観に基づいた看護を行う基盤を固める。
- CP2：対象を中心とした保健医療福祉を行うための看護の知識・技術・態度、関連職種と連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につける。

CP3：複雑な健康課題、組織や地域社会の健康関連課題を論理的かつ多面的に理解し、看護するための知識・技術・態度を身につける。

CP4：看護研究を行うための基本的な知識・技術・態度を身につける。

### 8-1-6 卒業に必要な単位数（看護学科 2024年度入学生）

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得すること。

なお、必修科目については、「授業科目一覧」を参照すること。

授業科目の区分		最低単位数		
		必修	選択	
総合教育科目	人間系		6単位以上	
	社会系	5単位		
	自然・情報系	2単位		
	総合系	1単位		
	外国語系	4単位		
	保健体育系			
	小計	12単位		6単位以上
専門教育科目	専門基礎科目	キャンパス共通	10単位	7単位以上
		学部設置	17単位	
	専門科目	72単位		
	小計	99単位	7単位以上	
合計		111単位	13単位以上	
総計		124単位以上		

※総合教育科目「生物学」の履修推奨について

高等学校で、「生物基礎」「生物」を履修していない者は、総合教育科目の生物学(2単位)について1年次に履修を推奨する。

### 8-1-7 進級条件

#### (1) 1学年から2学年への進級条件

1学年の必修科目のうち、からだの構造(1単位)、からだの機能(1単位)、看護学概論(2単位)、基礎看護学方法論Ⅰ(看護コミュニケーション)(1単位)、基礎看護学実習Ⅰ(入門)(1単位)、基礎看護学演習Ⅰ(日常生活援助技術)(2単位)、基礎看護学演習Ⅱ(ヘルスアセスメント)(1単位)、リプロダクティブヘルス看護学概論(1単位)の計10単位を修得していること。

#### (2) 2学年から3学年への進級条件

2学年の必修科目のうち、基礎看護学方法論Ⅱ(看護過程)(2単位)、基礎看護学演習Ⅲ(医療支援技術)

(1 単位)、基礎看護学実習Ⅱ(基礎)(2 単位)、リプロダクティブヘルス看護学方法論(2 単位)、リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅰ(病院・施設実習)(1 単位)、小児看護学概論(1 単位)、成人看護学概論(1 単位)、老年看護学概論(1 単位)、精神看護学概論(1 単位)、地域・在宅看護学概論(1 単位)の計 13 単位を修得していること。

(3) 3 学年から 4 学年への進級条件

3 学年の必修科目のうち、リプロダクティブヘルス看護学演習(1 単位)、リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅱ(産科病棟外来実習)(1 単位)、小児看護学方法論(2 単位)、小児看護学演習(1 単位)、小児看護学実習(2 単位)、成人看護学方法論Ⅰ(2 単位)、成人看護学方法論Ⅱ(2 単位)、成人看護学方法論Ⅲ(1 単位)、成人看護学実習Ⅰ(2 単位)、成人看護学実習Ⅱ(2 単位)、成人看護学実習Ⅲ(1 単位)、老年看護学方法論(2 単位)、老年看護学演習(1 単位)、老年看護学実習(2 単位)、精神看護学方法論(2 単位)、精神看護学演習(1 単位)、精神看護学実習(2 単位)、地域・在宅看護学方法論Ⅰ(2 単位)、地域・在宅看護学方法論Ⅱ(2 単位)、地域・在宅看護学演習(1 単位)、地域・在宅看護学実習(2 単位)の計 34 単位を修得していること。

---

### 8-1-8 GPA 制度の取り扱いについて

成績評価(f-GPA)が 2.0 未満の学生については、保護者を含めて学業へ取り組み等について面談を行う。なお、GPA 制度については「6.成績」を参照のこと。

---

### 8-1-9 科目履修条件

(1) 1 年通年

- ・基礎看護学実習Ⅰ(入門)を履修する者は、看護学概論(2 単位)、基礎看護学方法論Ⅰ(看護コミュニケーション)(1 単位)の単位を修得していること。

(2) 2 年後期

- ・基礎看護学実習Ⅱ(基礎)を履修する者は、基礎看護学方法論Ⅱ(看護過程)(2 単位)の単位を修得していること。
- ・リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅰ(発達・連携実習)を履修する者は、リプロダクティブヘルス看護学方法論の単位を修得していること。

(6) 3 年後期

- ・リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅱ(産科病棟外来実習)を履修する者は、リプロダクティブヘルス看護学演習の単位を修得していること。
- ・小児看護学実習を履修する者は、小児看護学方法論および小児看護学演習の単位を修得していること。
- ・成人看護学実習Ⅰを履修する者は、成人看護学方法論Ⅰの単位を修得していること。
- ・成人看護学実習Ⅱを履修する者は、成人看護学方法論Ⅱの単位を修得していること。
- ・成人看護学実習Ⅲを履修する者は、成人看護学方法論Ⅲの単位を修得していること。
- ・老年看護学実習を履修する者は、老年看護学方法論および老年看護学演習の単位を修得していること。
- ・精神看護学実習を履修する者は、精神看護学方法論および精神看護学演習の単位を修得していること。
- ・地域・在宅看護学実習を履修する者は、地域・在宅看護学方法論Ⅰ、地域・在宅看護学方法論Ⅱおよび地域・在宅看護学演習の単位を修得していること。

---

### 8-1-10 履修登録上限単位数

すべての学年において、1 年間に履修登録できる単位数を 50 単位未満とする。

#### 8-1-11 卒業要件と看護師国家試験受験資格および保健師国家試験受験資格

---

成田看護学部の卒業要件は、124 単位以上の単位修得とし、これをもって看護師国家試験受験資格を満たす。保健師履修コースの選択者は、137 単位以上の単位修得を必要とし、これをもって看護師国家試験受験資格と保健師国家試験受験資格を満たす。

■保健師履修コースの授業科目の区分と単位

授業科目の区分		最低単位数			備考
		必修	保健師履修 コース選択必修	選択	
総合教育科目	人間系			2 単位	*保健師履修コース選択必修 「保健統計」、「疫学」
	社会系	5 単位			
	自然・情報系	2 単位	4 単位		
	総合系	1 単位			
	外国語系	4 単位			
	保健体育系				
	小 計	12 単位	4 単位		
専門教育科目	専門基礎科目	27 単位			*保健師履修コース選択必修 <専門科目> 「保健事業戦略とマネジメント」、 「産業・学校保健」、「公衆衛生看護活動 方法論Ⅰ（公衆衛生看護技術）」、「公衆衛 生看護活動方法論Ⅱ（地域アセスメン ト）」、「公衆衛生看護活動対象論Ⅰ（発達 段階別保健活動）」、「公衆衛生看護活動対 象論Ⅱ（健康課題別保健活動）」、「公衆衛 生看護活動対象論Ⅲ（地域包括ケア等）」、 「家族看護論」、「公衆衛生看護活動展開 論」、「公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政保 健）」、「公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業保健）」
	専門科目	72 単位	20 単位		
	小 計	99 単位	20 単位		
合 計		111 単位	24 単位	2 単位	
総 計		137 単位以上			

◆保健師履修コースを希望する学生については以下の確認をすること。

- 1) 保健師履修コース希望者は3年次までの必修科目を全て修得見込みであり、3年次前期までに以下の保健師履修コース選択必修科目（前提科目）の単位を修得していること。

《保健師履修コース選択必修科目（前提科目）》

1年次：保健統計(2単位)、疫学(2単位)

2年次：産業・学校保健(2単位)、公衆衛生看護活動方法論Ⅰ(公衆衛生看護技術)(2単位)、公衆衛生看護活動対象論Ⅰ(発達段階別保健活動)(2単位)、家族看護論(1単位)

3年次：公衆衛生看護活動方法論Ⅱ(地域アセスメント)(2単位)、公衆衛生看護活動対象論Ⅱ(健康課題別保健活動)(2単位)

- 2) 保健師履修コースの受講が決定した者は、以下の科目を4年次に履修すること。

《保健師履修コース選択必修科目》

保健事業戦略とマネジメント(1単位)、公衆衛生看護活動対象論Ⅲ(地域包括ケア等)(1単位)、公衆衛生看護活動展開論(2単位)、公衆衛生看護学実習Ⅰ(行政保健)(4単位)、公衆衛生看護学実習Ⅱ(産業保健)(1単位)

\*保健師履修コースは、3年次末に選考試験を行い、履修者を決定する(上限20名)。

\*前提科目が履修できていない場合、保健師履修コースを受験することができないので注意すること。

\*保健師履修コースの学生であっても、単位未修得の場合、保健師国家試験の受験資格はない。

\*保健師履修コースに選考されなかった場合であっても、前提科目の単位は各授業区分における卒業要件単位として加算することができる。

◆養護教諭2種免許申請について

\*養護教諭2種免許申請には、必修科目および保健師選択必修科目に加え、法学(2単位)、健康科学理論(1単位)、健康科学実践(1単位)の単位修得が必要である。単位数、開講学年、開講時期を確認し、計画的に履修すること(保健師国家資格取得後、申請することにより養護教諭2種免許を受けることができる/看護師国家資格のみは不可)。

1. 総合教育科目一覧

授業科目の分類	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間	備考	
			必修	選択			
総合教育科目	人間系	文学論	1 2 3 4		2	30	
		演劇論	1 2 3 4		1	15	
		パフォーマンス表現論	1		2	30	
		心理学	1 2 3 4		2	30	
		哲学	1 2 3 4		2	30	
		コミュニケーション概論	1 2 3 4		2	30	
		雑談と傾聴-話す力と聴く力-	1 2 3 4		2	30	
		人間学	1 2 3 4		2	30	
		歴史学	1 2 3 4		2	30	
		倫理学	1 2 3 4		2	30	
		宗教学	1 2 3 4		2	30	
		日本近現代史	1 2 3 4		2	30	
		文化人類学	1 2 3 4		2	30	
		教育学	1 2 3 4		2	30	
		教育方法論	1 2 3 4		2	30	
		死生学-死を通して生を考える-	1 2 3 4		2	30	
		社会系	法学	1 2 3 4		2	30
	法と道徳・倫理		1 2 3 4		2	30	
	医療関連法規		1		2	30	
	我が国の社会福祉・医療保障政策の知識		1		1	30	
	経済の仕組み		1 2 3 4		2	30	
	経済の歴史		1 2 3 4		2	30	
	世界の経済		1 2 3 4		2	30	
	アジア諸国の経済・社会・文化		1 2 3 4		2	30	
	世界の中の和文化		1 2 3 4		1	15	
	経営の仕組み		1 2 3 4		2	30	
	組織運営管理論		1 2 3 4		2	30	
	社会学 (人間と社会)		1 2 3 4		2	30	
	マスメディア論		1 2 3 4		2	30	
	新聞でみた日本と世界		1 2 3 4		2	30	
	国際関係論		1 2 3 4		2	30	
	国際医療福祉論		1 2 3 4		2	30	
	海外保健福祉事情Ⅰ (講義)		1 2		1	30	
	海外保健福祉事情Ⅱ (実習)		2 3		1	45	
	ボランティア論		1 2 3 4		2	30	
	ボランティアコーディネート論		1 2 3 4		2	30	
	手話入門		1 2 3 4		2	30	
	防災と生活デザイン		1 2 3 4		2	30	
	自然・情報系		保健統計	1		2	30
		疫学	1		2	30	保健師履修コース選択必修 (前提科目)
		数学	1 2 3 4		2	30	
		物理学	1 2 3 4		2	30	
		化学	1 2 3 4		2	30	
		生物学	1 2 3 4		2	30	
		データリテラシー	1		1	30	
医療データサイエンスⅠ (DS基礎)		2 3 4		1	30		
医療データサイエンスⅡ (AI基礎)		2 3 4		1	30		
医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報-		1		1	30		
医学/医療史		1 2 3 4		2	30		
人間工学		1 2 3 4		2	30		
総合系	大学入門講座-医療人・社会人として成長するために-	1		1	30		
	郷土論	1 2 3 4		1	15		
	医療福祉教養講義	1 2 3 4		1	15		
	メディカルマナー入門	1 2 3 4		2	30		
	食と人間	1 2 3 4		1	15		
総合講義	1 2 3 4		1	15			

授業科目の分類	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間	備考
			必修	選択		
総合教育科目	外国語系	英語講読1 (Primary)	1	1	30	
		英語講読2 (Basic)	1	1	30	
		英語CALL1 (Primary)	1	1	30	
		英語CALL2 (Basic)	1	1	30	
		英語講読3 (Intermediate)	2 3 4	1	30	
		英語講読4 (Advanced)	2 3 4	1	30	
		英語会話1 (Primary)	1 2 3 4	1	30	
		英語会話2 (Basic)	1 2 3 4	1	30	
		英語会話3 (Intermediate)	2 3 4	1	30	
		英語会話4 (Advanced)	2 3 4	1	30	
		英語ライティング1 (Primary)	1 2 3 4	1	30	
		英語ライティング2 (Basic)	1 2 3 4	1	30	
		国際医療通訳入門	1 2 3 4	1	30	
		資格英語1 (Primary)	1 2 3 4	1	30	
		資格英語2 (Basic)	1 2 3 4	1	30	
		基礎英文法1 (Primary)	1 2 3 4	1	30	
		基礎英文法2 (Basic)	1 2 3 4	1	30	
		上級英語文献講読	1 2 3 4	1	30	
		上級英語会話1 (発展)	1 2 3 4	1	30	
		上級英語会話2 (総合)	1 2 3 4	1	30	
		ドイツ語入門(会話含む)	1 2 3 4	1	30	
		ドイツ語基礎(会話含む)	1 2 3 4	1	30	
		中国語入門(会話含む)	1 2 3 4	1	30	
		中国語基礎(会話含む)	1 2 3 4	1	30	
		韓国語入門(会話含む)	1 2 3 4	1	30	
		韓国語基礎(会話含む)	1 2 3 4	1	30	
		フランス語入門(会話含む)	1 2 3 4	1	30	
		フランス語基礎(会話含む)	1 2 3 4	1	30	
		スペイン語入門(会話含む)	1 2 3 4	1	30	
		スペイン語基礎(会話含む)	1 2 3 4	1	30	
		タイ語入門(会話含む)	1 2 3 4	1	30	
		タイ語基礎(会話含む)	1 2 3 4	1	30	
		ベトナム語入門(会話含む)	1 2 3 4	1	30	
		ベトナム語基礎(会話含む)	1 2 3 4	1	30	
		ビルマ語入門(会話含む)	1 2 3 4	1	30	
		ビルマ語基礎(会話含む)	1 2 3 4	1	30	
		日本語I-A(文法・表現)	1 2 3 4	1	30	
		日本語I-B(記述)	1 2 3 4	1	30	
		日本語I-C(読解)	1 2 3 4	1	30	
		日本語I-D(会話)	1 2 3 4	1	30	
		日本語II-A(文法・表現)	1 2 3 4	1	30	
		日本語II-B(記述)	1 2 3 4	1	30	
		日本語II-C(読解)	1 2 3 4	1	30	
		日本語II-D(会話)	1 2 3 4	1	30	
		日本語III-A(文法・表現)	1 2 3 4	1	30	
		日本語III-B(記述)	1 2 3 4	1	30	
日本語III-C(読解)	1 2 3 4	1	30			
日本語III-D(会話)	1 2 3 4	1	30			
医療福祉専門漢字	1 2 3 4	1	30			
医療福祉専門語彙	1 2 3 4	1	30			
保健体育系	健康科学理論	1 2 3 4	1	15	養護教諭二種免許申請に必要	
	健康科学実践	1 2 3 4	1	30	養護教諭二種免許申請に必要	



2. 専門教育科目一覧

授業科目の分類		授業科目の名称	配当年次	単位数		時間	備考	
				必修	選択			
専門教育科目	キャンパス共通設置科目	公衆衛生学	1	2		30		
		救急医学	1 2 3 4		1	15		
		感染と免疫	1	2		30		
		リハビリテーション概論	1 2 3 4		2	30		
		関連職種連携論	2	2		30		
		ケアマネジメント論	2 3 4		1	15		
		ケースワーク論	2 3 4		1	15		
		医療管理学	1 2 3 4		2	30		
		保健医療福祉制度論	1	2		30		
		社会福祉学	1 2 3 4		2	30		
		臨床心理学概論	1 2 3 4		2	30		
		医療情報学概論	2 3 4		2	30		
		福祉支援工学概論	1 2 3 4		2	30		
		関連職種連携ワーク	3	1		30		
		関連職種連携実習	4		1	45		
		リスクマネジメント論	2 3 4		2	30		
		電子カルテシステム入門	2 3 4		1	15		
		エビデンスベースドプラクティス (研究と文献)	4		1	15		
		レクリエーション概論	1 2 3 4		1	15		
		国際医療保健学	1	1		15		
		異文化体験実習	1 2 3 4		1	45		
		学部設置科目	行動科学とモチベーション	1 2		1	15	
			キャリアデザイン	1		1	15	
			からだの構造	1	1		30	
	からだの機能		1	1		30		
	疾病・治療学Ⅰ (呼吸、循環)		1	2		30		
	疾病・治療学Ⅱ (消化、代謝)		2	2		30		
	疾病・治療学Ⅲ (生殖、免疫、運動器)		2	2		30		
	疾病・治療学Ⅳ (小児、感覚器)		2	2		30		
	疾病・治療学Ⅴ (脳神経系、精神系)		2	2		30		
	人間と栄養		1	1		15		
	薬理学	2	2		30			
	人間発達学	1	1		15			
	先端医療とヘルスケアテクノロジー	4		1	15			
遺伝と医療	1	1		15				

授業科目の分類	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間	備考		
			必修	選択				
専門科目	基礎看護学	看護学概論	1	2		30		
		看護理論	1	1		15		
		基礎看護学方法論Ⅰ（看護コミュニケーション）	1	1		15		
		基礎看護学方法論Ⅱ（看護過程）	2	2		30		
		基礎看護学演習Ⅰ（日常生活援助技術）	1	2		60		
		基礎看護学演習Ⅱ（ヘルスアセスメント）	1	1		30		
		基礎看護学演習Ⅲ（医療支援技術）	2	1		30		
		基礎看護学実習Ⅰ（入門）	1	1		45		
		基礎看護学実習Ⅱ（基礎）	2	2		90		
	看護管理学	看護情報リテラシー	1		1		15	
		看護管理学概論		4	1		15	
		看護管理学演習		4		1	30	
		保健事業戦略とマネジメント		4		1	15	保健師履修コース選択必修
	リプロダクティブヘルス看護学	リプロダクティブヘルス看護学概論	1		1		15	
		リプロダクティブヘルス看護学方法論	2		2		30	
		リプロダクティブヘルス看護学演習		3	1		30	
		リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅰ（病院・施設実習）	2		1		45	
		リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅱ（産科病棟外来実習）		3	1		45	
	小児看護学	小児看護学概論	2		1		15	
		小児看護学方法論		3	2		30	
		小児看護学演習		3	1		30	
		小児看護学実習		3	2		90	
	成人看護学	成人看護学概論	2		1		15	
		成人看護学方法論Ⅰ		3	2		60	
		成人看護学方法論Ⅱ		3	2		60	
		成人看護学方法論Ⅲ		3	1		30	
		成人看護学実習Ⅰ		3	2		90	
		成人看護学実習Ⅱ		3	2		90	
	老年看護学	老年看護学概論	2		1		15	
		老年看護学方法論		3	2		30	
		老年看護学演習		3	1		30	
		老年看護学実習		3	2		90	
	精神看護学	精神看護学概論	2		1		15	
		精神看護学方法論		3	2		30	
		精神看護学演習		3	1		30	
		精神看護学実習		3	2		90	
	看護国際学	国際看護学Ⅰ（異文化と看護）	2		1		15	
		国際看護学Ⅱ（活動の実際）	2	3	4		1	15
		国際看護研修（途上国）		3	4		2	90
	看護学・災害・感染看護学	感染看護論	2		1		15	
		災害関連健康危機管理論		4	1		15	
		国際検疫看護論		4		1	15	
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2		2		30	
		産業・学校保健	2		2		30	保健師履修コース選択必修（前提科目）
		公衆衛生看護活動方法論Ⅰ（公衆衛生看護技術）	2		2		30	保健師履修コース選択必修（前提科目）
		公衆衛生看護活動方法論Ⅱ（地域アセスメント）	3		2		30	保健師履修コース選択必修（前提科目）
		公衆衛生看護活動対象論Ⅰ（発達段階別保健活動）	2		2		30	保健師履修コース選択必修（前提科目）
		公衆衛生看護活動対象論Ⅱ（健康課題別保健活動）	3		2		30	保健師履修コース選択必修（前提科目）
		公衆衛生看護活動対象論Ⅲ（地域包括ケア等）		4	1		15	保健師履修コース選択必修
		家族看護論	2		1		15	保健師履修コース選択必修（前提科目）
公衆衛生看護活動展開論			4	2		30	保健師履修コース選択必修	
公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政保健）			4	4		180	保健師履修コース選択必修	
公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業保健）		4	1		45	保健師履修コース選択必修		
看護学・地域在宅看護学	地域・在宅看護学概論	2		1		15		
	地域・在宅看護学方法論Ⅰ		3	2		30		
	地域・在宅看護学方法論Ⅱ		3	2		30		
	地域・在宅看護学演習		3	1		30		
	地域・在宅看護学実習		3	2		90		
統合分野	看護総合実習		4	5		225		
	看護倫理学		4	1		15		
	看護研究		4	2		30		
	研究ゼミナール		4	1		30		
	海外看護研修		4		2	90		

看護学科DP-教育目標カリキュラムマップ(2024年度入学生版)

		ディプロマ・ポリシー(DP)						
		[DP1]	[DP2]	[DP3]	[DP4]	[DP5]	[DP6]	
		看護専門職を目指す者として、社会的責務と倫理観を根幹とした幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、一人の人間として豊かな心を身につけている。	看護学の基礎となる学問を理解する専門職業人としての基礎力を養い、関連職種の機能を理解し、看護の対象となる人々の利益のために連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につけている。	個人、家族、組織、地域社会における人々の健康課題を査定し、基本的な看護実践を行うための知識・技術・態度を身につけている。	看護を必要とする様々な事象について論理的かつ多面的に理解し、自らの考えを表現し、行動する資質と能力を身につけている。	未知の事象に対し、専門的知識や技術力を統合して創造的に課題解決に取り組むための専門職業人としての基礎力と探究力を身につけている。	看護専門職を目指す者として、責務を果たすために、必要な自己研鑽を重ねることの意義を理解し、自己開発の方法を身につけている。	
1 年 次	[SBOs1/CP1]	幅広い教養と豊かな感性を培い、人間を理解するための基礎力、語学力を高める。	[DP1/SBOs1/CP1] 大学入門講座-医療人・社会人として成長するために-(1)、 テークリテラシー(1)、英語講義1(1)、英語講義2(1)、 英語CALL1(1)、英語CALL2(1) 文学論、演劇論、パフォーマンス表現論、心理学、哲学、 雑談と傾聴-話す力と聞く力-、 人間学、歴史学、宗教学、日本近現代史、文化人類学、 法学、法と道徳・倫理、経済の仕組み、経済の歴史、 世界の経済、アジア諸国の経済・社会・文化、 世界の中の和と文化、経営の仕組み、組織運営管理論、 社会学(人間と社会)、マスメディア論、 新聞でみた日本と世界、国際関係論、国際医療福祉論、 ボランティア論、ボランティアコーディネート論、 防災と生活デザイン、医療データサイエンスⅠ・Ⅱ、医学/医療史、 人間工学、郷土論、医療福祉教養講義、 命と人間 総合講義【総合教育科目(外関係系)】	[DP2/SBOs1/CP1] コミュニケーション概論、手話入門、メディカルマナー入門、医療管理論、社会福祉学、臨床心理学概論、福祉支援工学概論、 レクリエーション概論、行動科学とモチベーション	[DP3/SBOs1/CP1]	[DP4/SBOs1/CP1]	[DP5/SBOs1/CP1]	[DP6/SBOs1/CP1] 【総合教育科目(保健体育系)】
	[SBOs1/CP2]	人間と環境を理解するための諸科学を学び、看護学に応用するための基礎を固める。	[DP1/SBOs1/CP2] 医療関連法規(2)、 我が国の社会福祉・医療保障政策の知識(1)、 医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報-(1) 倫理学、教育学、教育方法論、 死生学→死を通して生を考える-、生命倫理、 数学、物理学、化学、生物学	[DP2/SBOs1/CP2] リハビリテーション概論	[DP3/SBOs1/CP2] 感染と免疫(2)、保健医療福祉制度論(2)、 からだの構造(1)、からだの機能(1)、 疾病・治療Ⅰ(呼吸、循環)(2)、人間と栄養(1)、 遺伝と医療(1)	[DP4/SBOs1/CP2] 国際医療保健学(1)	[DP5/SBOs1/CP2]	[DP6/SBOs1/CP2]
	[SBOs1/CP3]	個人や家族の健康状態を査定し、健康課題を解決するための看護の視点を身につける。	[DP1/SBOs1/CP3]	[DP2/SBOs1/CP3] 人間発達学(1) リプロダクティブヘルス看護学概論(1)	[DP3/SBOs1/CP3] 公衆衛生学(2) 保健統計、疫学	[DP4/SBOs1/CP3] 基礎看護学演習Ⅱ(1)	[DP5/SBOs1/CP3]	[DP6/SBOs1/CP3] キャリアデザイン
	[SBOs1/CP4]	自らの学修課題を認識し、自らを動機づけ、主体的な学修活動を行うことができる。	[DP1/SBOs1/CP4]	[DP2/SBOs1/CP4] 看護学概論(2)、基礎看護学方法論Ⅰ(1)	[DP3/SBOs1/CP4] 救急医学	[DP4/SBOs1/CP4] 基礎看護学実習Ⅰ(1)、基礎看護学演習Ⅰ(2)、 看護理論(1)、看護情報リテラシー(1)	[DP5/SBOs1/CP4] 異文化体験実習	[DP6/SBOs1/CP4]
2 年 次	[SBOs2/CP1]	豊かな教養を持ち、グローバルな視点で考える力、異文化を理解する力、国際的な感覚を身につける。	[DP1/SBOs2/CP1] 海外保健福祉事情Ⅰ(1)、海外保健福祉事情Ⅱ(1) 【総合教育科目(外国語系)】	[DP2/SBOs2/CP1] 国際看護学Ⅰ(1)	[DP3/SBOs2/CP1] 感染看護論(1)	[DP4/SBOs2/CP1] 国際看護学Ⅱ	[DP5/SBOs2/CP1]	[DP6/SBOs2/CP1]
	[SBOs2/CP2]	保健医療福祉関連職の機能や社会の仕組みを理解し、看護に活用するための基礎を固める。	[DP1/SBOs2/CP2]	[DP2/SBOs2/CP2] 小児看護学概論(1)、成人看護学概論(1)、 精神看護学概論(1)、老年看護学概論(1)、 地域・在宅看護学概論(1) 家族看護論(1) ケアマネジメント論、ケースワーク論、医療情報学概論、 電子カルテシステム入門	[DP3/SBOs2/CP2] 公衆衛生看護学概論(1)、産業・学校保健(2)、 公衆衛生看護学活動対象論Ⅰ	[DP4/SBOs2/CP2] リスクマネジメント論	[DP5/SBOs2/CP2]	[DP6/SBOs2/CP2]
	[SBOs2/CP3]	必要な看護を査定、計画、実践、評価し改善を行うための基礎的知識・技術・態度を身につける。	[DP1/SBOs2/CP3]	[DP2/SBOs2/CP3] 関連職種連携論(2)	[DP3/SBOs2/CP3] 疾病・治療Ⅱ(2)、疾病・治療Ⅲ(2)、 疾病・治療Ⅳ(2)、疾病・治療Ⅴ(2)、薬理学(2)、 基礎看護学方法論Ⅱ(2) リプロダクティブヘルス看護学方法論(2) 公衆衛生看護学活動方法論Ⅰ	[DP4/SBOs2/CP3]	[DP5/SBOs2/CP3]	[DP6/SBOs2/CP3]
	[SBOs2/CP4]	演習や実習に主体的に取り組むことができ、看護専門職者としての自己研鑽力の基礎ができていく。	[DP1/SBOs2/CP4]	[DP2/SBOs2/CP4]	[DP3/SBOs2/CP4]	[DP4/SBOs2/CP4] 基礎看護学演習Ⅲ(1)、基礎看護学実習Ⅱ(2)、 リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅰ(1)	[DP5/SBOs2/CP4]	[DP6/SBOs2/CP4]
3 年 次	[SBOs3/CP1]	多様性を理解し、自らの考えをもち、論理的かつ建設的に思考する力を身につける。	[DP1/SBOs3/CP1]	[DP2/SBOs3/CP1]	[DP3/SBOs3/CP1] 小児看護学方法論(2)、 成人看護学方法論Ⅰ(2)、成人看護学方法論Ⅱ(2)、 成人看護学方法論Ⅲ(1)、老年看護学方法論(2) 精神看護学方法論(2)、	[DP4/SBOs3/CP1] リプロダクティブヘルス看護学演習(1)、 小児看護学演習(1)、 精神看護学演習(1)	[DP5/SBOs3/CP1]	[DP6/SBOs3/CP1]
	[SBOs3/CP2]	保健医療福祉関連職の機能や社会の仕組みに関する知識を看護に応用することができる。	[DP1/SBOs3/CP2]	[DP2/SBOs3/CP2]	[DP3/SBOs3/CP2] 地域・在宅看護学方法論Ⅰ(2)、 地域・在宅看護学方法論Ⅱ(2) 公衆衛生看護学活動方法論Ⅱ、公衆衛生看護学活動対象論Ⅱ	[DP4/SBOs3/CP2] 老年看護学演習(1)、地域・在宅看護学演習(1)	[DP5/SBOs3/CP2]	[DP6/SBOs3/CP2]
	[SBOs3/CP3]	必要な看護を行うための知識・技術・態度を実習で具体的にを行うことができる。	[DP1/SBOs3/CP3]	[DP2/SBOs3/CP3]	[DP3/SBOs3/CP3]	[DP4/SBOs3/CP3] リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅱ(1)、 小児看護学実習(2)、成人看護学実習Ⅰ(2)、 成人看護学実習Ⅱ(2)、成人看護学実習Ⅲ(1)、 老年看護学実習(2)、精神看護学実習(2)、 地域・在宅看護学実習(2)	[DP5/SBOs3/CP3]	[DP6/SBOs3/CP3]
	[SBOs3/CP4]	看護に関する未知の事象への興味関心を表現でき、探究活動を開始することができる。	[DP1/SBOs3/CP4]	[DP2/SBOs3/CP4]	[DP3/SBOs3/CP4]	[DP4/SBOs3/CP4] 関連職種連携ワーク(1)	[DP5/SBOs3/CP4] 国際看護研修(遠上国)	[DP6/SBOs3/CP4]
4 年 次	[SBOs4/CP1]	看護専門職者の社会的責務を認識し、倫理観に基づいた看護を行う基礎を固める。	[DP1/SBOs4/CP1]	[DP2/SBOs4/CP1]	[DP3/SBOs4/CP1]	[DP4/SBOs4/CP1]	[DP5/SBOs4/CP1] 看護管理学概論(1)、看護倫理学(1)	[DP6/SBOs4/CP1]
	[SBOs4/CP2]	対象を中心とした保健医療福祉を行うための看護の知識・技術・態度、関連職種と連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につける。	[DP1/SBOs4/CP2]	[DP2/SBOs4/CP2]	[DP3/SBOs4/CP2] 公衆衛生看護学活動対象論Ⅲ	[DP4/SBOs4/CP2] 関連職種連携実習、看護管理学演習	[DP5/SBOs4/CP2]	[DP6/SBOs4/CP2]
	[SBOs4/CP3]	複雑な健康課題、組織や地域社会の健康関連課題を論理的かつ多面的に理解し、看護するための知識・技術・態度を身につける。	[DP1/SBOs4/CP3]	[DP2/SBOs4/CP3]	[DP3/SBOs4/CP3] 公衆衛生看護学発展論	[DP4/SBOs4/CP3] 公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ	[DP5/SBOs4/CP3] 災害関連危機看護論(1) 先端医療とヘルスケアテクノロジー、 保健事業戦略とマネジメント、国際検疫看護論	[DP6/SBOs4/CP3] 看護総合実習
	[SBOs4/CP4]	看護研究を行うための基本的な知識・技術・態度を身につける。	[DP1/SBOs4/CP4]	[DP2/SBOs4/CP4]	[DP3/SBOs4/CP4]	[DP4/SBOs4/CP4] エビデンスベースドプラクティス(研究と文献)	[DP5/SBOs4/CP4] 看護研究(2)、研究ゼミナール(1) 海外看護研修	[DP6/SBOs4/CP4]



## 8-2 理学療法学科

### 8-2-1 教育研究上の目的

成田保健医療学部の教育研究上の目的

理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、医学検査学、放射線・情報科学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれ十分な知識と技能を有し、国内外で保健医療の実践を担うことのできる応用能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成する。

成田保健医療学部理学療法学科の教育研究上の目的

理学療法学科は、人を深く思いやるこころ「情意」、さまざまな障害に対処できる豊富な「知識」、障害を克服できるよう導く高い「技術」を育み、バランス感覚にも優れ、国内外で活躍できる理学療法士を育成する。

### 8-2-2 アドミッションポリシー

#### 1. 求める学生像

本学が入学者に求める要件を十分理解し、理学療法士として、豊かな心、コミュニケーション能力、新しい知識の追求に向けた関心や意欲を持ち備え、日々進化する保健・医療・福祉分野における高度化・専門化及び国際化に対応し、学びを深めるための客観的・科学的な分析・判断力を養うことが期待できる人

#### 2. 理学療法学科の入学者に求める要件

##### 1) 知識・技能

高等学校時代の教科・科目等に相応した基礎知識と技能にあたる語学系科目の修得を通して身につけた読解力、文章力、コミュニケーション能力、また、理数系科目の修得を通して身につけた論理的な思考力、科学的な理解力を有していること。

##### 2) 思考力・判断力・表現力

保健・医療・福祉分野における新しい知識を学ぶための積極的な意欲を有し、継続的な努力を惜しまず、他人を思いやる寛容性及びコミュニケーション能力、学修で得た知識・技能をもとにした客観的な思考力及び理解力、筋道を立てて科学的に考えることができる分析力及び判断力を有していること。

##### 3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

本学の基本理念及び教育理念を十分理解し、理学療法士として「共に生きる社会」の実現に寄与すべく、地域とのつながりを大切に考えることができ、保健・医療・福祉分野の発展に貢献したいという強い意志を持ち、積極的に自ら研鑽し、また相手の立場に立って物事を考え多職種と協動的に連携を図る態度を身につけていること。

### 8-2-3 ディプロマポリシー

DP1：理学療法士を目指す者として、建学の精神である「共に生きる社会」の実現を目指し、幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、社会的責務と倫理観を身につけている。

DP2：理学療法士を目指す者として、理学療法を提供するために必要な基礎的な知識を身につけている。

DP3：理学療法士を目指す者として、基礎的な学力を養い、多様性を受け入れ、適切なマナーと円滑な

コミュニケーションによって豊かな対人関係を築き、他者への共感的態度を身につけている。

DP4：理学療法士を目指す者として、備えた基礎的知識を理学療法場面に当てはめて客観的・科学的に分析でき、基礎的な理学療法技術を身につけている。

DP5：理学療法士を目指す者として、様々な状況において備えた高度な専門的知識や技術力を統合して、的確な判断に基づく問題解決能力を身につけている。

DP6：理学療法士を目指す者として、効果的な多職種連携のために、自職種および他職種を理解し、チームの一員としての役割が果たせる。

DP7：理学療法士を目指す者として、自身の更なる発展のため、生涯学習を行うことの重要性を認識し、理学療法分野における新しい知識を追求する方法（研究活動）を身につけている。

#### 8-2-4 カリキュラムポリシー

---

CP1：理学療法や関連領域の基礎的・専門的な知識・技術を有し、他文化・異文化を問わない態度で人類の健康を理解できる理学療法士を育成するための科目を設定する。

CP2：獲得した知識・技術・態度をもとに問題点を的確に把握し、病態に応じた適切な理学療法評価・治療を提供できる理学療法士を育成するための科目を設定する。

CP3：理学療法の過程で得た情報を定量的・論理的に分析し、適切なコミュニケーション手段を用いて他者と共有し、チームを構築して問題解決にあたることのできる理学療法士を育成するための科目を設定する。

CP4：常に向上心を持って自己研鑽に努め、修得した知識や技術を関連職種を含めたチーム内で共有しながらリーダーシップを発揮し、専門職業人としての高い倫理観を有した、社会から求められる理学療法士を育成するための科目を設定する。

#### 8-2-5 学年ごとの教育目標

---

##### < 1年次 (SB0s1) >

CP1：保健医療福祉に関する基本的知識や異文化に関する知識を修得する。

CP2：保健医療福祉に関する基本的知識を修得し、理学療法とのかかわりを理解する。

CP3：理学療法に必要な論理的思考を養い、コミュニケーションスキルを身につける。

CP4：多様な学問領域に関心を持ち、主体的な学びを通して、使命感、倫理観、責任感、思いやりの心などの豊かな人間性を獲得する。

##### < 2年次 (SB0s2) >

CP1：保健医療福祉や異文化に関する発展的な基礎知識を修得する。

CP2：病態に応じた理学療法検査手技を正確に実施できる。

CP3：データと情報を収集し、適切に管理できる。

CP4：他者と協働し、チームの一員として貢献できる。

##### < 3年次 (SB0s3) >

CP1：理学療法専門分野および関連領域における基礎的な知識を修得する。

CP2：病態に応じた理学療法評価を正確に実施し、一連の治療プログラムを想定できる。

CP3：収集した情報を基に、障害像の統合と解釈ができる。

CP4：理学療法の発展的な基礎知識を修得し、専門職業人としての倫理観を養い、関連する職種間との

連携に貢献できる。

< 4年次 (SB0s4) >

CP1：理学療法専門分野および関連領域における知識を修得し、それらを臨床応用できる能力を獲得する。

CP2：適切な評価を選択・実施できる。また、評価結果から医学的根拠に基づいた一連の治療プログラムを立案し、治療の実施および再評価することができる。

CP3：臨床的な疑問点を探究し、その解決を図るための研究デザインや研究チームを構築することができる。また、計画に基づいた研究の実施および結果の臨床応用について検討することができる。

CP4：理学療法における応用的・発展的な知識を修得し、関連職種へ情報提供および共有することができる。

### 8-2-6 卒業に必要な単位数（理学療法学科 2024年度入学生）

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得すること。

なお、必修科目については、「授業科目一覧」を参照すること。

授業科目の区分		最低単位数		
		必修	選択	
総合教育科目	人間系	2単位	2単位以上	指定の8単位に加え 2単位以上
	社会系	3単位	2単位以上	
	自然・情報系	2単位	2単位以上	
	総合系	1単位		
	外国語系	4単位	2単位以上	
	保健体育系			
	小計	12単位	10単位以上	
専門教育科目	専門基礎科目	学部共通	5単位	4単位以上
		学科専門	25単位	
	専門科目	59単位	11単位以上	
	小計	89単位	15単位以上	
合計		101単位	25単位以上	
総計		126単位以上		

### 8-2-7 進級条件

(1) 1学年から2学年への進級条件

1学年の必修専門基礎科目・専門科目のうち、単位未修得科目が2科目以下であること。

(2) 2 学年から 3 学年への進級条件

2 学年までの全必修科目のうち単位未修得科目が 2 科目以下であること。

(3) 3 学年から 4 学年への進級条件

3 学年までの必修科目の単位をすべて修得していること。

---

#### 8-2-8 GPA 制度の取り扱いについて

---

成績評価 (f-GPA) が 2.0 未満の学生については、保護者を含めて学業へ取り組み等について面談を行う。  
なお、GPA 制度については「6. 成績」を参照のこと。

---

#### 8-2-9 科目履修条件

---

実習科目は以下の順で履修すること。前段階の実習科目の単位を修得せずに、次の実習科目を履修することはできない。

基礎実習→検査実習・地域リハビリテーション実習→評価実習→総合臨床実習

---

#### 8-2-10 履修登録上限単位数

---

すべての学年において、1 年間に履修登録できる単位数を、50 単位未満とする。

1. 総合教育科目一覧

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備考
			必修	選択		
人間系	文学論	1 2 3 4		2	30	
	演劇論	1 2 3 4		1	15	
	パフォーマンス表現論	1 2 3 4		2	30	
	心理学	1 2 3 4		2	30	
	哲学	1 2 3 4		2	30	
	コミュニケーション概論	1 2 3 4		2	30	
	雑談と傾聴～話す力と聴く力～	1 2 3 4		2	30	
	人間学	1 2 3 4		2	30	
	歴史学	1 2 3 4		2	30	
	倫理学	1 2 3 4		2	30	
	宗教学	1 2 3 4		2	30	
	日本近現代史	1 2 3 4		2	30	
	文化人類学	1 2 3 4		2	30	
	教育学	1	2		30	
	教育方法論	1 2 3 4		2	30	
	死生学-死を通して生を考える	1 2 3 4		2	30	
社会系	法学	1 2 3 4		2	30	
	法と道徳・倫理	1 2 3 4		2	30	
	医療関連法規	1 2 3 4		2	30	
	我が国の社会福祉・医療保障政策の知識	1	1		30	
	経済の仕組み	1 2 3 4		2	30	
	経済の歴史	1 2 3 4		2	30	
	世界の経済	1 2 3 4		2	30	
	アジア諸国の経済・社会・文化	1 2 3 4		2	30	
	世界の中の和文化	1 2 3 4		1	15	
	経営の仕組み	1 2 3 4		2	30	
	組織運営管理論	1 2 3 4		2	30	
	社会学 (人間と社会)	1 2 3 4		2	30	
	マスメディア論	1 2 3 4		2	30	
	新聞でみた日本と世界	1 2 3 4		2	30	
	国際関係論	1 2 3 4		2	30	
	国際医療福祉論	1 2 3 4		2	30	
	海外保健福祉事情 I (講義)	1 2	1		30	
	海外保健福祉事情 II (実習)	2 3	1		45	
	ボランティア論	1 2 3 4		2	30	
	ボランティアコーディネート論	1 2 3 4		2	30	
	手話入門	1 2 3 4		2	30	
防災と生活デザイン	1 2 3 4		2	30		
自然・情報系	統計学	1 2 3 4		2	30	
	疫学・保健医療統計学	1 2 3 4		2	30	
	数学	1 2 3 4		2	30	
	物理学	1 2 3 4		2	30	
	化学	1 2 3 4		2	30	
	生物学	1 2 3 4		2	30	
	データリテラシー	1	1		30	
	医療データサイエンス I (DS基礎)	2 3 4		1	30	
	医療データサイエンス II (AI基礎)	2 3 4		1	30	
	医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報-	1	1		30	
	医学/医療史	1 2 3 4		2	30	
人間工学	1 2 3 4		2	30		
総合系	大学入門講座-医療人・社会人として成長するために-	1	1		30	
	郷土論	1 2 3 4		1	15	
	医療福祉教養講義	1 2 3 4		1	15	
	メディカルマナー入門	1 2 3 4		2	30	
	食と人間	1 2 3 4		1	15	
総合講義	1 2 3 4		1	15		



授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備考	
			必修	選択			
総合教育科目	外国語系	英語講読1 (Primary)	1	1		30	
		英語講読2 (Basic)	1	1		30	
		英語CALL1 (Primary)	1	1		30	
		英語CALL2 (Basic)	1	1		30	
		英語講読3 (Intermediate)	2 3 4		1	30	
		英語講読4 (Advanced)	2 3 4		1	30	
		英語会話1 (Primary)	1 2 3 4		1	30	
		英語会話2 (Basic)	1 2 3 4		1	30	
		英語会話3 (Intermediate)	2 3 4		1	30	
		英語会話4 (Advanced)	2 3 4		1	30	
		英語ライティング1 (Primary)	1 2 3 4		1	30	
		英語ライティング2 (Basic)	1 2 3 4		1	30	
		国際医療通訳入門	1 2 3 4		1	30	
		資格英語1 (Primary)	1 2 3 4		1	30	
		資格英語2 (Basic)	1 2 3 4		1	30	
		基礎英文法1 (Primary)	1 2 3 4		1	30	
		基礎英文法2 (Basic)	1 2 3 4		1	30	
		上級英語文献講読	1 2 3 4		1	30	
		上級英語会話1 (発展)	1 2 3 4		1	30	
		上級英語会話2 (総合)	1 2 3 4		1	30	
		ドイツ語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		ドイツ語基礎(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		中国語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		中国語基礎(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		韓国語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		韓国語基礎(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		フランス語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		フランス語基礎(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		スペイン語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		スペイン語基礎(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		タイ語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		タイ語基礎(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		ベトナム語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		ベトナム語基礎(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		ビルマ語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		ビルマ語基礎(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		日本語I-A(文法・表現)	1 2 3 4		1	30	
		日本語I-B(記述)	1 2 3 4		1	30	
		日本語I-C(読解)	1 2 3 4		1	30	
		日本語I-D(会話)	1 2 3 4		1	30	
		日本語II-A(文法・表現)	1 2 3 4		1	30	
		日本語II-B(記述)	1 2 3 4		1	30	
		日本語II-C(読解)	1 2 3 4		1	30	
		日本語II-D(会話)	1 2 3 4		1	30	
		日本語III-A(文法・表現)	1 2 3 4		1	30	
		日本語III-B(記述)	1 2 3 4		1	30	
日本語III-C(読解)	1 2 3 4		1	30			
日本語III-D(会話)	1 2 3 4		1	30			
医療福祉専門漢字	1 2 3 4		1	30			
医療福祉専門語彙	1 2 3 4		1	30			
保健体育系	健康科学理論	1 2 3 4		1	15		
	健康科学実践	1 2 3 4		1	30		

2. 専門教育科目一覧

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備考
			必修	選択		
専門基礎科目 / 学部共通	公衆衛生学	1 2		2	30	
	救急医学	2	1		15	
	感染と免疫	1 2		2	30	
	リハビリテーション概論	1	1		30	
	関連職種連携論	2	2		30	
	ケアマネジメント論	2 3		1	15	
	ケースワーク論	1 2		1	15	
	医療管理学	1 2		2	30	
	保健医療福祉制度論	1 2		2	30	
	社会福祉学	1 2		2	30	
	臨床心理学概論	2		2	30	
	医療情報学概論	2 3		2	30	
	福祉支援工学概論	1 2		2	30	
	関連職種連携ワーク	3	1		30	
	関連職種連携実習	4		1	45	
	リスクマネジメント論	3 4		2	30	
	電子カルテシステム入門	2 3		1	15	
	エビデンスベースドプラクティス (研究と文献)	2 3		1	15	
	レクリエーション概論	3		1	15	
	災害保健学	1 2 3		1	15	
	予防保健学	1 2 3		1	15	
	国際医療保健学	1 2 3 4		1	15	
	異文化体験実習	1 2 3 4		1	45	
専門教育科目	解剖学Ⅰ (運動器系、内臓器系)	1	1		30	
	解剖学Ⅱ (内臓器系、神経系)	1	1		30	
	解剖学実習Ⅰ (肉眼)	1	1		45	
	解剖学実習Ⅱ (組織)	1	1		45	
	生理学Ⅰ (植物性功能)	1	1		30	
	生理学Ⅱ (動物性功能)	1	1		30	
	生理学実習	1	1		45	
	運動学Ⅰ (基礎)	1	1		30	
	運動学Ⅱ (応用)	1	1		30	
	運動生理学	1	1		30	
	病理学	2	1		30	
	臨床医学概論	2	1		30	
	内科学Ⅰ (基礎)	2	1		30	
	内科学Ⅱ (臨床)	2	1		30	
	神経学Ⅰ (基礎)	2	1		30	
	神経学Ⅱ (臨床)	2	1		30	
	整形外科Ⅰ (基礎)	2	1		30	
	整形外科Ⅱ (臨床)	2	1		30	
	精神医学Ⅰ (総論・各論)	2	1		30	
	精神医学Ⅱ (各論)	2 3		1	30	
	運動学特論	2	2		60	
	人間発達学	2	1		30	
	リハビリテーション医学	2	1		30	
	小児科学	2	1		30	
	老年学	2 3		1	30	
	神経心理学概論	2 3		2	30	
	臨床薬理学概論	2	1		15	
	スポーツ傷害学	2 3		1	15	
	外科学	2 3		1	15	
	栄養学	2 3		1	15	
	国際医療保健学演習	2 3 4		1	15	
	国際医療保健学実習	2 3 4		1	45	

	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間	備考
			必修	選択		
専門科目	理学療法概論	1	2		30	
	機能解剖学	2	1		30	
	病態運動学	3	1		30	
	物理療法Ⅰ(理論)	1	1		30	
	物理療法Ⅱ(実践)	2	1		30	
	PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)	1	1		30	
	PTスキルⅡ演習(検査・測定)	2	1		30	
	PTスキルⅢ演習(専門知識の確認)	3	2		60	
	PTスキルⅣ演習(臨床PBL)	3	2		60	
	理学療法評価学	2	2		30	
	理学療法診断学Ⅰ(基礎)	2	1		30	
	理学療法診断学Ⅱ(神経診断学)	2	1		30	
	理学療法診断学Ⅲ(神経・画像評価学を含む)	2	1		30	
	スポーツバイオメカニクス	2		1	15	
	動作分析学	2	1		15	
	運動処方理論	2		1	15	
	運動療法学総論	3	1		30	
	理学療法治療学総論	3	1		30	
	メディカルイングリッシュボキャブラリー	2		1	15	
	グローバルメディカルコミュニケーションⅠ(基礎)	3		1	15	
	グローバルメディカルコミュニケーションⅡ(応用)	3		1	15	
	運動系理学療法学Ⅰ(評価)	2	1		30	
	運動系理学療法学Ⅱ(治療)	3	1		30	
	神経系理学療法学Ⅰ(評価)	2	1		30	
	神経系理学療法学Ⅱ(治療)	3	1		30	
	内科系理学療法学Ⅰ(評価)	2	1		30	
	内科系理学療法学Ⅱ(治療)	3	1		30	
	高齢者理学療法学	3		1	15	
	装具学	3	1		30	
	義肢学	3	1		30	
	生活技術学	3	1		30	
	生活環境学	3	1		30	
	地域理学療法学演習(在宅・地域)	3	1		30	
	小児理学療法学	3	1		30	
	理学療法治療学特論Ⅰ(神経系治療手技)	3		1	30	
	理学療法治療学特論Ⅱ(運動器系治療手技)	3		1	30	
	先端機能解剖学	3 4		1	15	
	先端運動系理学療法学	3 4		1	15	
	先端神経系理学療法学	3 4		1	15	
	先端内科系理学療法学	3 4		1	15	
	先端スポーツ理学療法学	3 4		1	15	
	先端予防理学療法学	3 4		1	15	
	テーピング治療学	3		1	15	
	クリニカルリーズニング	3	1		30	
	リハビリテーション栄養学	3		1	15	
	運動心理学	3		1	15	
	理学療法管理学	3	2		30	
	ウイメンズヘルス理学療法学	3		1	15	
	理学療法国際実習	4		1	45	
	障がい者スポーツ概論	3		1	15	
理学療法特論	4	1		30		
基礎実習	1	1		45		
地域リハビリテーション実習(訪問・通所)	2	1		45		
検査実習	2	2		90		
評価実習	3	4		180		
総合臨床実習	4	12		540		
理学療法研究のデザイン	3	1		30		
卒業研究	4	2		60		

理学療法学科DP-教育目標カリキュラムマップ(2024年度入学生版)

		ディプロマポリシー(DP)						
		【DP1】 理学療法士を目指す者として、建学の精神 ある「共に生きる社会」の実現を目指し、精進 い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚 を養い、社会的責務と倫理観を身につけてい る。	【DP2】 理学療法士を目指す者として、理学療法に 関するに必要な基礎的な知識を身につけ ている。	【DP3】 理学療法士を目指す者として、基礎的な学力 を養い、多様性を受け入れ、適切なマナーと 円滑なコミュニケーションによって豊かな対人 関係を築き、他者への共感的態度を身につけ ている。	【DP4】 理学療法士を目指す者として、幅広い基礎的 知識を理学療法に当てはめて客観的・科 学的に分析でき、基礎的な理学療法技術を 身につけている。	【DP5】 理学療法士を目指す者として、様々な状況に おいて備えた高度な専門的知識や技術力を 統合して、的確な判断に基づく問題解決能力 を身につけている。	【DP6】 理学療法士を目指す者として、効果的な多職 種連携のために、自職種および他職種を理 解し、チームの一員としての役割を果たせ る。	【DP7】 理学療法士を目指す者として、自身の要する 発展のため、生涯学習を行うことの重要性を 認識し、理学療法分野における新しい知識を 追求する方法(研究活動)を身につけている。
1 年 次	【SBOs1/CP1】 保健医療福祉に関する基本的知識や異文化 に関する知識を修得する。	【DP1/SBOs1/CP1】 英語演習Ⅰ、英語OAL1-2 我が国の社会福祉・医療保障政策の知識	【DP2/SBOs1/CP1】 解剖学実習Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・ Ⅱ、 生化学実習、運動学Ⅰ・Ⅱ	【DP3/SBOs1/CP1】 アースワーク論、国際医療保健学、異文化体 験実習	【DP4/SBOs1/CP1】 災害保健学、予防保健学	【DP5/SBOs1/CP1】	【DP6/SBOs1/CP1】 災害保健学	【DP7/SBOs1/CP1】
	【SBOs1/CP2】 保健医療福祉に関する基本的知識を修得し、 理学療法とのかわり理解する。	【DP1/SBOs1/CP2】 教育学、データリテラシー、リハビリテーショ ン概論、理学療法概論、医療必修-医療の倫 理とプロ意識-医療情報-	【DP2/SBOs1/CP2】 理学療法概論、運動生理学、物理療法Ⅰ	【DP3/SBOs1/CP2】 理学療法概論	【DP4/SBOs1/CP2】 運動生理学、物理療法Ⅰ	【DP5/SBOs1/CP2】	【DP6/SBOs1/CP2】	【DP7/SBOs1/CP2】
	【SBOs1/CP3】 理学療法に必要な論理的思考を養い、コミュ ニケーションスキルを身につける。	【DP1/SBOs1/CP3】	【DP2/SBOs1/CP3】 PTスキルⅣ	【DP3/SBOs1/CP3】 基礎実習、PTスキルⅣ	【DP4/SBOs1/CP3】 PTスキルⅣ	【DP5/SBOs1/CP3】	【DP6/SBOs1/CP3】	【DP7/SBOs1/CP3】
	【SBOs1/CP4】 多様な学習領域に関心をもち、主体的な学 びを通して、使命感、倫理観、責任感、思いや りの心などの豊かな人間性を獲得する。	【DP1/SBOs1/CP4】 大学入門講座-医療人・社会人として成長す るために-	【DP2/SBOs1/CP4】	【DP3/SBOs1/CP4】	【DP4/SBOs1/CP4】	【DP5/SBOs1/CP4】	【DP6/SBOs1/CP4】	【DP7/SBOs1/CP4】
2 年 次	【SBOs2/CP1】 保健医療福祉や異文化に関する発展的な基 礎知識を修得する。	【DP1/SBOs2/CP1】	【DP2/SBOs2/CP1】 救急医学、病理学、臨床医学概論、内科学 Ⅰ・Ⅱ、神経学Ⅰ・Ⅱ、整形外科Ⅰ・Ⅱ、精神 医学Ⅰ、人間発達学、小児科学、臨床薬理学 概論、 臨床心理学概論、精神医学Ⅱ、老年学、神経 心理学概論、スポーツ傷害学、外科学 I、 基礎的臨床的介入テクニック	【DP3/SBOs2/CP1】 海外保健福祉事情Ⅰ・Ⅱ 国際医療保健学演習、国際医療保健学実 習、メディカルイングリッシュラボラリー	【DP4/SBOs2/CP1】	【DP5/SBOs2/CP1】 地域リハビリテーション実習	【DP6/SBOs2/CP1】	【DP7/SBOs2/CP1】
	【SBOs2/CP2】 病態に応じた理学療法検査手技を正確に実 施できる。	【DP1/SBOs2/CP2】	【DP2/SBOs2/CP2】 理学療法評価学	【DP3/SBOs2/CP2】 物理療法Ⅱ	【DP4/SBOs2/CP2】 機能解剖学、物理療法Ⅱ、理学療法評価学、 理学療法診断学Ⅰ・Ⅱ、検査実習	【DP5/SBOs2/CP2】 PTスキルⅡ、理学療法診断学Ⅲ、検査実習 理学療法診断学Ⅰ・Ⅱ、検査実習	【DP6/SBOs2/CP2】	【DP7/SBOs2/CP2】
	【SBOs2/CP3】 データと情報を収集し、適切に管理できる。	【DP1/SBOs2/CP3】	【DP2/SBOs2/CP3】 神経系理学療法学Ⅰ、内科系理学療法学Ⅰ、 運動系理学療法学Ⅰ	【DP3/SBOs2/CP3】	【DP4/SBOs2/CP3】 運動学特論、運動系理学療法学Ⅰ、神経系理 学療法学Ⅰ、内科系理学療法学Ⅰ、動作分析 学	【DP5/SBOs2/CP3】 理学療法評価学、動作分析学、地域リハビ テーション実習	【DP6/SBOs2/CP3】	【DP7/SBOs2/CP3】 エビデンスベーストプラクティス
	【SBOs2/CP4】 他者と協働し、チームの一員として貢献でき る。	【DP1/SBOs2/CP4】	【DP2/SBOs2/CP4】 リハビリテーション医学	【DP3/SBOs2/CP4】	【DP4/SBOs2/CP4】	【DP5/SBOs2/CP4】 関連職種連携論 ケアマネジメント論	【DP6/SBOs2/CP4】 関連職種連携論 電子カルテシステム入門	【DP7/SBOs2/CP4】
3 年 次	【SBOs3/CP1】 理学療法専門分野および関連領域における 基礎的な知識を修得する。	【DP1/SBOs3/CP1】	【DP2/SBOs3/CP1】 病態運動学、運動療法学概論	【DP3/SBOs3/CP1】 グローバルなデジタルコミュニケーションⅠ・ Ⅱ	【DP4/SBOs3/CP1】 病態運動学、運動療法概論	【DP5/SBOs3/CP1】	【DP6/SBOs3/CP1】	【DP7/SBOs3/CP1】
	【SBOs3/CP2】 病態に応じた理学療法評価を正確に実施し、 一連の治療プログラムを認定できる。	【DP1/SBOs3/CP2】	【DP2/SBOs3/CP2】 理学療法治療学論 テーピング治療学	【DP3/SBOs3/CP2】	【DP4/SBOs3/CP2】 レクリエーション概論	【DP5/SBOs3/CP2】 理学療法治療学総論、運動系理学療法学 Ⅱ、神経系理学療法学Ⅱ、内科系理学療法 学Ⅱ、救急学、難病学、生活技術学、生活環 境学、小児理学療法学、 高齢者理学療法学、理学療法治療学特論 Ⅰ・Ⅱ、テーピング治療学	【DP6/SBOs3/CP2】 救急学、難病学	【DP7/SBOs3/CP2】
	【SBOs3/CP3】 収集した情報を基に、障害像の統合と解釈が できる。	【DP1/SBOs3/CP3】	【DP2/SBOs3/CP3】	【DP3/SBOs3/CP3】 PTスキルⅢ、PTスキルⅣ	【DP4/SBOs3/CP3】	【DP5/SBOs3/CP3】 PTスキルⅢ、PTスキルⅣ、地域理学療法学 演習、ユニバーサルリーニング、評価実習 リスクマネジメント論	【DP6/SBOs3/CP3】 評価実習、地域理学療法学演習	【DP7/SBOs3/CP3】 ユニバーサルリーニング
	【SBOs3/CP4】 理学療法の発展的な基礎知識を修得し、専 門職人としての倫理観を養い、関連する職 種間との連携に貢献できる。	【DP1/SBOs3/CP4】	【DP2/SBOs3/CP4】	【DP3/SBOs3/CP4】	【DP4/SBOs3/CP4】	【DP5/SBOs3/CP4】 理学療法研究のデザイン、関連職種連携 ワーク 運動心理学、ウェルネスヘルス理学療法学、 障がい者スポーツ概論、	【DP6/SBOs3/CP4】 関連職種連携ワーク、理学療法管理學 リハビリテーション実習学	【DP7/SBOs3/CP4】 理学療法研究のデザイン 先端機能解剖学、先端運動系理学療法学、 先端神経系理学療法学、先端内科系理学療 法学、先端スポーツ理学療法学、先端予防理 学療法学
4 年 次	【SBOs4/CP1】 理学療法専門分野および関連領域における 知識を修得し、それらを臨床応用できる能力 を獲得する。	【DP1/SBOs4/CP1】	【DP2/SBOs4/CP1】	【DP3/SBOs4/CP1】	【DP4/SBOs4/CP1】	【DP5/SBOs4/CP1】 理学療法学特論	【DP6/SBOs4/CP1】	【DP7/SBOs4/CP1】
	【SBOs4/CP2】 適切な評価を選択・実施できる。また、評価結 果から医学的根拠に基づいた一連の治療プ ログラムを立案し、治療の実施および再評価 することができる。	【DP1/SBOs4/CP2】	【DP2/SBOs4/CP2】	【DP3/SBOs4/CP2】	【DP4/SBOs4/CP2】	【DP5/SBOs4/CP2】 総合臨床実習	【DP6/SBOs4/CP2】 総合臨床実習	【DP7/SBOs4/CP2】
	【SBOs4/CP3】 臨床的な疑問点を探究し、その解決を図るた めの研究デザインや研究チームを構築する ことができる。また、計画に基づいた研究の実 施および結果の臨床応用について検討する ことができる。	【DP1/SBOs4/CP3】	【DP2/SBOs4/CP3】	【DP3/SBOs4/CP3】	【DP4/SBOs4/CP3】	【DP5/SBOs4/CP3】	【DP6/SBOs4/CP3】	【DP7/SBOs4/CP3】 卒業研究
	【SBOs4/CP4】 理学療法における応用的・発展的な知識を修 得し、関連職種へ情報提供および共有するこ とができる。	【DP1/SBOs4/CP4】	【DP2/SBOs4/CP4】	【DP3/SBOs4/CP4】	【DP4/SBOs4/CP4】	【DP5/SBOs4/CP4】 関連職種連携実習	【DP6/SBOs4/CP4】 関連職種連携実習	【DP7/SBOs4/CP4】 理学療法国際実習

## 8-3 作業療法学科

### 8-3-1 教育研究上の目的

成田保健医療学部の教育研究上の目的

理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、医学検査学、放射線・情報科学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれ十分な知識と技能を有し、国内外で保健医療の実践を担うことのできる応用能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成する。

成田保健医療学部作業療法学科の教育研究上の目的

作業療法学科は、高度で幅広い知識と技術を修得し、一人ひとりのニーズに応えられる柔軟性と応用力を身に付け、現状を科学的に分析し、変化にも機敏に対応し、国内外で活躍できる作業療法士を育成する。

### 8-3-2 アドミッションポリシー

#### 1. 求める学生像

本学が入学者に求める要件を十分理解し、作業療法士として、豊かな人間性と自己研鑽の意欲を兼ね備え、日々進化する保健・医療・福祉分野に対応し、他者と協働しながら課題解決する力を養うことが期待できる人

#### 2. 作業療法学科の入学者に求める要件

##### 1) 知識・技能

高等学校までの教科・科目やボランティア活動・課外活動を通して、作業療法とその関連領域についての学修を主体的かつ協調的に展開できる、基礎的な知識と技能を有していること。

##### 2) 思考力・判断力・表現力

保健・医療・福祉分野の課題解決に対して強い関心を持ち、論理的に思考・分析・判断し実行する力と他者との協働の基礎となるコミュニケーション能力を有していること。

##### 3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

「共に生きる社会」の実現に貢献したいという強い意志を持ち、他者を尊重し思いやる豊かな人間性、物事に対して誠実に向き合う態度を身につけていること。

### 8-3-3 ディプロマポリシー

DP1：作業療法士を目指す者として、建学の精神である「共に生きる社会」の実現を目指し、幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、社会的責務と倫理観を身につけている。

DP2：作業療法士を目指す者として、基礎的学力を養い、関連職種の機能を理解し連携を図ることの出来るコミュニケーション力を身につけている。

DP3：作業療法士を目指す者として、作業療法実践に必要な他者への共感的態度および自己の治療的応用 (Therapeutic Use of Self) を身につけている。

DP4：作業療法士を目指す者として、人々の生活機能を客観的・科学的に分析でき、作業療法を実践するために必要な専門的知識・技術を身につけている。

DP5：作業療法士を目指す者として、様々な状況において高度な専門的知識や技術を統合し創造的に課題解決に取り組む力を身につけている。



DP6：作業療法士を目指す者として、国内外問わず自らの活躍の場を模索し、生涯学習を行うことの重要性を認識し、科学的・創造的な探究心を持って作業療法分野の発展に向けて新しい知識を追求（研究活動）する方法を身につけている。

#### 8-3-4 カリキュラムポリシー

---

CP1：作業療法分野の基礎知識を体系的に理解するとともに、多様な背景を持つ人々の生活や価値観を大切に、社会生活を支える作業療法士を育成するための科目を設定する。

CP2：獲得した知識・技能・態度等を総合的に利用し、保健・医療・福祉の発展に寄与するため、人々の個性に着目しながら科学的・創造的探究ができる作業療法士を育成するための科目を設定する。

CP3：多様な人々と協働していくために必要なコミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力を社会の中で汎用的に活用できる作業療法士を育成するための科目を設定する。

CP4：常に向上心を持って自己研鑽できる専門職業人としての高い倫理観を有し、人間の生命、人間としての尊厳および権利を尊重できる作業療法士を育成するための科目を設定する。

#### 8-3-5 学年ごとの教育目標

---

##### < 1年次 (SB0s1) >

CP1：作業療法を含む保健医療福祉領域とその関連領域に関する基本的知識を修得する。

CP2：人々や社会とのかかわりにおける作業療法の役割を理解する。

CP3：作業療法学生として大学生活を送るにあたって必要な汎用的技能を身につける。

CP4：大学生として保健医療福祉領域の学修を進めるにあたって必要な態度・志向性を身につける。

##### < 2年次 (SB0s2) >

CP1：作業療法専門分野および関連領域における基礎的知識を修得する。

CP2：生活機能に応じた作業療法のかかわりを理解できる。

CP3：作業療法分野の専門教育を深めるにあたって必要な汎用的技能を身につける。

CP4：作業療法学生として専門教育を深めるにあたって必要な態度・志向性を身につける。

##### < 3年次 (SB0s3) >

CP1：作業療法専門分野および関連領域における応用的な知識を修得する。

CP2：生活機能に応じた作業療法評価を実施できる。

CP3：作業療法学生として臨床場面に参加するにあたって必要な汎用的技能を身につける。

CP4：作業療法学生として臨床場面に参加するにあたって必要な態度・志向性を身につける。

##### < 4年次 (SB0s4) >

CP1：作業療法専門分野およびその関連領域における発展的な知識を修得する。

CP2：生活機能に応じた作業療法による治療・訓練・支援を提供できる。

CP3：作業療法士として職業生活を始めるにあたって必要な汎用的技能を身につける。

CP4：作業療法士として職業生活を始めるにあたって必要な態度・志向性を身につける。

### 8-3-6 卒業に必要な単位数（作業療法学科 2024年度入学生）

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得すること。

なお、必修科目については、「授業科目一覧」を参照すること。

授業科目の区分		最低単位数	
		必修	選択
総合教育科目	人間系		4 単位以上
	社会系	3 単位	2 単位以上
	自然・情報系	2 単位	2 単位以上
	総合系	1 単位	
	外国語系	4 単位	2 単位以上
	保健体育系		
	小 計	10 単位	12 単位以上
専門教育科目	専門基礎科目	学部共通	10 単位
		学科専門	23 単位
	専門科目	61 単位	10 単位以上
	小 計	94 単位	10 単位以上
合 計		104 単位	22 単位以上
総 計		126 単位以上	

### 8-3-7 進級条件

(1) 1 学年から 2 学年への進級条件

1 学年の必修専門基礎科目・専門科目のうち単位未修得科目が 2 科目以下であること。

(2) 2 学年から 3 学年への進級条件

2 学年までの全必修科目のうち単位未修得科目が 2 科目以下であること。

(3) 3 学年から 4 学年への進級条件

3 学年までの必修科目の単位をすべて修得していること。

### 8-3-8 科目履修条件

なし

### 8-3-9 GPA制度の取り扱いについて

成績評価(f-GPA)が 2.0 未満の学生については、保護者を含めて学業へ取り組み等について面談を行う。

なお、GPA 制度については「6.成績」を参照のこと。

### 8-3-10 履修登録上限単位数

すべての学年において、1 年間に履修登録できる単位数を、50 単位未満とする。

1. 総合教育科目一覧

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備考	
			必修	選択			
人間系	文学論	1 2 3 4		2	30		
	演劇論	1 2 3 4		1	15		
	パフォーマンス表現論	1 2 3 4		2	30		
	心理学	1 2 3 4		2	30		
	哲学	1 2 3 4		2	30		
	コミュニケーション概論	1 2 3 4		2	30		
	雑談と傾聴～話す力と聴く力～	1 2 3 4		2	30		
	人間学	1 2 3 4		2	30		
	歴史学	1 2 3 4		2	30		
	倫理学	1 2 3 4		2	30		
	宗教学	1 2 3 4		2	30		
	日本近現代史	1 2 3 4		2	30		
	文化人類学	1 2 3 4		2	30		
	教育学	1 2 3 4		2	30		
	教育方法論	1 2 3 4		2	30		
	死生学-死を通して生を考える	1 2 3 4		2	30		
	社会系	法学	1 2 3 4		2	30	
		法と道徳・倫理	1 2 3 4		2	30	
医療関連法規		1 2 3 4		2	30		
我が国の社会福祉・医療保障政策の知識		1	1		30		
経済の仕組み		1 2 3 4		2	30		
経済の歴史		1 2 3 4		2	30		
世界の経済		1 2 3 4		2	30		
アジア諸国の経済・社会・文化		1 2 3 4		2	30		
世界の中の和文化		1 2 3 4		1	15		
経営の仕組み		1 2 3 4		2	30		
組織運営管理論		1 2 3 4		2	30		
社会学 (人間と社会)		1 2 3 4		2	30		
マスメディア論		1 2 3 4		2	30		
新聞でみた日本と世界		1 2 3 4		2	30		
国際関係論		1 2 3 4		2	30		
国際医療福祉論		1 2 3 4		2	30		
海外保健福祉事情 I (講義)		1 2	1		30		
海外保健福祉事情 II (実習)		2 3	1		45		
ボランティア論		1 2 3 4		2	30		
ボランティアコーディネート論		1 2 3 4		2	30		
手話入門		1 2 3 4		2	30		
防災と生活デザイン		1 2 3 4		2	30		
自然・情報系		統計学	1 2 3 4		2	30	
	疫学・保健医療統計学	1 2 3 4		2	30		
	数学	1 2 3 4		2	30		
	物理学	1 2 3 4		2	30		
	化学	1 2 3 4		2	30		
	生物学	1 2 3 4		2	30		
	データリテラシー	1	1		30		
	医療データサイエンス I (DS基礎)	2 3 4		1	30		
	医療データサイエンス II (AI基礎)	2 3 4		1	30		
	医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報-	1	1		30		
	医学/医療史	1 2 3 4		2	30		
	人間工学	1 2 3 4		2	30		
総合系	大学入門講座-医療人・社会人として成長するために-	1	1		30		
	郷土論	1 2 3 4		1	15		
	医療福祉教養講義	1 2 3 4		1	15		
	メディカルマナー入門	1 2 3 4		2	30		
	食と人間	1 2 3 4		1	15		
総合講義	1 2 3 4		1	15			



授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備考
			必修	選択		
総合教育科目	外国語系	英語講読1 (Primary)	1	1		30
		英語講読2 (Basic)	1	1		30
		英語CALL1 (Primary)	1	1		30
		英語CALL2 (Basic)	1	1		30
		英語講読3 (Intermediate)	2 3 4		1	30
		英語講読4 (Advanced)	2 3 4		1	30
		英語会話1 (Primary)	1 2 3 4		1	30
		英語会話2 (Basic)	1 2 3 4		1	30
		英語会話3 (Intermediate)	2 3 4		1	30
		英語会話4 (Advanced)	2 3 4		1	30
		英語ライティング1 (Primary)	1 2 3 4		1	30
		英語ライティング2 (Basic)	1 2 3 4		1	30
		国際医療通訳入門	1 2 3 4		1	30
		資格英語1 (Primary)	1 2 3 4		1	30
		資格英語2 (Basic)	1 2 3 4		1	30
		基礎英文法1 (Primary)	1 2 3 4		1	30
		基礎英文法2 (Basic)	1 2 3 4		1	30
		上級英語文献講読	1 2 3 4		1	30
		上級英語会話1 (発展)	1 2 3 4		1	30
		上級英語会話2 (総合)	1 2 3 4		1	30
		ドイツ語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30
		ドイツ語基礎(会話含む)	1 2 3 4		1	30
		中国語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30
		中国語基礎(会話含む)	1 2 3 4		1	30
		韓国語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30
		韓国語基礎(会話含む)	1 2 3 4		1	30
		フランス語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30
		フランス語基礎(会話含む)	1 2 3 4		1	30
		スペイン語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30
		スペイン語基礎(会話含む)	1 2 3 4		1	30
		タイ語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30
		タイ語基礎(会話含む)	1 2 3 4		1	30
		ベトナム語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30
		ベトナム語基礎(会話含む)	1 2 3 4		1	30
		ビルマ語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30
		ビルマ語基礎(会話含む)	1 2 3 4		1	30
		日本語I-A(文法・表現)	1 2 3 4		1	30
		日本語I-B(記述)	1 2 3 4		1	30
		日本語I-C(読解)	1 2 3 4		1	30
		日本語I-D(会話)	1 2 3 4		1	30
		日本語II-A(文法・表現)	1 2 3 4		1	30
		日本語II-B(記述)	1 2 3 4		1	30
		日本語II-C(読解)	1 2 3 4		1	30
		日本語II-D(会話)	1 2 3 4		1	30
		日本語III-A(文法・表現)	1 2 3 4		1	30
		日本語III-B(記述)	1 2 3 4		1	30
		日本語III-C(読解)	1 2 3 4		1	30
		日本語III-D(会話)	1 2 3 4		1	30
	医療福祉専門漢字	1 2 3 4		1	30	
	医療福祉専門語彙	1 2 3 4		1	30	
	保健体育系	健康科学理論	1 2 3 4		1	15
		健康科学実践	1 2 3 4		1	30

2. 専門教育科目一覧

	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間	備考	
			必修	選択			
専門基礎科目 / 学部共通	公衆衛生学	1	2		30		
	救急医学	2	1		15		
	感染と免疫	1 2		2	30		
	リハビリテーション概論	1	2		30		
	関連職種連携論	2	2		30		
	ケアマネジメント論	2 3		1	15		
	ケースワーク論	1 2		1	15		
	医療管理学	2 3		2	30		
	保健医療福祉制度論	3 4		2	30		
	社会福祉学	1 2		2	30		
	臨床心理学概論	2	2		30		
	医療情報学概論	2 3		2	30		
	福祉支援工学概論	1 2		2	30		
	関連職種連携ワーク	3	1		30		
	関連職種連携実習	4		1	45		
	リスクマネジメント論	3 4		2	30		
	電子カルテシステム入門	2 3		1	15		
	エビデンスベースドプラクティス (研究と文献)	2 3		1	15		
	レクリエーション概論	3 4		1	15		
	災害保健学	1 2		1	15		
	予防保健学	1 2		1	15		
	国際医療保健学	1 2		1	15		
	異文化体験実習	1 2		1	45		
	専門教育科目	解剖学Ⅰ (運動器系、循環器系)	1	1		30	
		解剖学Ⅱ (内臓学、神経系、感覚器系)	1	1		30	
		解剖学実習	1	1		45	
生理学Ⅰ (植物性機能)		1	1		30		
生理学Ⅱ (動物性機能)		1	1		30		
生理学実習		1	1		45		
運動学Ⅰ (基礎)		1	1		30		
運動学Ⅱ (応用)		1	1		30		
運動学実習		2	1		45		
運動生理学		2	1		30		
病理学		2	1		30		
内科学		2	1		30		
神経学Ⅰ (基礎)		2	1		30		
神経学Ⅱ (臨床)		2	1		30		
整形外科Ⅰ (基礎)		2	1		30		
整形外科Ⅱ (臨床)		2	1		30		
精神医学Ⅰ (基礎)		2	1		30		
精神医学Ⅱ (臨床)		2	1		30		
小児科学		2	1		30		
老年学		2	1		30		
リハビリテーション医学		2	1		30		
人間発達学		1	1		30		
病態生理学		2 3		1	15		
臨床薬理学概論		2	1		15		
栄養学		2 3		1	15		
外科学		2 3		1	15		
脳神経外科学		2 3		1	15		
神経心理学概論		2 3		1	15		
対人援助論		1 2		1	15		
国際医療保健学演習		2 3 4		1	15		
国際医療保健学実習		2 3 4		1	45		

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備 考	
			必修	選択			
専門教育科目	専門科目	作業療法概論	1	1		15	
		作業学概論	1	1		15	
		作業工程技術学・基礎論	1	1		30	
		作業工程技術学・応用論	3	1		30	
		作業分析学Ⅰ（基礎）	1	1		30	
		作業分析学Ⅱ（応用）	2	1		30	
		作業応用論	2 3		1	30	
		研究法概論	3	1		15	
		研究法演習	3	1		30	
		卒業研究	4		1	30	
		作業療法管理学Ⅰ（基礎）	3	1		15	
		作業療法管理学Ⅱ（応用）	4	1		15	
		作業療法総括論	4	1		30	
		作業療法評価学概論	2	1		15	
		作業療法評価学各論	2	1		30	
		作業療法評価学演習	2	1		30	
		基礎運動機能評価法	2	1		30	
		生活機能論	2	1		15	
		基礎精神機能評価法	2	1		30	
		上肢機能評価法	2 3		1	15	
		日常生活活動評価法	2 3		1	15	
		高次脳機能評価法	2 3		1	15	
		作業療法適用学概論	2	1		15	
		内科系疾患作業療法学	3	1		30	
		運動器疾患作業療法学	3	1		30	
		中枢神経疾患作業療法学Ⅰ（総論）	3	1		30	
		中枢神経疾患作業療法学Ⅱ（各論）	3	1		30	
		精神疾患作業療法学Ⅰ（総論）	3	1		30	
		精神疾患作業療法学Ⅱ（各論）	3	1		30	
		小児作業療法学Ⅰ（総論）	3	1		30	
		小児作業療法学Ⅱ（各論）	3	1		30	
		老年作業療法学	3	1		30	
		作業療法諸理論	4		1	15	
		作業療法応用学概論	3	1		15	
		就学・就労支援論	3	1		15	
		生活技術学Ⅰ（総論）	2	1		30	
		生活技術学Ⅱ（各論）	3	1		30	
		コミュニケーション技術論	1 2		1	30	
		職業関連技術学	3	1		30	
		地域生活作業療法論	3	1		30	
		リハビリテーション英語Ⅰ（基礎）	2 3		1	15	
		リハビリテーション英語Ⅱ（応用）	2 3		1	15	
		災害リハビリテーション学	3 4		1	15	
		認知症作業療法特論	3 4		1	15	
		先端作業療法特論	1 2		1	15	
		地域生活支援論	3 4		1	15	
		障害代償学概論	3	1		15	
		住環境整備論	3	1		15	
		義肢・装具・副子適用論	3	1		30	
		自助具・福祉機器適用論	3	1		30	
バリアフリー論	2 3		1	15			
臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	1		1	45			
臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	2		1	45			
臨床実習Ⅲ（臨床評価）	3	2		90			
臨床実習Ⅳ（臨床推論）	3	5		225			
総合実習Ⅰ（作業療法実践）	4	7		315			
総合実習Ⅱ（作業療法実践）	4	6		270			
地域リハビリテーション実習	3	1		45			
地域生活支援システム実習	4	1		45			
臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	1 2		1	15			
臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	2 3		1	15			
臨床実習ゼミⅢ（作業療法計画立案）	3 4		1	15			
臨床実習ゼミⅣ（作業療法実践）	4		1	15			
臨床実習特論	3		1	15			

		ディプロマ・ポリシー(DP)					
		[DP1]	[DP2]	[DP3]	[DP4]	[DP5]	[DP6]
		作業療法士を目指す者として、健康の精神である「共生」を社会の実現を目指し、幅広い職業・業種に資する、人間関係、医師的倫理観を養い、社会的責任と倫理観を身に付けている。	作業療法士を目指す者として、基礎的学力を養い、関連職種の職業で自己の活動的応用(Theoretical Use of Self)を身に付けている。	作業療法士を目指す者として、作業療法実践に必要な他者への共感的態度および自己の活動的応用(Theoretical Use of Self)を身に付けている。	作業療法士を目指す者として、人々の生活機能を客観的に科学的に評価し、作業療法を実施するために必要な専門的知識・技能を身に付けている。	作業療法士を目指す者として、様々な状況において高度な専門的知識や技能を統合し創造的に課題解決に取り組む力を身に付けている。	作業療法士を目指す者として、国内外問わず自らの活躍の場を構築し、生涯学習を行うことの重要性を認識し、科学的・創造的な探究心を持って作業療法分野の発展に向けて新しい知識を追求(研究活動)する方法を身に付けている。
1 年 次	[SBOs1/CP1]	[DP1/SBOs1/CP1] 海外保健福祉事情Ⅰ(講義)、英語基礎Ⅰ(Primary)、英語基礎Ⅱ(Basic)、英語CALLⅠ(Primary)、英語CALLⅡ(Basic)、文法論、読解論、パワーポイント実習、心理学、哲学、人間学、歴史学、宗教学、日本近現代史、文化人類学、教育学、教育方法論、死生学→死を通じて生を考える、法学、法と道徳・倫理、医療関連法規、経済の仕組み、経済の歴史、世界の経済、アジア諸国の経済・社会・文化、世界の中的文化、経済の仕組み、組織運営管理論、社会学(人間と社会)、マスメディア論、新聞でみた日本と世界、国際関係論、国際医療福祉論、ITシステム論、ITシステムイノベーション論、非営利部門、防災と生活デザイン、数学、物理学、化学、生物学、医学/医療史、人間工学、薬土論、医療福祉教養講義、食と人間、総合講義、英語会話Ⅰ(Primary)、英語会話Ⅱ(Basic)、英語ライティングⅠ(Primary)、英語ライティングⅡ(Basic)、国際医療福祉入門、資格英語Ⅰ(Primary)、資格英語Ⅱ(Basic)、基礎英文法Ⅰ(Primary)、基礎英文法Ⅱ(Basic)、上級英会話基礎Ⅰ、上級英会話Ⅱ(発展)、上級英会話Ⅲ(総合)、ドイツ語入門(会話含む)、中国語基礎(会話含む)、中国語入門(会話含む)、中国語基礎(会話含む)、韓国語入門(会話含む)、韓国語基礎(会話含む)、フランス語入門(会話含む)、フランス語基礎(会話含む)、スペイン語入門(会話含む)、スペイン語基礎(会話含む)、タイ語入門(会話含む)、タイ語基礎(会話含む)、ベトナム語入門(会話含む)、ベトナム語基礎(会話含む)、ヒルメック入門(会話含む)、ヒルメック基礎(会話含む)、日本語Ⅰ-A(文法・表現)、日本語Ⅰ-B(読解)、日本語Ⅰ-C(読解)、日本語Ⅰ-D(会話)、日本語Ⅰ-A(文法・表現)、日本語Ⅰ-B(読解)、日本語Ⅰ-C(読解)、日本語Ⅰ-D(会話)、日本語Ⅱ-A(文法・表現)、日本語Ⅱ-B(読解)、日本語Ⅱ-C(読解)、日本語Ⅱ-D(会話)、医療福祉専門漢字、医療福祉専門語彙、健康科学概論、健康科学	[DP2/SBOs1/CP1] 海外保健福祉事情Ⅰ(講義)、英語基礎Ⅰ(Primary)、英語基礎Ⅱ(Basic)、英語CALLⅠ(Primary)、英語CALLⅡ(Basic)、文法論、読解論、パワーポイント実習、心理学、哲学、人間学、歴史学、宗教学、日本近現代史、文化人類学、教育学、教育方法論、死生学→死を通じて生を考える、法学、法と道徳・倫理、医療関連法規、経済の仕組み、経済の歴史、世界の経済、アジア諸国の経済・社会・文化、世界の中的文化、経済の仕組み、組織運営管理論、社会学(人間と社会)、マスメディア論、新聞でみた日本と世界、国際関係論、国際医療福祉論、ITシステム論、ITシステムイノベーション論、非営利部門、防災と生活デザイン、数学、物理学、化学、生物学、医学/医療史、人間工学、薬土論、医療福祉教養講義、食と人間、総合講義、英語会話Ⅰ(Primary)、英語会話Ⅱ(Basic)、英語ライティングⅠ(Primary)、英語ライティングⅡ(Basic)、国際医療福祉入門、資格英語Ⅰ(Primary)、資格英語Ⅱ(Basic)、基礎英文法Ⅰ(Primary)、基礎英文法Ⅱ(Basic)、上級英会話基礎Ⅰ、上級英会話Ⅱ(発展)、上級英会話Ⅲ(総合)、ドイツ語入門(会話含む)、中国語基礎(会話含む)、中国語入門(会話含む)、中国語基礎(会話含む)、韓国語入門(会話含む)、韓国語基礎(会話含む)、フランス語入門(会話含む)、フランス語基礎(会話含む)、スペイン語入門(会話含む)、スペイン語基礎(会話含む)、タイ語入門(会話含む)、タイ語基礎(会話含む)、ベトナム語入門(会話含む)、ベトナム語基礎(会話含む)、ヒルメック入門(会話含む)、ヒルメック基礎(会話含む)、日本語Ⅰ-A(文法・表現)、日本語Ⅰ-B(読解)、日本語Ⅰ-C(読解)、日本語Ⅰ-D(会話)、日本語Ⅰ-A(文法・表現)、日本語Ⅰ-B(読解)、日本語Ⅰ-C(読解)、日本語Ⅰ-D(会話)、医療福祉専門漢字、医療福祉専門語彙、健康科学概論、健康科学	[DP3/SBOs1/CP1] 作業療法概論、対人援助論	[DP4/SBOs1/CP1] 作業療法概論、作業学概論、作業工程技術学・基礎論、作業分析学Ⅰ(基礎)、先期作業療法特論	[DP5/SBOs1/CP1]	[DP6/SBOs1/CP1]
	[SBOs1/CP2]	[DP1/SBOs1/CP2]	[DP2/SBOs1/CP2]	[DP3/SBOs1/CP2] 作業療法概論、臨床実習Ⅰ(早期臨床見学)、臨床実習ゼミⅠ(作業療法総論)	[DP4/SBOs1/CP2] 作業療法概論、作業学概論、臨床実習Ⅰ(早期臨床見学)、臨床実習ゼミⅠ(作業療法総論)	[DP5/SBOs1/CP2] 臨床実習Ⅰ(早期臨床見学)、臨床実習ゼミⅠ(作業療法総論)	[DP6/SBOs1/CP2]
	[SBOs1/CP3]	[DP1/SBOs1/CP3] 大学入門講義、デジタルリテラシー、コミュニケーション概論、英会話(基礎～話す力と聴く力)、統計学、疫学・保健医療統計学	[DP2/SBOs1/CP3] 大学入門講義、異文化体験実習	[DP3/SBOs1/CP3] 臨床実習Ⅰ(早期臨床見学)、コミュニケーション技術論	[DP4/SBOs1/CP3] 臨床実習Ⅰ(早期臨床見学)、コミュニケーション技術論	[DP5/SBOs1/CP3] 臨床実習Ⅰ(早期臨床見学)	[DP6/SBOs1/CP3] 異文化体験実習
	[SBOs1/CP4]	[DP1/SBOs1/CP4] 大学入門講義、医療必修、メディカルマナー入門	[DP2/SBOs1/CP4] 大学入門講義、対人援助論	[DP3/SBOs1/CP4] 臨床実習Ⅰ(早期臨床見学)	[DP4/SBOs1/CP4] 臨床実習Ⅰ(早期臨床見学)	[DP5/SBOs1/CP4] 臨床実習Ⅰ(早期臨床見学)	[DP6/SBOs1/CP4]
2 年 次	[SBOs2/CP1]	[DP1/SBOs2/CP1] 海外保健福祉事情Ⅱ(実習)、英語基礎Ⅲ(Intermediate)、英語会話Ⅲ(Advanced)、英語会話Ⅳ(Intermediate)、英語会話Ⅴ(Advanced)	[DP2/SBOs2/CP1] 救急医学、関連職種連携論、臨床心理学概論、運動学実習、運動生理学、病態学、内科学、神経学Ⅰ・Ⅱ、整形外科Ⅰ・Ⅱ、精神医学Ⅰ・Ⅱ、皮膚科学、老年学、リハビリテーション医学、臨床薬理学概論、感染と免疫、ケアマネジスト論、医療管理学、医療倫理学概論、電子カルテシステム入門、医療保健学、病態生理学、栄養学、外科学、脳神経科学、神経心理学概論、トピックフォーラム(英語Ⅰ(基礎)、リハビリテーション英語Ⅱ(応用))	[DP3/SBOs2/CP1] 生活機能論、作業分析学Ⅱ(応用)、作業療法評価学概論、作業療法評価学各論、作業療法評価学演習、基礎的機能評価法、基礎的機能評価法、生活技術学Ⅰ(総論)、作業応用論、上肢機能評価法、日常生活活動評価法、高次知能評価法、バリプリアー論	[DP4/SBOs2/CP1] 生活機能論、作業分析学Ⅱ(応用)、作業療法評価学概論、作業療法評価学各論、作業療法評価学演習、基礎的機能評価法、基礎的機能評価法、生活技術学Ⅰ(総論)、作業応用論、上肢機能評価法、日常生活活動評価法、高次知能評価法、バリプリアー論	[DP5/SBOs2/CP1] 作業療法適用学概論、生活技術学Ⅰ(総論)、バリプリアー論	[DP6/SBOs2/CP1] リハビリテーション英語Ⅱ(基礎)、リハビリテーション英語Ⅲ(応用)
	[SBOs2/CP2]	[DP1/SBOs2/CP2]	[DP2/SBOs2/CP2] 国際医療保健学実習	[DP3/SBOs2/CP2] 臨床実習Ⅱ(早期臨床体験)、臨床実習ゼミⅡ(作業療法実践過程)	[DP4/SBOs2/CP2] 作業療法評価学各論、作業療法評価学演習、生活技術学Ⅱ(総論)、臨床実習Ⅱ(早期臨床体験)、基礎的機能評価法、生活技術学Ⅱ(総論)、作業応用論、上肢機能評価法、臨床実習ゼミⅡ(作業療法実践過程)	[DP5/SBOs2/CP2] 作業療法適用学概論、生活技術学Ⅱ(総論)、臨床実習Ⅱ(早期臨床体験)、臨床実習ゼミⅡ(作業療法実践過程)	[DP6/SBOs2/CP2] 国際医療保健学実習
	[SBOs2/CP3]	[DP1/SBOs2/CP3] 医療データサイエンスⅠ-Ⅱ	[DP2/SBOs2/CP3] ヒルメックデータサイエンス(研究と実務)	[DP3/SBOs2/CP3] 臨床実習Ⅱ(早期臨床体験)	[DP4/SBOs2/CP3] 臨床実習Ⅱ(早期臨床体験)、臨床実習ゼミⅡ(作業療法実践過程)	[DP5/SBOs2/CP3] 臨床実習Ⅱ(早期臨床体験)、臨床実習ゼミⅡ(作業療法実践過程)	[DP6/SBOs2/CP3]
	[SBOs2/CP4]	[DP1/SBOs2/CP4]	[DP2/SBOs2/CP4]	[DP3/SBOs2/CP4] 臨床実習Ⅱ(早期臨床体験)	[DP4/SBOs2/CP4] 臨床実習Ⅱ(早期臨床体験)	[DP5/SBOs2/CP4] 臨床実習Ⅱ(早期臨床体験)	[DP6/SBOs2/CP4]
3 年 次	[SBOs3/CP1]	[DP1/SBOs3/CP1]	[DP2/SBOs3/CP1] 内科系作業療法学、運動器疾患作業療法学、中核神経疾患作業療法学Ⅰ(総論)、中核神経疾患作業療法学Ⅱ(各論)、精神疾患作業療法学Ⅰ(総論)、精神疾患作業療法学Ⅱ(各論)、小児作業療法学Ⅰ(総論)、小児作業療法学Ⅱ(各論)、老年作業療法学、認知症作業療法特論	[DP3/SBOs3/CP1] 内科系作業療法学、運動器疾患作業療法学、中核神経疾患作業療法学Ⅰ(総論)、中核神経疾患作業療法学Ⅱ(各論)、精神疾患作業療法学Ⅰ(総論)、精神疾患作業療法学Ⅱ(各論)、小児作業療法学Ⅰ(総論)、小児作業療法学Ⅱ(各論)、老年作業療法学、認知症作業療法特論	[DP4/SBOs3/CP1] 作業工程技術学Ⅱ(応用)、作業療法総括論、作業療法特論	[DP5/SBOs3/CP1] 作業療法適用学概論、生活技術学Ⅲ(総論)、臨床実習Ⅲ(早期臨床体験)、臨床実習ゼミⅢ(作業療法実践過程)	[DP6/SBOs3/CP1] 内科系作業療法学、運動器疾患作業療法学、中核神経疾患作業療法学Ⅰ(総論)、中核神経疾患作業療法学Ⅱ(各論)、精神疾患作業療法学Ⅰ(総論)、精神疾患作業療法学Ⅱ(各論)、小児作業療法学Ⅰ(総論)、小児作業療法学Ⅱ(各論)、老年作業療法学、作業療法応用学概論、視学・就労支援論、生活技術学Ⅲ(各論)、職業関連技術学、地域生活作業療法学、地域生活作業療法論、障害代償学概論、住環境整備論、義肢・装具・褥子適用論、自助具・福祉機器適用論、認知症作業療法特論、地域生活支援論
	[SBOs3/CP2]	[DP1/SBOs3/CP2]	[DP2/SBOs3/CP2] 関連職種連携ワーク、国際医療保健学実習	[DP3/SBOs3/CP2] 内科系作業療法学、運動器疾患作業療法学、中核神経疾患作業療法学Ⅰ(総論)、中核神経疾患作業療法学Ⅱ(各論)、精神疾患作業療法学Ⅰ(総論)、精神疾患作業療法学Ⅱ(各論)、小児作業療法学Ⅰ(総論)、小児作業療法学Ⅱ(各論)、老年作業療法学、認知症作業療法特論	[DP4/SBOs3/CP2] 作業工程技術学Ⅱ(応用)、作業療法総括論、作業療法特論	[DP5/SBOs3/CP2] 作業療法適用学概論、生活技術学Ⅲ(総論)、臨床実習Ⅲ(早期臨床体験)、臨床実習ゼミⅢ(作業療法実践過程)	[DP6/SBOs3/CP2] 国際医療保健学実習
	[SBOs3/CP3]	[DP1/SBOs3/CP3]	[DP2/SBOs3/CP3] 関連職種連携ワーク	[DP3/SBOs3/CP3] 臨床実習Ⅲ(臨床評価)、臨床実習Ⅳ(臨床推論)、地域リハビリテーション実習	[DP4/SBOs3/CP3] 臨床実習Ⅲ(臨床評価)、臨床実習Ⅳ(臨床推論)、地域リハビリテーション実習	[DP5/SBOs3/CP3] 臨床実習Ⅲ(臨床評価)、臨床実習Ⅳ(臨床推論)、地域リハビリテーション実習	[DP6/SBOs3/CP3] 研究法概論、研究法演習
	[SBOs3/CP4]	[DP1/SBOs3/CP4]	[DP2/SBOs3/CP4]	[DP3/SBOs3/CP4] 臨床実習Ⅲ(臨床評価)、臨床実習Ⅳ(臨床推論)、地域リハビリテーション実習	[DP4/SBOs3/CP4] 臨床実習Ⅲ(臨床評価)、臨床実習Ⅳ(臨床推論)、地域リハビリテーション実習	[DP5/SBOs3/CP4] 臨床実習Ⅲ(臨床評価)、臨床実習Ⅳ(臨床推論)、地域リハビリテーション実習	[DP6/SBOs3/CP4]
4 年 次	[SBOs4/CP1]	[DP1/SBOs4/CP1]	[DP2/SBOs4/CP1]	[DP3/SBOs4/CP1]	[DP4/SBOs4/CP1] 作業療法管理学Ⅱ(応用)、作業療法総括論、作業療法特論	[DP5/SBOs4/CP1]	[DP6/SBOs4/CP1]
	[SBOs4/CP2]	[DP1/SBOs4/CP2]	[DP2/SBOs4/CP2] 関連職種連携実習	[DP3/SBOs4/CP2] 総合実習Ⅰ(作業療法実習)、総合実習Ⅱ(作業療法実習)、地域生活支援システム実習、臨床実習ゼミⅣ(作業療法実践)	[DP4/SBOs4/CP2] 総合実習Ⅰ(作業療法実習)、総合実習Ⅱ(作業療法実習)、地域生活支援システム実習、臨床実習ゼミⅣ(作業療法実践)	[DP5/SBOs4/CP2] 総合実習Ⅰ(作業療法実習)、総合実習Ⅱ(作業療法実習)、地域生活支援システム実習、臨床実習ゼミⅣ(作業療法実践)	[DP6/SBOs4/CP2]
	[SBOs4/CP3]	[DP1/SBOs4/CP3]	[DP2/SBOs4/CP3] 関連職種連携実習	[DP3/SBOs4/CP3] 総合実習Ⅰ(作業療法実習)、総合実習Ⅱ(作業療法実習)、地域生活支援システム実習	[DP4/SBOs4/CP3] 総合実習Ⅰ(作業療法実習)、総合実習Ⅱ(作業療法実習)、地域生活支援システム実習	[DP5/SBOs4/CP3] 総合実習Ⅰ(作業療法実習)、総合実習Ⅱ(作業療法実習)、地域生活支援システム実習	[DP6/SBOs4/CP3] 卒業研究
	[SBOs4/CP4]	[DP1/SBOs4/CP4]	[DP2/SBOs4/CP4]	[DP3/SBOs4/CP4] 総合実習Ⅰ(作業療法実習)、総合実習Ⅱ(作業療法実習)、地域生活支援システム実習	[DP4/SBOs4/CP4] 総合実習Ⅰ(作業療法実習)、総合実習Ⅱ(作業療法実習)、地域生活支援システム実習	[DP5/SBOs4/CP4] 総合実習Ⅰ(作業療法実習)、総合実習Ⅱ(作業療法実習)、地域生活支援システム実習	[DP6/SBOs4/CP4]

各年次の教育目標(到達目標・SBOs)



## 8-4 言語聴覚学科

### 8-4-1 教育研究上の目的

成田保健医療学部の教育研究上の目的

理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、医学検査学、放射線・情報科学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれ十分な知識と技能を有し、国内外で保健医療の実践を担うことのできる応用能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成する。

成田保健医療学部言語聴覚学科の教育研究上の目的

言語聴覚学科は、検査、指導、訓練の技術を修得し、コミュニケーション能力や言語能力に障害をもつ方の回復を支援するために必要なスキルを身に付け、人間の尊厳を支える高度な専門職として、国内外で活躍できる言語聴覚士を育成する。

### 8-4-2 アドミッションポリシー

#### 1. 求める学生像

本学が入学者に求める要件を十分理解し、言語聴覚士をめざす者として、豊かな心、コミュニケーション能力、多彩な学問領域に対する関心や学ぶ意欲を持ち、保健・医療・福祉分野における高度化・専門化及び国際化に対応できる優れた臨床家となり、保健・医療・福祉・教育などの分野の発展に寄与することが期待できる人

#### 2. 言語聴覚学科の入学者に求める要件

##### 1) 知識・技能

高等学校時代の文系科目の修得を通して身につけた読解力・文章力・コミュニケーション能力、及び理数系科目の修得を通して身につけた論理的な思考力、科学的な理解力を有していること。

##### 2) 思考力・判断力・表現力

新しい知識を学ぶ意欲、筋道を立てて科学的に思考・分析・判断し、表現する力、言語聴覚領域とその関連分野の進歩や国際化に対応できる好奇心・向上心と努力を継続する力を有していること。

##### 3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

本学の基本理念及び教育理念を十分理解し、言語聴覚士として「共に生きる社会」の実現に貢献したいという意志を持ち、他を思いやり、他者の意見を受け入れ主体的に協調しようとする態度を身につけていること。

### 8-4-3 ディプロマポリシー

DP1：言語聴覚士を目指す者として、社会的責務と倫理観を基盤とした幅広い教養と豊かな人間性を身につけている。

DP2：言語聴覚士を目指す者として、国際化社会に対応できるグローバルな感覚と視点を身につけている。

DP3：言語聴覚士を目指す者として、言語聴覚障害学の基盤となる知識・技能を修得し、科学的・論理的思考力を身につけている。

DP4：言語聴覚士を目指す者として、多岐にわたる言語聴覚障害に対応可能な専門的知識と臨床技能を修得し、体系的に実践する力を身につけている。

DP5：言語聴覚士を目指す者として、高いコミュニケーションスキルを有し、「対象者中心の臨床」を実践する力を身につけている。

DP6：言語聴覚士を目指す者として、他職種の専門性を理解したうえで協働・連携し、チームの一員として貢献する力を身につけている。

DP7：言語聴覚士を目指す者として、自らの専門性について主体的に探究し、資質向上のために生涯にわたって努力し続けることの重要性を認識し、新しい知識を追求(研究活動)する方法を身につけている。

---

#### 8-4-4 カリキュラムポリシー

CP1：言語聴覚療法の基盤となる基礎的な知識・技能を有する人材を育成するための科目を設定する。

CP2：高度な専門的知識・技能を有し、適切な言語聴覚療法を提供できる人材を育成するための科目を設定する。

CP3：臨床思考力・技能を高めるとともに人間性を養い、チーム医療・チームケアの一員として活動できる人材を育成するための科目を設定する。

CP4：大学院教育・生涯教育を視野に、常に向上心を持って自己研鑽できる専門職業人としての高い倫理観を有した人材を育成するための科目を設定する。

---

#### 8-4-5 学年ごとの教育目標

##### < 1年次 (SB0s1) >

CP1：社会人・医療人としての基礎学力と多文化・異文化理解を含む教養を身につける。

CP2：保健医療福祉における言語聴覚療法の位置づけを理解し、言語聴覚士の役割を説明できる。

CP3：言語聴覚士の職務と社会での役割を理解し、基本的なコミュニケーションスキルを身につけることができる。

CP4：多様な学問領域や社会問題に関心を持ち、主体的な学びを通し、豊かな人間性を獲得することができる。

##### < 2年次 (SB0s2) >

CP1：言語聴覚士に必要な保健医療福祉や多文化・異文化に関する知識を修得する。

CP2：言語聴覚臨床の流れを理解し、各種言語聴覚障害の原因・症状・発生メカニズムに関する基本的知識や論理的思考力を獲得する。

CP3：情報収集の手法について学び、データの適切な管理とまとめ方を身につけることができる。

CP4：チーム医療・チームケアの基礎を理解し、他者と協力する態度や姿勢を身につける。

##### < 3年次 (SB0s3) >

CP1：言語聴覚障害領域および関連領域における基礎的知識を修得する。

CP2：各種言語聴覚障害の評価・診断および代表的な訓練・指導に関する知識や技能を修得できる。

CP3：言語聴覚障害および関連領域から収集した情報を統合し、論理的に解釈できる。

CP4：言語聴覚士に必要とされる高い倫理観と探究心を身につけることができる。

##### < 4年次 (SB0s4) >

CP1：言語聴覚障害領域および関連領域における専門的知識を修得し、それらを臨床応用できる能力を獲得する。

- CP2：言語聴覚療法に関する知識や技能を統合し、代表的な言語聴覚障害の評価・診断および訓練・指導を実施することができる。
- CP3：リサーチマインドを持ち、科学的な根拠に基づく臨床の概念や研究のプロセスに関する基礎知識を修得することができる。
- CP4：チーム医療の中で対象者中心の臨床を実践するために、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につける。

### 8-4-6 卒業に必要な単位数（言語聴覚学科 2024年度入学生）

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得すること。

なお、必修科目については、「授業科目一覧」を参照すること。

授業科目の区分		最低単位数		備考
		必修	選択	
総合教育科目	人間系		6単位以上	指定の12単位に加え2単位以上
	社会系	3単位	3単位以上	
	自然・情報系	4単位	1単位以上	
	総合系	1単位		
	外国語系	4単位	2単位以上	
	保健体育系	2単位		
	小計	14単位	14単位以上	
専門教育科目	専門基礎科目	学部共通	7単位	10単位以上  〈選択必修〉 選択10単位のうち、 8単位は選択必修科目から修得すること。
		学科専門	32単位	
	専門科目	49単位		
	小計	88単位	10単位以上	
合計		102単位	24単位以上	
総計		126単位以上		

### 8-4-7 進級条件

(1) 2学年から3学年への進級条件

2学年までの必修の専門科目（専門基礎科目は除く）の単位をすべて修得していること。

(2) 3学年から4学年への進級条件

3学年までの必修科目の単位をすべて修得していること。

### 8-4-8 GPA制度の取り扱いについて

成績評価（f-GPA）が2.0未満の学生については、保護者を含めて学業へ取り組み等について面談を行うことがある。

### 8-4-9 科目履修条件

臨床実習Ⅰ（基礎）：3年次前期までの必修科目に合格していること。

### 8-4-10 履修登録上限単位数

すべての学年において、1年間に履修登録できる単位数を、50単位未満とする。



1. 総合教育科目一覧

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備考
			必修	選択		
人間系	文学論	1 2 3		2	30	
	演劇論	1 2 3		1	15	
	パフォーマンス表現論	1 2 3		2	30	
	心理学	1 2		2	30	
	哲学	1 2 3		2	30	
	コミュニケーション概論	1 2		2	30	
	雑談と傾聴～話す力と聴く力～	1 2 3		2	30	
	人間学	1 2		2	30	
	歴史学	1 2		2	30	
	倫理学	1 2		2	30	
	宗教学	1 2		2	30	
	日本近現代史	1 2		2	30	
	文化人類学	1 2 3		2	30	
	教育学	1 2		2	30	
	教育方法論	1 2 3 4		2	30	
	死生学-死を通して生を考える	1 2		2	30	
	社会系	法学	1 2		2	30
法と道徳・倫理		1 2		2	30	
医療関連法規		1 2 3		2	30	
我が国の社会福祉・医療保障政策の知識		1	1		30	
経済の仕組み		1 2 3		2	30	
経済の歴史		1 2		2	30	
世界の経済		1 2 3		2	30	
アジア諸国の経済・社会・文化		1 2		2	30	
世界の中の和文化		1 2 3		1	15	
経営の仕組み		1 2 3		2	30	
組織運営管理論		1 2 3		2	30	
社会学 (人間と社会)		1 2 3		2	30	
マスメディア論		1 2		2	30	
新聞でみた日本と世界		1 2 3		2	30	
国際関係論		1 2 3		2	30	
国際医療福祉論		1 2 3		2	30	
海外保健福祉事情 I (講義)		1 2	1		30	
海外保健福祉事情 II (実習)		2 3	1		45	
ボランティア論		1 2		2	30	
ボランティアコーディネート論		1 2		2	30	
手話入門	1 2 3		2	30		
防災と生活デザイン	1 2 3		2	30		
自然・情報系	統計学	1	2		30	
	疫学・保健医療統計学	1 2		2	30	
	数学	1 2 3		2	30	
	物理学	1 2 3		2	30	
	化学	1 2 3		2	30	
	生物学	1 2 3		2	30	
	データリテラシー	1	1		30	
	医療データサイエンス I (DS基礎)	2 3 4		1	30	
	医療データサイエンス II (AI基礎)	2 3 4		1	30	
	医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報-	1	1		30	
	医学/医療史	1 2		2	30	
人間工学	1 2		2	30		
総合系	大学入門講座-医療人・社会人として成長するために-	1	1		30	
	郷土論	1 2 3		1	15	
	医療福祉教養講義	1 2		1	15	
	メディカルマナー入門	1 2		2	30	
	食と人間	1 2		1	15	
総合講義	1 2 3 4		1	15		

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備 考	
			必修	選択			
総合教育科目	外国語系	英語講読 1 (Primary)	1	1		30	
		英語講読 2 (Basic)	1	1		30	
		英語CALL 1 (Primary)	1	1		30	
		英語CALL 2 (Basic)	1	1		30	
		英語講読 3 (Intermediate)	2 3		1	30	
		英語講読 4 (Advanced)	2		1	30	
		英語会話 1 (Primary)	1 2 3		1	30	
		英語会話 2 (Basic)	1 2		1	30	
		英語会話 3 (Intermediate)	2 3		1	30	
		英語会話 4 (Advanced)	2		1	30	
		英語ライティング 1 (Primary)	1 2 3		1	30	
		英語ライティング 2 (Basic)	1 2		1	30	
		国際医療通訳入門	1 2 3		1	30	
		資格英語 1 (Primary)	1 2 3		1	30	
		資格英語 2 (Basic)	1 2		1	30	
		基礎英文法 1 (Primary)	1 2 3		1	30	
		基礎英文法 2 (Basic)	1 2		1	30	
		上級英語文献講読	1 2 3		1	30	
		上級英語会話 1 (発展)	1 2 3		1	30	
		上級英語会話 2 (総合)	1 2		1	30	
		ドイツ語入門 (会話含む)	1 2 3		1	30	
		ドイツ語基礎 (会話含む)	1 2		1	30	
		中国語入門 (会話含む)	1 2 3		1	30	
		中国語基礎 (会話含む)	1 2		1	30	
		韓国語入門 (会話含む)	1 2 3		1	30	
		韓国語基礎 (会話含む)	1 2		1	30	
		フランス語入門 (会話含む)	1 2 3		1	30	
		フランス語基礎 (会話含む)	1 2		1	30	
		スペイン語入門 (会話含む)	1 2 3		1	30	
		スペイン語基礎 (会話含む)	1 2		1	30	
		タイ語入門 (会話含む)	1 2 3		1	30	
		タイ語基礎 (会話含む)	1 2		1	30	
		ベトナム語入門 (会話含む)	1 2 3		1	30	
		ベトナム語基礎 (会話含む)	1 2		1	30	
		ビルマ語入門 (会話含む)	1 2 3		1	30	
		ビルマ語基礎 (会話含む)	1 2		1	30	
		日本語 I-A (文法・表現)	1 2 3		1	30	
		日本語 I-B (記述)	1 2 3		1	30	
		日本語 I-C (読解)	1 2		1	30	
		日本語 I-D (会話)	1 2		1	30	
		日本語 II-A (文法・表現)	1 2 3		1	30	
		日本語 II-B (記述)	1 2 3		1	30	
		日本語 II-C (読解)	1 2		1	30	
		日本語 II-D (会話)	1 2		1	30	
		日本語 III-A (文法・表現)	1 2 3		1	30	
		日本語 III-B (記述)	1 2 3		1	30	
	日本語 III-C (読解)	1 2		1	30		
	日本語 III-D (会話)	1 2		1	30		
	医療福祉専門漢字	1 2 3		1	30		
	医療福祉専門語彙	1 2 3		1	30		
	保健体育系	健康科学理論	1	1		15	
		健康科学実践	1	1		30	

2. 専門教育科目一覧

	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間	備 考
			必修	選択		
専門基礎科目 / 学部共通	公衆衛生学	1 2		2	30	選択必修科目
	救急医学	2 3		1	15	選択必修科目
	感染と免疫	1 2		2	30	選択必修科目
	リハビリテーション概論	1	2		30	
	関連職種連携論	2	2		30	
	ケアマネジメント論	2 3		1	15	
	ケースワーク論	1 2		1	15	選択必修科目
	医療管理学	2 3		2	30	
	保健医療福祉制度論	1	2		30	
	社会福祉学	1 2		2	30	
	臨床心理学概論	3		2	30	
	医療情報学概論	2 3		2	30	
	福祉支援工学概論	1 2		2	30	選択必修科目
	関連職種連携ワーク	3	1		30	
	関連職種連携実習	4		1	45	
	リスクマネジメント論	2		2	30	選択必修科目
	電子カルテシステム入門	2		1	15	
	エビデンスベースドプラクティス (研究と文献)	2 3		1	15	
	レクリエーション概論	1 2		1	15	
	災害保健学	1 2 3		1	15	
	予防保健学	1 2 3		1	15	
	国際医療保健学	1 2 3		1	15	
	教職教養	2 3		1	30	
異文化体験実習	1 2		1	45		
専門教育科目	解剖学	1	2		30	
	生理学	1	2		30	
	病理学	1	1		15	
	医学概論	1	1		15	
	内科学	1	1		30	
	精神医学	2	1		30	
	リハビリテーション医学	2	1		30	
	小児科学	2	1		30	
	耳鼻咽喉科学	2	1		30	
	臨床神経学	2	1		30	
	形成外科学	2	1		15	
	臨床歯科医学	2	1		15	
	口腔外科学	2	1		15	
	音声言語医学	1	1		30	
	中枢神経機能学	1	1		30	
	聴覚医学	1	1		30	
	小児神経学	1 2		1	15	選択必修科目
	老年学	1 2		1	15	選択必修科目
	遺伝学	1 2		1	15	選択必修科目
	脳神経外科学	1 2		1	15	選択必修科目
	臨床心理学	2	1		30	
	生涯発達心理学	1	1		30	
	学習心理学	2	1		15	
	神経心理学	2	1		30	
	認知心理学	1	1		30	
	心理測定法Ⅰ (基礎)	2	1		30	
	心理測定法Ⅱ (応用)	3	1		15	
	言語学	1	1		30	
	言語心理学	3	1		30	
	言語発達学	1	1		30	
	基礎音声学	1	1		30	
	音声学	2	1		30	
	音声音響学	2	1		30	
	聴覚心理学	3	1		30	
	国際医療保健学演習	2 3 4		1	15	
	国際医療保健学実習	2 3 4		1	45	

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備 考	
			必修	選択			
専門教育科目	専門科目	言語聴覚障害学概論	1	1		30	
		言語聴覚障害学診断学	3	1		30	
		成人言語障害学総論Ⅰ（基礎）	2	1		30	
		成人言語障害学総論Ⅱ（発展）	2	1		30	
		失語症学Ⅰ（評価・診断）	3	1		30	
		失語症学Ⅱ（治療）	3	1		30	
		失語症・高次脳機能障害学演習	3	1		30	
		高次脳機能障害学	3	1		30	
		言語発達障害学総論	2	1		30	
		言語発達障害学各論	2	1		30	
		言語発達障害学Ⅰ（評価・診断）	2	1		30	
		言語発達障害学Ⅰ演習（評価・診断）	3	1		30	
		言語発達障害学Ⅱ（指導）	3	1		30	
		言語発達障害学Ⅱ演習（指導）	3	1		30	
		聴覚障害学総論	2	1		30	
		聴覚機能評価学	2	2		60	
		聴覚補償論（補聴器・人工内耳など）	3	1		30	
		小児聴覚障害学Ⅰ（評価・診断）	3	1		30	
		小児聴覚障害学Ⅱ（指導）	3	1		30	
		成人聴覚障害学（二重障害を含む）	3	1		30	
		発声発語障害学総論	2	2		30	
		構音障害学Ⅰ（理論）	2	1		30	
		構音障害学Ⅱ（評価・診断）	3	1		30	
		構音障害学演習（治療）	3	1		30	
		流暢性障害学	3	1		30	
		音声障害学	3	1		30	
		摂食・嚥下障害学Ⅰ（理論・評価診断）	2	1		30	
		摂食・嚥下障害学Ⅱ（治療）	3	1		30	
		言語聴覚障害学研究法	3	1		30	
		英語で学ぶ言語聴覚療法の基礎	1 2		1	15	選択必修科目
		言語聴覚療法英語論文抄読	3 4		1	15	選択必修科目
		特別支援教育	3		1	30	選択必修科目
		日本語教授法	1 2		1	15	選択必修科目
		基礎ゼミナールⅠ	1		1	30	選択必修科目
		基礎ゼミナールⅡ	1		1	30	選択必修科目
		言語聴覚障害学特論Ⅰ（基礎）	4	1		30	
		言語聴覚障害学特論Ⅱ（発展）	4	1		30	
		卒業研究	4		4	60	選択必修科目
		コミュニケーション技能実習	1		1	45	
		コミュニケーション障害実習	2		1	45	
言語聴覚障害基礎実習	3	2		90			
言語聴覚療法総合実習	4		1	45	選択必修科目		
臨床実習Ⅰ（基礎）	3	2		90			
臨床実習Ⅱ（応用）	4	4		180			
臨床実習Ⅲ（総合）	4	6		270			
災害リハビリテーション学	3 4		1	15			

言語聴覚学学科DP-教育目標カリキュラムマップ(2024年度入学生版)

		ディプロマ・ポリシー (DP)						
		[DP1] 言語聴覚士を志す者として、社会的責務と倫理観を基盤とした幅広い教養と豊かな人間性を身につけている。	[DP2] 言語聴覚士を志す者として、国際化社会に対応できるグローバルな感覚と視点を身につけている。	[DP3] 言語聴覚士を志す者として、言語聴覚障害学の基礎となる知識・技能を修得し、科学的・論理的思考力を身につけている。	[DP4] 言語聴覚士を志す者として、他職種との専門性を理解したうえで協働・連携し、チームの一員として貢献する力を身につけている。	[DP5] 言語聴覚士を志す者として、多岐にわたる言語聴覚障害に対応可能な専門的知識と臨床技能を修得し、体系的に実践する力を身につけている。	[DP6] 言語聴覚士を志す者として、高いコミュニケーションスキルを有し、「対象者中心の臨床」を実践する力を身につけている。	[DP7] 言語聴覚士を志す者として、自らの専門性について主体的に探究し、貢献するための生涯にわたって努力し続けることの重要性を認識し、新しい知識を追求(研究活動)する方法を身につけている。
1 年 次	[SBOs1/CP1] 社会人・医療人としての基礎学力と多文化・異文化理解を含む教養を身につける。	[DP1/SBOs1/CP1] 基礎ゼミナール I データリテラシー	[DP2/SBOs1/CP1] 英語講座1、英語講座2、英語CALL1、英語CALL2、英語で学ぶ言語聴覚療法の基礎、日本語教授法、総合教育科目(外国語系)	[DP3/SBOs1/CP1]	[DP4/SBOs1/CP1]	[DP5/SBOs1/CP1]	[DP6/SBOs1/CP1]	[DP7/SBOs1/CP1]
	[SBOs1/CP2] 保健医療福祉における言語聴覚療法の位置づけを理解し、言語聴覚士の役割を説明できる。	[DP1/SBOs1/CP2]	[DP2/SBOs1/CP2]	[DP3/SBOs1/CP2] リハビリテーション概論、保健医療福祉制度論、音声言語医学、中枢神経機能学、聴覚医学、生涯発達心理学、認知心理学、言語学、基礎音声学、言語聴覚障害学概論、言語発達学	[DP4/SBOs1/CP2]	[DP5/SBOs1/CP2]	[DP6/SBOs1/CP2]	[DP7/SBOs1/CP2]
	[SBOs1/CP3] 言語聴覚士の職務と社会での役割を理解し、基本的なコミュニケーションスキルを身につけることができる。	[DP1/SBOs1/CP3]	[DP2/SBOs1/CP3]	[DP3/SBOs1/CP3] 基礎ゼミナール II	[DP4/SBOs1/CP3]	[DP5/SBOs1/CP3] コミュニケーション技能実習	[DP6/SBOs1/CP3]	[DP7/SBOs1/CP3]
	[SBOs1/CP4] 多様な学問領域や社会問題に関心をもち、主体的な学びを通じ、豊かな人間性を獲得することができる。	[DP1/SBOs1/CP4] 大学入門講座 医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報 総合教育科目(人間系、社会系、自然・情報系、総合系)	[DP2/SBOs1/CP4] 我が国の社会福祉-医療保障政策の知識 総合教育科目(社会系) 国際医療保健学 異文化体験学習	[DP3/SBOs1/CP4] 解剖学、生理学、病理学、医学概論、内科学、統計学、脳神経外科学、遺伝学、公衆衛生学、感染と免疫、災害保健学、予防保健学、福祉支援工学概論、レクリエーション概論	[DP4/SBOs1/CP4]	[DP5/SBOs1/CP4]	[DP6/SBOs1/CP4]	[DP7/SBOs1/CP4]
2 年 次	[SBOs2/CP1] 言語聴覚士に必要な保健医療福祉と多文化・異文化に関する知識を修得する。	[DP1/SBOs2/CP1] 教職教養、社会福祉学、総合教育科目(人間系、社会系、自然・情報系)	[DP2/SBOs2/CP1] 海外保健福祉事情 I、海外保健福祉事情 II、総合教育科目(外国語系)	[DP3/SBOs2/CP1] 精神医学、リハビリテーション医学、小児科学、耳鼻咽喉科学、臨床神経学、形成外科学、臨床歯科医学、口腔外科学、臨床心理学、学習心理学、音声学、音声言語学、老年学、小児神経学、救急医学	[DP4/SBOs2/CP1]	[DP5/SBOs2/CP1]	[DP6/SBOs2/CP1]	[DP7/SBOs2/CP1]
	[SBOs2/CP2] 言語聴覚臨床の流れを理解し、各種言語聴覚障害の原因・症状・発生メカニズムに関する基本的知識や論理的思考力を獲得する。	[DP1/SBOs2/CP2]	[DP2/SBOs2/CP2]	[DP3/SBOs2/CP2] 成人言語障害学総論 I (基礎) 成人言語障害学総論 II (発展) 神経心理学 言語発達障害学総論 言語発達障害学各論 言語発達障害学 I (評価)・診断	[DP4/SBOs2/CP2] 発声発語障害学総論、構音障害学 I (理論) 摂食・嚥下障害学 I (評価・診断) 聴覚機能評価学	[DP5/SBOs2/CP2]	[DP6/SBOs2/CP2]	[DP7/SBOs2/CP2]
	[SBOs2/CP3] 情報収集の手法について学び、データの適切な管理とまとめ方を身につけることができる。	[DP1/SBOs2/CP3]	[DP2/SBOs2/CP3]	[DP3/SBOs2/CP3] 心理測定法 I (基礎) 医療情報学概論	[DP4/SBOs2/CP3]	[DP5/SBOs2/CP3]	[DP6/SBOs2/CP3]	[DP7/SBOs2/CP3]
	[SBOs2/CP4] チーム医療・チームケアの基礎を理解し、他者と協力する態度や姿勢を身につける。	[DP1/SBOs2/CP4]	[DP2/SBOs2/CP4] 国際医療保健学実習 国際医療保健学実習	[DP3/SBOs2/CP4]	[DP4/SBOs2/CP4] 電子カルテシステム入門、リスクマネジメント論 医療管理学	[DP5/SBOs2/CP4] コミュニケーション障害実習	[DP6/SBOs2/CP4] 関連職種連携論 ケースワーカー論	[DP7/SBOs2/CP4]
3 年 次	[SBOs3/CP1] 言語聴覚障害領域および関連領域における基礎的知識を修得する。	[DP1/SBOs3/CP1]	[DP2/SBOs3/CP1]	[DP3/SBOs3/CP1] 言語心理学、聴覚心理学、臨床心理学概論	[DP4/SBOs3/CP1]	[DP5/SBOs3/CP1]	[DP6/SBOs3/CP1] 特別支援教育	[DP7/SBOs3/CP1]
	[SBOs3/CP2] 各種言語聴覚障害の評価・診断および代表的な訓練・指導に関する知識や技能を修得できる。	[DP1/SBOs3/CP2]	[DP2/SBOs3/CP2]	[DP3/SBOs3/CP2] 失語症・高次脳機能障害学演習(前半) 言語発達障害学 II (指導)	[DP4/SBOs3/CP2] 失語症学 I (評価) 高次脳機能障害学 失語症学 II (訓練・指導) 失語症・高次脳機能障害学演習 言語発達障害学 I 演習(評価・診断) 言語発達障害学 II 演習(指導) 摂食・嚥下障害学 II (治療) 構音障害学 II 流暢性障害学 音声障害学 聴覚補償論 小児聴覚障害学 I・II	[DP5/SBOs3/CP2] 構音障害学演習	[DP6/SBOs3/CP2]	[DP7/SBOs3/CP2]
	[SBOs3/CP3] 言語聴覚障害および関連領域から収集した情報を統合し、論理的に解釈できる。	[DP1/SBOs3/CP3]	[DP2/SBOs3/CP3]	[DP3/SBOs3/CP3] 心理測定法 II (応用)	[DP4/SBOs3/CP3]	[DP5/SBOs3/CP3] 言語聴覚障害診断学	[DP6/SBOs3/CP3] 臨床実習 I (基礎) 関連職種連携ワーク ケアマネジメント論	[DP7/SBOs3/CP3]
	[SBOs3/CP4] 言語聴覚士に必要なとされる高い倫理観と探求心を身につけることができる。	[DP1/SBOs3/CP4]	[DP2/SBOs3/CP4]	[DP3/SBOs3/CP4]	[DP4/SBOs3/CP4] 災害リハビリテーション学	[DP5/SBOs3/CP4]	[DP6/SBOs3/CP4]	[DP7/SBOs3/CP4] 言語聴覚障害学研究法 言語聴覚療法英語論文抄読 エビデンスベースドプラクティス
	[SBOs4/CP1] 言語聴覚障害領域および関連領域における専門的知識を修得し、それらを臨床応用できる能力を修得する。	[DP1/SBOs4/CP1]	[DP2/SBOs4/CP1]	[DP3/SBOs4/CP1] 言語聴覚障害学特論 I 言語聴覚障害学特論 II	[DP4/SBOs4/CP1] 言語聴覚療法総合実習	[DP5/SBOs4/CP1]	[DP6/SBOs4/CP1]	[DP7/SBOs4/CP1]
4 年 次	[SBOs4/CP2] 言語聴覚療法に関する知識や技能を統合し、代表的な言語聴覚障害の評価・診断および訓練・指導を実施することができる。	[DP1/SBOs4/CP2]	[DP2/SBOs4/CP2]	[DP3/SBOs4/CP2]	[DP4/SBOs4/CP2]	[DP5/SBOs4/CP2] 臨床実習 II (応用)	[DP6/SBOs4/CP2] 臨床実習 III (総合)	[DP7/SBOs4/CP2]
	[SBOs4/CP3] リサーチマインドを持ち、科学的な根拠に基づく臨床の概念や研究のプロセスに関する基礎知識を修得することができる。	[DP1/SBOs4/CP3]	[DP2/SBOs4/CP3]	[DP3/SBOs4/CP3]	[DP4/SBOs4/CP3]	[DP5/SBOs4/CP3]	[DP6/SBOs4/CP3]	[DP7/SBOs4/CP3] 卒業研究
	[SBOs4/CP4] チーム医療の中で対象者中心の臨床を実践するために、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につける。	[DP1/SBOs4/CP4]	[DP2/SBOs4/CP4]	[DP3/SBOs4/CP4]	[DP4/SBOs4/CP4]	[DP5/SBOs4/CP4]	[DP6/SBOs4/CP4]	[DP7/SBOs4/CP4] 関連職種連携実習

## 8-5 医学検査学科

### 8-5-1 教育研究上の目的

成田保健医療学部の教育研究上の目的

理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、医学検査学、放射線・情報科学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれ十分な知識と技能を有し、国内外で保健医療の実践を担うことのできる応用能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成する。

成田保健医療学部医学検査学科の教育研究上の目的

医学検査学科は、医学と臨床検査の知識と技術を身に付けるとともに、高度先進医療に対応する能力ならびに豊かな人間性とコミュニケーション能力を備え、国内外で活躍できる臨床検査技師を育成することを目的とする。

### 8-5-2 アドミッションポリシー

#### 1. 求める学生像

本学が入学者に求める要件を十分理解し、臨床検査技師として、豊かな心、コミュニケーション能力、臨床検査医学に対する明確な目的意識を持ち、日々進化する保健・医療・福祉分野における高度化・専門化及び国際化に対応し、医療の発展に寄与する意志を持つ人

#### 2. 医学検査学科の入学者に求める要件

##### 1) 知識・技能

高等学校時代の教科・科目等に相応した語学系科目の修得を通して身につけた読解力、文章力、また理数系科目の修得を通して身につけた論理的かつ科学的な知識と技能を有していること。

##### 2) 思考力・判断力・表現力

保健・医療・福祉分野における新しい知識を学ぶために主体的に行動し、継続的な努力を惜しまず、他人を思いやる寛容性及びコミュニケーション能力、科学的根拠に基づいた思考力や適切な判断力を有していること。

##### 3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

本学の基本理念及び教育理念を十分理解し、臨床検査技師として「共に生きる社会」の実現に寄与すべく、多様な価値観の理解と異文化を認知し、相手の立場に立って多視点で物事を考え、多職種と連携を図る態度と保健・医療・福祉分野の発展に貢献したいという強い意志と責任感を有していること。

### 8-5-3 ディプロマポリシー

DP1：臨床検査技師を目指す者として、広い教養と生命の尊重を基盤とした豊かな人間性を身につけ、人間理解、国際的感覚を養い、医療関連分野での倫理的側面を理解した医療従事者として行動できる。

DP2：臨床検査における基本的知識および技術を修得し、専門医療職の立場のみならず患者の立場に立って、他者を思いやり、自らの考えを表現できる。

DP3：チーム医療に積極的に参画できる幅広い教養を身につけ、自職種の専門性に誇りを持って他職種を理解し、調整・連携の役割を果たすための適切な他部門とのコミュニケーション能力を身につけている。



- DP4：臨床検査の正確かつ高精度な検査情報を提供するために必要な基礎的な知識および技術を身につけている。
- DP5：臨床検査に必要な専門的な知識および技術と実践能力を身につけ、検査データを総合的に解析する力を培い、臨床診断に寄与する検査能力を身につけている。
- DP6：問題解決に対する柔軟な応用力や想像力を身につけ、社会に貢献できる新たな技術や機器開発に取り組む基礎的能力を身につけている。
- DP7：医療の高度化に対応し、各自の実践の中から研究の課題を発見し、それを新しい知識の追求（研究活動）に発展させることができる。

#### 8-5-4 カリキュラムポリシー

---

- CP1：臨床検査関連領域の基礎的・専門的な知識・技術を有し、他文化・異文化を問わない態度で人類の健康を理解できる臨床検査技師を育成するための科目を設定する。
- CP2：獲得した知識・技術・態度をもとに問題点を的確に把握し、適切な病態評価を行うための検査方法の選択や正確な検査データを提供できる臨床検査技師を育成するための科目を設定する。
- CP3：臨床検査の過程で得た情報をエビデンスに基づき定量的・論理的に分析し、適切なコミュニケーション手段を用いて他者と共有すると共に、他部門とのチームを構築して問題解決にあたることのできる臨床検査技師を育成するための科目を設定する。
- CP4：生涯にわたって探究心を持って学び続ける能力と姿勢を身につけ、修得した知識や技術を関連職種を含めたチーム内で共有しながらリーダーシップを発揮し、専門職業人としての高い倫理観を有した、社会から求められる臨床検査技師を育成するための科目を設定する。

#### 8-5-5 学年ごとの教育目標

---

##### < 1年次 (SB0s1) >

- CP1：保健医療福祉に関する基本的知識や異文化に関する知識を修得する。
- CP2：保健医療福祉に関する基本的知識を修得し、臨床検査とのかかわりを理解する。
- CP3：臨床検査に必要な論理的思考を養い、コミュニケーションスキルを身につける。
- CP4：多様な学問領域に関心を持ち、主体的な学びを通して、使命感、倫理観、責任感、思いやりの心などの豊かな人間性を獲得する。

##### < 2年次 (SB0s2) >

- CP1：臨床検査専門分野および関連領域における基礎的な知識を修得する。
- CP2：臨床検査に関する応用的知識を修得する。
- CP3：臨床検査データと情報を収集し、他部門とチームを構築して問題解決ができる。
- CP4：他者と協働し、チームの一員として貢献できる。

##### < 3年次 (SB0s2) >

- CP1：臨床検査専門分野における専門的な知識や技術を修得する。
- CP2：臨床検査に関する応用的知識を修得すると共に、実践的な実習を行う。
- CP3：各臨床検査データの重要性を理解し、臨床の場に適用して、統合できる知識と技術を身につける。
- CP4：臨床検査の発展的な基礎知識を修得し、専門職業人としての倫理観を養い、関連する職種間との連携に貢献できる。

< 4年次 (SB0s4) >

CP1：基本的な実践技術および施設における検査部門の運営法などを学ぶ。

CP2：専門分野の研究に取り組むとともに臨床検査特論で臨床検査全体について再点検を行う。

CP3：臨床的な疑問点を探究し、その解決を図るための研究デザインや研究チームを構築することができる。また、計画に基づいた研究の実施および結果の臨床応用について検討することができる。

CP4：臨床検査技術を発展させるための知識や技術を修得し、臨床検査の発展に貢献できる能力を備える。

8-5-6 卒業に必要な単位数 (医学検査学科 2024年度入学生)

下記に定める卒業に必要な単位数 (必修科目すべてと選択科目) を修得すること。

なお、必修科目については、「授業科目一覧」を参照すること。

授業科目の区分		最低単位数			
		必修	選択		
総合教育科目	人間系			2 単位	指定の 8 単位に加え 2 単位以上
	社会系		3 単位	2 単位	
	自然・情報系		4 単位	2 単位	
	総合系		1 単位		
	外国語系		4 単位	2 単位	
	保健体育系				
	小 計		12 単位	10 単位以上	
専門教育科目	専門基礎科目	学部共通	6 単位	3 単位以上	
		学科専門	20 単位		
	専門科目		77 単位		
	小 計		103 単位	3 単位以上	
合 計		115 単位	13 単位以上		
総 計		128 単位以上			



### 8-5-7 進級条件

---

(1) 1 学年から 2 学年への進級条件

①1学年の必修の専門教育科目のうち、以下の実習科目の単位をすべて修得していること。

肉眼解剖学実習、生化学実習、医用工学・情報実習

②1学年の必修の専門教育科目のうち、未修得科目が2科目以下であること。

以上、①②の両方の条件を満たしていること。

(2) 2 学年から 3 学年への進級条件

①2学年までの必修の専門教育科目のうち、以下の実習科目の単位をすべて修得していること。

一般検査学実習、遺伝子検査学実習、免疫検査学実習、生理検査学実習 I（基礎）

②2学年までの必修の専門教育科目のうち、未修得科目が2科目以下であること。

以上、①②の両方の条件を満たしていること。

(3) 3 学年から 4 学年への進級条件

3学年までの必修科目の単位をすべて修得していること。

### 8-5-8 GPA制度の取り扱いについて

---

成績評価(f-GPA)が2.0未満の学生については、保護者を含めて学業へ取り組み等について面談を行う。  
なお、GPA 制度については「6.成績」を参照のこと。

### 8-5-9 科目履修条件

---

なし

### 8-5-10 履修登録上限単位数

---

すべての学年において、1 年間に履修登録できる単位数を、50 単位未満とする。

1. 総合教育科目一覧

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備考
			必修	選択		
総合教育科目	人間系	文学論	1 2 3 4		2	30
		演劇論	1 2 3 4		1	15
		パフォーマンス表現論	1 2 3 4		2	30
		心理学	1 2 3 4		2	30
		哲学	1 2 3 4		2	30
		コミュニケーション概論	1 2 3 4		2	30
		雑談と傾聴～話す力と聴く力～	1 2 3 4		2	30
		人間学	1 2 3 4		2	30
		歴史学	1 2 3 4		2	30
		倫理学	1 2 3 4		2	30
		宗教学	1 2 3 4		2	30
		日本近現代史	1 2 3 4		2	30
		文化人類学	1 2 3 4		2	30
		教育学	1 2 3 4		2	30
		教育方法論	1 2 3 4		2	30
		死生学-死を通して生を考える	1 2 3 4		2	30
		社会系	法学	1 2 3 4		2
	法と道徳・倫理		1 2 3 4		2	30
	医療関連法規		1 2 3 4		2	30
	我が国の社会福祉・医療保障政策の知識		1		1	30
	経済の仕組み		1 2 3 4		2	30
	経済の歴史		1 2 3 4		2	30
	世界の経済		1 2 3 4		2	30
	アジア諸国の経済・社会・文化		1 2 3 4		2	30
	世界の中の和文化		1 2 3 4		1	15
	経営の仕組み		1 2 3 4		2	30
	組織運営管理論		1 2 3 4		2	30
	社会学 (人間と社会)		1 2 3 4		2	30
	マスメディア論		1 2 3 4		2	30
	新聞でみた日本と世界		1 2 3 4		2	30
	国際関係論		1 2 3 4		2	30
	国際医療福祉論		1 2 3 4		2	30
	海外保健福祉事情Ⅰ (講義)		1 2		1	30
	海外保健福祉事情Ⅱ (実習)		2 3		1	45
	ボランティア論		1 2 3 4		2	30
	ボランティアコーディネーター論		1 2 3 4		2	30
	手話入門		1 2 3 4		2	30
	防災と生活デザイン		1 2 3 4		2	30
	自然・情報系		統計学	1 2 3 4		2
		疫学・保健医療統計学	1 2 3 4		2	30
		数学	1 2 3 4		2	30
		物理学	1 2 3 4		2	30
		化学	1 2 3 4	2		30
		生物学	1 2 3 4		2	30
		データリテラシー	1		1	30
医療データサイエンスⅠ (DS基礎)		2 3 4		1	30	
医療データサイエンスⅡ (AI基礎)		2 3 4		1	30	
医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報-		1		1	30	
医学/医療史		1 2 3 4		2	30	
人間工学		1 2 3 4		2	30	
総合系	大学入門講座-医療人・社会人として成長するために-	1		1	30	
	郷土論	1 2 3 4		1	15	
	医療福祉教養講義	1 2 3 4		1	15	
	メディカルマナー入門	1 2 3 4		2	30	
	食と人間	1 2 3 4		1	15	
	総合講義	1 2 3 4		1	15	

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備考	
			必修	選択			
総合教育科目	外国語系	英語講読1 (Primary)	1	1	30		
		英語講読2 (Basic)	1	1	30		
		英語CALL1 (Primary)	1	1	30		
		英語CALL2 (Basic)	1	1	30		
		英語講読3 (Intermediate)	2 3 4		1	30	
		英語講読4 (Advanced)	2 3 4		1	30	
		英語会話1 (Primary)	1 2 3 4		1	30	
		英語会話2 (Basic)	1 2 3 4		1	30	
		英語会話3 (Intermediate)	2 3 4		1	30	
		英語会話4 (Advanced)	2 3 4		1	30	
		英語ライティング1 (Primary)	1 2 3 4		1	30	
		英語ライティング2 (Basic)	1 2 3 4		1	30	
		国際医療通訳入門	1 2 3 4		1	30	
		資格英語1 (Primary)	1 2 3 4		1	30	
		資格英語2 (Basic)	1 2 3 4		1	30	
		基礎英文法1 (Primary)	1 2 3 4		1	30	
		基礎英文法2 (Basic)	1 2 3 4		1	30	
		上級英語文献講読	1 2 3 4		1	30	
		上級英語会話1 (発展)	1 2 3 4		1	30	
		上級英語会話2 (総合)	1 2 3 4		1	30	
		ドイツ語入門(会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		ドイツ語基礎 (会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		中国語入門 (会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		中国語基礎 (会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		韓国語入門 (会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		韓国語基礎 (会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		フランス語入門 (会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		フランス語基礎 (会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		スペイン語入門 (会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		スペイン語基礎 (会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		タイ語入門 (会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		タイ語基礎 (会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		ベトナム語入門 (会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		ベトナム語基礎 (会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		ビルマ語入門 (会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		ビルマ語基礎 (会話含む)	1 2 3 4		1	30	
		日本語Ⅰ-A (文法・表現)	1 2 3 4		1	30	
		日本語Ⅰ-B (記述)	1 2 3 4		1	30	
		日本語Ⅰ-C (読解)	1 2 3 4		1	30	
		日本語Ⅰ-D (会話)	1 2 3 4		1	30	
		日本語Ⅱ-A (文法・表現)	1 2 3 4		1	30	
		日本語Ⅱ-B (記述)	1 2 3 4		1	30	
		日本語Ⅱ-C (読解)	1 2 3 4		1	30	
		日本語Ⅱ-D (会話)	1 2 3 4		1	30	
		日本語Ⅲ-A (文法・表現)	1 2 3 4		1	30	
		日本語Ⅲ-B (記述)	1 2 3 4		1	30	
		日本語Ⅲ-C (読解)	1 2 3 4		1	30	
		日本語Ⅲ-D (会話)	1 2 3 4		1	30	
	医療福祉専門漢字	1 2 3 4		1	30		
	医療福祉専門語彙	1 2 3 4		1	30		
	保健	健康科学理論	1 2 3 4		1	15	
	体育系	健康科学実践	1 2 3 4		1	30	

2. 専門教育科目一覧

	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間	備考	
			必修	選択			
専門教育科目	専門基礎科目 / 学部共通	公衆衛生学	2	1		30	
		救急医学	2 3		1	15	
		感染と免疫	1 2		2	30	
		リハビリテーション概論	1 2		2	30	
		関連職種連携論	2	2		30	
		ケアマネジメント論	1 2		1	15	
		ケースワーク論	1 2		1	15	
		医療管理学	1 2		2	30	
		保健医療福祉制度論	1	2		30	
		社会福祉学	1 2		2	30	
		臨床心理学概論	1 2		2	30	
		医療情報学概論	2		2	30	
		福祉支援工学概論	1 2		2	30	
		関連職種連携ワーク	3	1		30	
		関連職種連携実習	4		1	45	
		リスクマネジメント論	2		2	30	
		電子カルテシステム入門	2		1	15	
		エビデンスベースドプラクティス(研究と文献)	2		1	15	
		レクリエーション概論	2		1	15	
		災害保健学	1 2		1	15	
	予防保健学	1 2		1	15		
	国際医療保健学	1		1	15		
	異文化体験実習	1 2		1	45		
	専門基礎科目	解剖学	1	2		30	
		肉眼解剖学実習	1	1		45	
		生理学	1	1		30	
		病理学	1	2		30	
		臨床医学概論	2	1		30	
		内科学	1	1		30	
		臨床神経学	1 2 3		1	30	
		精神医学	1 2 3		1	30	
		リハビリテーション医学	1 2 3		1	30	
		小児科学	1 2 3		1	30	
		老年学	1 2 3		1	30	
		薬理学	1	1		15	
		栄養学	1 2 3		1	15	
		遺伝学	1	1		15	
		微生物学	1	2		30	
		分析化学	1	1		30	
		生化学	1	1		30	
生化学実習		1	1		45		
医用工学・情報概論		1	2		30		
医用工学・情報実習		1	1		45		
検査機器学・情報システム学総論	2	2		30			
保健機能食品学	2 3		1	30			
食の安全管理学	2 3		1	30			

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備考	
			必修	選択			
専門教育科目	専門科目	病理検査学演習	2	1		30	
		病理検査学	2	2		30	
		病理検査学実習Ⅰ（基礎）	3	1		45	
		病理検査学実習Ⅱ（応用）	3	1		45	
		細胞診断検査学	3	2		30	
		細胞診断検査学実習	3	1		45	
		血液検査学Ⅰ（総論）	2	2		30	
		血液検査学Ⅱ（各論）	2	2		30	
		血液検査学実習Ⅰ（基礎）	3	1		45	
		血液検査学実習Ⅱ（応用）	3	1		45	
		一般検査学	1	2		30	
		一般検査学実習	2	1		45	
		臨床化学検査学Ⅰ（総論）	2	2		30	
		臨床化学検査学Ⅱ（各論）	2	2		30	
		臨床化学検査学実習	3	1		45	
		遺伝子検査学	1	2		30	
		遺伝子検査学実習	2	1		45	
		医科分子生物学	1 2 3		1	15	
		微生物検査学Ⅰ（総論）	2	2		30	
		微生物検査学Ⅱ（各論）	2	2		30	
		微生物検査学実習Ⅰ（基礎）	3	1		45	
		微生物検査学実習Ⅱ（応用）	3	1		45	
		医動物検査学演習	2	1		30	
		免疫検査学	2	2		30	
		免疫検査学実習	2	1		45	
		移植検査学	2	1		15	
		輸血・移植検査学	3	2		30	
		輸血・移植検査学実習	3	1		45	
		生理検査学Ⅰ（総論）	1	2		30	
		生理検査学Ⅱ（各論）	2	2		30	
		生理検査学実習Ⅰ（基礎）	2	1		45	
		生理検査学実習Ⅱ（応用）	3	1		45	
		超音波検査学	3	2		30	
		超音波検査学実習	3	1		45	
		循環動態画像診断学	3	1		15	
		臨床検査管理総論	1	2		30	
		精度保証学	3	1		15	
		臨床検査診断学	3	1		15	
		臨床検査基礎演習	1	1		30	
		先端臨床検査技術学	3		1	15	
		臨床検査統計学	3	1		30	
		医療安全管理学	2	2		30	
臨床検査研究論	3	2		30			
臨床検査特論Ⅰ（応用）	4	1		30			
臨床検査特論Ⅱ（発展）	4	1		30			
臨地実習	4	11		330			
客観的臨床能力試験	3	1		30			
卒業研究	4	4		120			





## 8-6 放射線・情報科学科

### 8-6-1 教育研究上の目的

成田保健医療学部の教育研究上の目的

理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、医学検査学、放射線・情報科学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれ十分な知識と技能を有し、国内外で保健医療の実践を担うことのできる応用能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成する。

成田保健医療学部放射線・情報科学科の教育研究上の目的

放射線・情報科学科は、基礎から高度な専門技術まで、時代が求める質の高い医療の実現のためのハイレベルな専門知識と最先端技術を修得し、臨床現場における対応力を培い、社会に貢献する診療放射線技師の育成を目的とする。

### 8-6-2 アドミッションポリシー

#### 1. 求める学生像

本学が入学者に求める要件を十分理解し、診療放射線技師として「共に生きる社会」の実現に強く貢献したいと考え、これからの時代の保健医療を担っていこうとする情熱を持ち、自ら積極的に学ぶ意欲と能力を持つ人

#### 2. 放射線・情報科学科の入学者に求める要件

##### 1) 知識・技能

診療放射線学分野で学修するために必要な数学、物理学、化学、生物学の基礎知識を有しており、さらに、科学技術の高度化、専門化、及び国際化に対応するために必要な文章読解力、語学力の基礎技能を有していること。

##### 2) 思考力・判断力・表現力

様々な事象を客観的かつ科学的に思考し、判断しようとする能力、また、得られた結果を相手の立場に立って分かりやすく伝えようとする表現力やコミュニケーション能力を有していること。

##### 3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

使命感・倫理観・責任感・思いやりの心などの豊かな人間性を養うため、自ら積極的に研鑽する態度、また、自己の成長だけでなく、他者や周囲の環境にも目を向けて貢献しようとする姿勢を身につけていること。

### 8-6-3 ディプロマポリシー

DP1：診療放射線技師を目指す者として、使命感・倫理観・責任感・思いやりの心などの豊かな人間性を修得している。

DP2：診療放射線技師を目指す者として必要な医学、医療、理工学および情報科学の基礎知識を有し、様々な事象を理解できる能力を修得している。

DP3：診療放射線技師を目指す者として必要な診療に係る専門知識と技術を有し、さらに情報科学の技術を駆使して臨床的に推論できる能力を修得している。

DP4：診療放射線技師を目指す者として必要な放射線を取り扱う上での安全管理や医療全般における安全管理に係る知識を有し、実践できる能力を修得している。

DP5：診療放射線技師を目指す者として、チーム医療を担うという価値を自覚し、他職種との連携が図



れる能力を修得している。

DP6：診療放射線技師を目指す者として、診療行為や医療情報の適切な運用が自然に実践できる能力を修得している。

DP7：診療放射線技師を目指す者として、常に知的探究心を有し、問題解決できる能力を修得している。

#### 8-6-4 カリキュラムポリシー

---

CP1：診療放射線技師教育における基礎および専門分野の知識を体系的に理解するとともに、多文化・異文化に関する知識、人類の文化・社会と自然に関する知識を養うための科目を設定する。

CP2：診療放射線技師教育における獲得した知識・技能・態度等を総合的に利用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を養うための科目を設定する。

CP3：診療放射線技師教育における臨床的技能としてのコミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力を養うための科目を設定する。

CP4：診療放射線技師教育における医療従事者としての自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、社会的責任感、生涯学習力を養うための科目を設定する。

#### 8-6-5 学年ごとの教育目標

---

##### < 1年次 (SB0s1) >

CP1：診療放射線技師に必要な教養や基礎知識を修得できる。

CP2：基礎知識を利用して課題を解決する能力を修得できる。

CP3：診療放射線技師に必要な臨床的技能を学ぶための基礎を修得できる。

CP4：診療放射線技師を目指す学生としての豊かな人間性、医療福祉の幅広い知識を修得できる。

##### < 2年次 (SB0s2) >

CP1：診療放射線技師に必要な基礎知識に加え専門知識を修得できる。

CP2：専門知識を利用して課題を解決する基礎的な技術と能力を修得できる。

CP3：診療放射線技師に必要な臨床的基礎技術と能力を修得できる。

CP4：診療放射線技師だけでなく医療福祉における他職種の役割を理解できる。

##### < 3年次 (SB0s3) >

CP1：診療放射線技師に必要な専門的で実践的な知識を修得できる。

CP2：専門知識を利用して課題を解決する実践的な技術と能力を修得できる。

CP3：診療放射線技師に必要な臨床的技能を実践できる。

CP4：医療福祉における職種間のチームワーク、リーダーシップを理解できる。

##### < 4年次 (SB0s4) >

CP1：診療放射線技師としてさらに専門性の高い知識を修得する。

CP2：専門知識を利用して課題を安全に解決し、高度な管理を実践する能力を修得できる。

CP3：診療放射線技師としてさらに高度な技能を実践できる。

CP4：診療放射線技師として発展し続ける能力、職種間連携を実践できる能力を修得できる。



### 8-6-6 卒業に必要な単位数（放射線・情報科学科 2024年度入学生）

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得すること。

なお、必修科目については、「授業科目一覧」を参照すること。

授業科目の区分		最低単位数		
		必修	選択	
総合教育科目	人間系		2単位	指定の6単位に加え 5単位以上
	社会系	3単位		
	自然・情報系	2単位		
	総合系	1単位		
	外国語系	4単位	4単位	
	保健体育系			
	小計	10単位	11単位以上	
専門教育科目	専門基礎科目	学部共通	6単位	5単位以上
		学科専門	17単位	
	専門科目	79単位		
	小計	102単位	5単位以上	
合計		112単位	16単位以上	
総計		128単位以上		

※高等学校で「数学Ⅲ」「物理」「生物」「化学」を履修していない者、もしくは苦手意識を持つ者は、総合教育科目のうちそれぞれに対応する科目（「数学」「物理」「生物」「化学」）を1年次に履修することを強く推奨する。

### 8-6-7 進級条件

(1) 1学年から2学年への進級条件

1学年の全必修科目のうち、単位未修得科目数が4科目以下であること。

(2) 2学年から3学年への進級条件

2学年までの全必修科目のうち、単位未修得科目数が2科目以下であること、および選択科目から10単位以上修得していること。

(3) 3学年から4学年への進級条件

3学年までの全必修科目のうち、単位未修得科目数が2科目以下であること。

### 8-6-8 GPA制度の取り扱いについて

成績評価（f-GPA）が2.0未満の学生については、保護者を含めて学業への取り組み等について面談を行う。なお、GPA制度については「6.成績」を参照のこと。

#### 8-6-9 科目履修条件

---

なし

#### 8-6-10 履修登録上限単位数

---

すべての学年において、1年間に履修登録できる単位数を、50単位未満とする。

1. 総合教育科目一覧

授業科目の分類	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間	備考	
			必修	選択			
総合教育科目	人間系	文学論	1 2 3 4		2	30	
		演劇論	1 2 3 4		1	15	
		パフォーマンス表現論	1 2 3 4		2	30	
		心理学	1 2 3 4		2	30	
		哲学	1 2 3 4		2	30	
		コミュニケーション概論	1 2 3 4		2	30	
		雑談と傾聴～話す力と聴く力～	1 2 3 4		2	30	
		人間学	1 2 3 4		2	30	
		歴史学	1 2 3 4		2	30	
		倫理学	1 2 3 4		2	30	
		宗教学	1 2 3 4		2	30	
		日本近現代史	1 2 3 4		2	30	
		文化人類学	1 2 3 4		2	30	
		教育学	1 2 3 4		2	30	
		教育方法論	1 2 3 4		2	30	
	死生学-死を通して生を考える	1 2 3 4		2	30		
	社会系	法学	1 2 3 4		2	30	
		法と道徳・倫理	1 2 3 4		2	30	
		医療関連法規	1 2 3 4		2	30	
		我が国の社会福祉・医療保障政策の知識	1		1	30	
		経済の仕組み	1 2 3 4		2	30	
		経済の歴史	1 2 3 4		2	30	
		世界の経済	1 2 3 4		2	30	
		アジア諸国の経済・社会・文化	1 2 3 4		2	30	
		世界の中の和文化	1 2 3 4		1	15	
		経営の仕組み	1 2 3 4		2	30	
		組織運営管理論	1 2 3 4		2	30	
		社会学 (人間と社会)	1 2 3 4		2	30	
		マスメディア論	1 2 3 4		2	30	
		新聞でみた日本と世界	1 2 3 4		2	30	
		国際関係論	1 2 3 4		2	30	
		国際医療福祉論	1 2 3 4		2	30	
		海外保健福祉事情 I (講義)	1 2		1	30	
		海外保健福祉事情 II (実習)	2 3		1	45	
		ボランティア論	1 2 3 4		2	30	
		ボランティアコーディネイト論	1 2 3 4		2	30	
	手話入門	1 2 3 4		2	30		
	防災と生活デザイン	1 2 3 4		2	30		
	自然・情報系	疫学・保健医療統計学	1 2 3 4		2	30	
		数学	1 2 3 4		2	30	
		物理学	1 2 3 4		2	30	
		化学	1 2 3 4		2	30	
生物学		1 2 3 4		2	30		
データリテラシー		1		1	30		
医療データサイエンス I (DS基礎)		2 3 4		1	30		
医療データサイエンス II (AI基礎)		2 3 4		1	30		
医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報-		1		1	30		
医学/医療史		1 2 3 4		2	30		
人間工学		1 2 3 4		2	30		
総合系	大学入門講座-医療人・社会人として成長するために-	1		1	30		
	郷土論	1 2 3 4		1	15		
	医療福祉教養講義	1 2 3 4		1	15		
	メディカルマナー入門	1 2 3 4		2	30		
	食と人間	1 2 3 4		1	15		
総合講義	1 2 3 4		1	15			

授業科目の分類	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間	備考		
			必修	選択				
総合教育科目	外国語系	英語講読 1 (Primary)	1	1		30		
		英語講読 2 (Basic)	1	1		30		
		英語CALL 1 (Primary)	1	1		30		
		英語CALL 2 (Basic)	1	1		30		
		英語講読 3 (Intermediate)	2 3 4		1		30	
		英語講読 4 (Advanced)	2 3 4		1		30	
		英語会話 1 (Primary)	1 2 3 4		1		30	
		英語会話 2 (Basic)	1 2 3 4		1		30	
		英語会話 3 (Intermediate)	2 3 4		1		30	
		英語会話 4 (Advanced)	2 3 4		1		30	
		英語ライティング 1 (Primary)	1 2 3 4		1		30	
		英語ライティング 2 (Basic)	1 2 3 4		1		30	
		国際医療通訳入門	1 2 3 4		1		30	
		資格英語 1 (Primary)	1 2 3 4		1		30	
		資格英語 2 (Basic)	1 2 3 4		1		30	
		基礎英文法 1 (Primary)	1 2 3 4		1		30	
		基礎英文法 2 (Basic)	1 2 3 4		1		30	
		上級英語文献講読	1 2 3 4		1		30	
		上級英語会話 1 (発展)	1 2 3 4		1		30	
		上級英語会話 2 (総合)	1 2 3 4		1		30	
		ドイツ語入門 (会話含む)	1 2 3 4		1		30	
		ドイツ語基礎 (会話含む)	1 2 3 4		1		30	
		中国語入門 (会話含む)	1 2 3 4		1		30	
		中国語基礎 (会話含む)	1 2 3 4		1		30	
		韓国語入門 (会話含む)	1 2 3 4		1		30	
		韓国語基礎 (会話含む)	1 2 3 4		1		30	
		フランス語入門 (会話含む)	1 2 3 4		1		30	
		フランス語基礎 (会話含む)	1 2 3 4		1		30	
		スペイン語入門 (会話含む)	1 2 3 4		1		30	
		スペイン語基礎 (会話含む)	1 2 3 4		1		30	
		タイ語入門 (会話含む)	1 2 3 4		1		30	
		タイ語基礎 (会話含む)	1 2 3 4		1		30	
		ベトナム語入門 (会話含む)	1 2 3 4		1		30	
ベトナム語基礎 (会話含む)	1 2 3 4		1		30			
ビルマ語入門 (会話含む)	1 2 3 4		1		30			
ビルマ語基礎 (会話含む)	1 2 3 4		1		30			
総合教育科目 (つづき)	外国語系 (つづき)	日本語 I -A (文法・表現)	1 2 3 4		1	30		
		日本語 I -B (記述)	1 2 3 4		1	30		
		日本語 I -C (読解)	1 2 3 4		1	30		
		日本語 I -D (会話)	1 2 3 4		1	30		
		日本語 II -A (文法・表現)	1 2 3 4		1	30		
		日本語 II -B (記述)	1 2 3 4		1	30		
		日本語 II -C (読解)	1 2 3 4		1	30		
		日本語 II -D (会話)	1 2 3 4		1	30		
		日本語 III -A (文法・表現)	1 2 3 4		1	30		
		日本語 III -B (記述)	1 2 3 4		1	30		
		日本語 III -C (読解)	1 2 3 4		1	30		
		日本語 III -D (会話)	1 2 3 4		1	30		
		医療福祉専門漢字	1 2 3 4		1	30		
		医療福祉専門語彙	1 2 3 4		1	30		
		保健体育系	健康科学理論	健康科学理論	1 2 3 4		1	15
健康科学実践	1 2 3 4				1	30		

2. 専門教育科目一覧

授業科目の分類	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間	備考	
			必修	選択			
専門教育科目	専門基礎科目 / 学部共通	統計学	2	1		30	
		公衆衛生学	2	2		30	
		救急医学	2		1	15	
		感染と免疫	2 3 4		2	30	
		リハビリテーション概論	1 2 3 4		2	30	
		関連職種連携論	2	2		30	
		ケアマネジメント論	2 3 4		1	15	
		ケースワーク論	1 2 3 4		1	15	
		医療管理学	1 2 3 4		2	30	
		保健医療福祉制度論	1 2 3 4		2	30	
		社会福祉学	1 2 3 4		2	30	
		臨床心理学概論	1 2 3 4		2	30	
		医療情報学概論	2 3 4		2	30	
		福祉支援工学概論	1 2 3 4		2	30	
		関連職種連携ワーク	3	1		30	
		関連職種連携実習	4		1	45	
		リスクマネジメント論	2 3 4		2	30	
		電子カルテシステム入門	2 3 4		1	15	
		エビデンスベースドプラクティス(研究と文献)	2 3 4		1	15	
		レクリエーション概論	2 3 4		1	15	
	災害保健学	2 3 4		1	15		
	予防保健学	2 3 4		1	15		
	国際医療保健学	2 3 4		1	15		
	異文化体験実習	2 3 4		1	45		
	専門基礎科目	基礎数学	1	1		30	
		自然科学概論	1	2		30	
		基礎物理学	1	1		30	
		基礎化学	1	1		30	
基礎生物学		1	1		30		
解剖学Ⅰ (運動器系・循環器系・内臓系)		1	1		30		
解剖学Ⅱ (内臓系・神経系・感覚器系)		1	1		30		
生理学		1	2		30		
病理学		2	2		30		
病態生理学		2	1		15		
医学概論		1	2		30		
看護概論		3	1		15		
自然科学実験	1	1		45			

授業科目の分類	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間	備考
			必修	選択		
専門教育科目	応用数学	1		1	30	
	放射線物理学Ⅰ（基礎）	1	1		30	
	放射線物理学Ⅱ（発展）	2	1		30	
	放射線計測学	2	1		30	
	放射線科学演習	2		1	30	
	放射線計測学実験	2	1		45	
	放射化学	2	1		30	
	放射線生物学	2	1		30	
	画像解剖学	2	2		30	
	医療画像基礎論	1	2		30	
	画像情報学	1	2		30	
	画像情報学実験	1	1		45	
	医用工学	1	1		30	
	医用工学演習	2	1		30	
	コンピュータ演習Ⅰ（データ処理）	1		1	30	
	コンピュータ演習Ⅱ（プログラミング）	2		1	30	
	医療情報システム論	3	1		15	
	X線機器工学	1	2		30	
	医療安全管理学	4	1		30	
	診療放射線概論	1	1		15	
	診療画像検査学概論	1	1		15	
	X線検査学Ⅰ	2	1		30	
	X線検査学Ⅱ	2	1		30	
	X線CT検査学	2	2		30	
	診療画像機器工学	2	1		15	
	MRⅠ検査学	2	2		30	
	超音波検査学	2	2		30	
	診療画像学実験Ⅰ	2	2		90	
	診療画像学実験Ⅱ	2	2		90	
	核医学検査技術学	2	2		30	
	核医学	3	2		30	
	核医学検査技術学実験	3	2		60	
	放射線治療機器工学	2	1		15	
	放射線治療技術学	2	2		30	
	放射線腫瘍学	3	2		30	
	放射線治療技術学実験	3	2		60	
	臨床医学概論	3	1		30	
	臨床医学	4	1		30	
	放射線管理学	2	2		30	
	放射線管理学実験	4	1		45	
	放射線関係法規	3	1		15	
	画像診断学	4	1		30	
	画像診断学演習	4		1	30	
	臨床薬理学	4	1		15	
	放射線救急医学	3	2		30	
	医療安全学概論	3	1		30	
	臨床画像学演習	3	2		60	
診療画像検査学臨床実習	3	8		360		
核医学検査技術学臨床実習	3	2		90		
放射線治療技術学臨床実習	3	2		90		
診療放射線特論	4	1		30		
放射線学演習Ⅰ（基礎）	4	2		60		
放射線学演習Ⅱ（総合）	4	2		60		
放射線腫瘍学特論	4		1	30		
核医学特論	4		1	30		
MRⅠ検査学特論	4		1	30		
画像情報学特論	4		1	30		
死亡時画像診断学	4		1	15		
卒業研究Ⅰ（調査・計画）	4	1		45		
卒業研究Ⅱ（研究報告）	4	1		45		

放射線・情報科学科DP-教育目標カリキュラムマップ(2024年度以降入学生版)

		ディプロマ・ポリシー(DP)							
		[DP1] 診療放射線技師を目指す者として、使命感・倫理観・責任感・思いやりの心などの豊かな人間性を修得している	[DP2] 診療放射線技師を目指す者として必要な医学、医療、理工学および情報科学の基礎知識を有し、様々な事象を理解できる能力を修得している	[DP3] 診療放射線技師を目指す者として必要な診療に係る専門知識と技術を有し、さらに情報科学の技術を駆使して臨的に推論できる能力を修得している	[DP4] 診療放射線技師を目指す者として必要な放射線を取り扱う上での安全管理や医療全般における安全管理に係る知識を有し、実践できる能力を修得している	[DP5] 診療放射線技師を目指す者として、チーム医療を担うという価値を自覚し、他職種との連携を図れる能力を修得している	[DP6] 診療放射線技師を目指す者として、診療行為や医療情報の適切な運用が自然に実践できる能力を修得している	[DP7] 診療放射線技師を目指す者として、常に知的探究心を有し、問題解決できる能力を修得している	
各年次の教育目標(到達目標・SBOs)	1年次	[SBOs1/CP1] ①診療放射線技師に必要な教養や基礎知識を修得できる	[DP1/SBOs1/CP1] 英語講義1 英語講義2 素読CALL1 英語CALL2 総合教育科目(自然・情報系) 総合教育科目(総合系) 総合教育科目(外国語系) 総合教育科目(人間系) 総合教育科目(社会系) 総合教育科目(保健体育系)	[DP2/SBOs1/CP1] データリテラシー 解剖学 I 解剖学 II 生理学 医学概論 基礎数学 自然科学概論 基礎物理学 基礎化学 基礎生物学 放射線物理学 I 医用工学 応用数学 コンピュータ演習 I	[DP3/SBOs1/CP1] X線機器工学 医療画像基礎論 画像情報学	[DP4/SBOs1/CP1]	[DP5/SBOs1/CP1]	[DP6/SBOs1/CP1]	[DP7/SBOs1/CP1]
		[SBOs1/CP2] ②基礎知識を利用して課題を解決する能力を修得できる	[DP1/SBOs1/CP2]	[DP2/SBOs1/CP2] 自然科学実験	[DP3/SBOs1/CP2] 画像情報学実験	[DP4/SBOs1/CP2]	[DP5/SBOs1/CP2]	[DP6/SBOs1/CP2]	[DP7/SBOs1/CP2]
		[SBOs1/CP3] ③診療放射線技師に必要な臨床的技術を学ぶための基礎を修得できる	[DP1/SBOs1/CP3]	[DP2/SBOs1/CP3]	[DP3/SBOs1/CP3] 診療画像検査学概論	[DP4/SBOs1/CP3]	[DP5/SBOs1/CP3]	[DP6/SBOs1/CP3]	[DP7/SBOs1/CP3]
		[SBOs1/CP4] ④診療放射線技師を目指す学生としての豊かな人間性、医療福祉の幅広い知識を修得できる	[DP1/SBOs1/CP4] 大学入門講座 -医療人・社会人として成長するために- 医療必修 -医療の倫理とプロ意識-医療情報-我が国の社会福祉・医療保障政策の知識	[DP2/SBOs1/CP4]	[DP3/SBOs1/CP4] 診療放射線概論	[DP4/SBOs1/CP4]	[DP5/SBOs1/CP4] リハビリテーション概論 ケースワーカー論 医療管理学 保健医療福祉制度論 社会福祉学 臨床心理学概論 福祉支援工学概論	[DP6/SBOs1/CP4]	[DP7/SBOs1/CP4]
	2年次	[SBOs2/CP1] ①診療放射線技師に必要な基礎知識に加え専門知識を修得できる	[DP1/SBOs2/CP1]	[DP2/SBOs2/CP1] 公衆衛生学 統計学 基礎統計学 病理学 病態生理学 放射線物理学 II (発展) 放射化学 放射線生物学 感染と免疫 救急医学 コンピュータ演習 II 医療データサイエンス I (DS基礎) 医療データサイエンス II (AI基礎)	[DP3/SBOs2/CP1] 画像放射線学 診療画像機器工学 X線検査学 I X線検査学 II X線CT検査学 MRI検査学 超音波検査学 核医学検査技術学 放射線治療機器工学	[DP4/SBOs2/CP1] 放射線計測学 放射線管理学	[DP5/SBOs2/CP1]	[DP6/SBOs2/CP1]	[DP7/SBOs2/CP1]
		[SBOs2/CP2] ②専門知識を利用して課題を解決する基礎的な技術と能力を修得できる	[DP1/SBOs2/CP2]	[DP2/SBOs2/CP2] 医用工学演習 放射線科学演習	[DP3/SBOs2/CP2]	[DP4/SBOs2/CP2] 放射線計測学実験	[DP5/SBOs2/CP2]	[DP6/SBOs2/CP2]	[DP7/SBOs2/CP2]
		[SBOs2/CP3] ③診療放射線技師に必要な臨床的基礎技術と能力を修得できる	[DP1/SBOs2/CP3]	[DP2/SBOs2/CP3]	[DP3/SBOs2/CP3] 診療画像学実験 I 診療画像学実験 II	[DP4/SBOs2/CP3]	[DP5/SBOs2/CP3]	[DP6/SBOs2/CP3]	[DP7/SBOs2/CP3]
		[SBOs2/CP4] ④診療放射線技師だけでなく医療福祉における他職種の役割を理解できる	[DP1/SBOs2/CP4] レクリエーション概論 異文化体験実習	[DP2/SBOs2/CP4]	[DP3/SBOs2/CP4] 医療情報学概論	[DP4/SBOs2/CP4] リスクマネジメント論	[DP5/SBOs2/CP4] 関連職種連携論 ケアマネジメント論 電子カルテによるチーム医療概論 災害保健学 予防保健学 国際医療保健学	[DP6/SBOs2/CP4]	[DP7/SBOs2/CP4] エビデンスベースドプラクティス(研究と文献)
	3年次	[SBOs3/CP1] ①診療放射線技師に必要な専門的実践的な知識を修得できる	[DP1/SBOs3/CP1]	[DP2/SBOs3/CP1]	[DP3/SBOs3/CP1] 医療情報システム論 放射線救急医学 臨床医学概論 核医学 放射線腫瘍学	[DP4/SBOs3/CP1] 放射線関係法規	[DP5/SBOs3/CP1]	[DP6/SBOs3/CP1] 医療安全学概論	[DP7/SBOs3/CP1]
		[SBOs3/CP2] ②専門知識を利用して課題を解決する実践的な技術と能力を修得できる	[DP1/SBOs3/CP2]	[DP2/SBOs3/CP2]	[DP3/SBOs3/CP2]	[DP4/SBOs3/CP2]	[DP5/SBOs3/CP2]	[DP6/SBOs3/CP2]	[DP7/SBOs3/CP2] エビデンスベースドプラクティス(研究と文献)
		[SBOs3/CP3] ③診療放射線技師に必要な臨床的実践を修得できる	[DP1/SBOs3/CP3]	[DP2/SBOs3/CP3]	[DP3/SBOs3/CP3] 核医学検査技術学実験 放射線治療技術学実験	[DP4/SBOs3/CP3]	[DP5/SBOs3/CP3]	[DP6/SBOs3/CP3] 臨床画像学演習 診療画像検査学臨床実習 核医学検査技術学臨床実習 放射線治療技術学臨床実習	[DP7/SBOs3/CP3]
		[SBOs3/CP4] ④医療福祉における職種間のチームワーク、リレーゲージングを理解できる	[DP1/SBOs3/CP4]	[DP2/SBOs3/CP4]	[DP3/SBOs3/CP4]	[DP4/SBOs3/CP4]	[DP5/SBOs3/CP4] 関連職種連携ワーク 看護概論	[DP6/SBOs3/CP4]	[DP7/SBOs3/CP4]
4年次	[SBOs4/CP1] ①診療放射線技師としてさらに専門性の高い知識を修得する	[DP1/SBOs4/CP1]	[DP2/SBOs4/CP1]	[DP3/SBOs4/CP1] 臨床医学 画像診断学 臨床薬理学 MRI検査学特論 核医学特論 死亡時画像診断学 放射線腫瘍学特論 画像情報学特論	[DP4/SBOs4/CP1] 医療安全管理学	[DP5/SBOs4/CP1]	[DP6/SBOs4/CP1]	[DP7/SBOs4/CP1]	
	[SBOs4/CP2] ②専門知識を利用して課題を安全に解決し、高度な管理を実践する能力を修得できる	[DP1/SBOs4/CP2]	[DP2/SBOs4/CP2]	[DP3/SBOs4/CP2]	[DP4/SBOs4/CP2] 放射線管理学実験	[DP5/SBOs4/CP2]	[DP6/SBOs4/CP2]	[DP7/SBOs4/CP2]	
	[SBOs4/CP3] ③診療放射線技師としてさらに高度な技能を実践できる	[DP1/SBOs4/CP3]	[DP2/SBOs4/CP3]	[DP3/SBOs4/CP3] 画像診断学演習	[DP4/SBOs4/CP3]	[DP5/SBOs4/CP3]	[DP6/SBOs4/CP3]	[DP7/SBOs4/CP3]	
	[SBOs4/CP4] ④診療放射線技師として発展し続ける能力、職種間連携を実践できる能力を修得できる	[DP1/SBOs4/CP4]	[DP2/SBOs4/CP4]	[DP3/SBOs4/CP4]	[DP4/SBOs4/CP4]	[DP5/SBOs4/CP4] 関連職種連携実習	[DP6/SBOs4/CP4]	[DP7/SBOs4/CP4] 診療放射線特論 放射線学演習 I (基礎) 放射線学演習 II (総合) 卒業研究 I (調査・計画) 卒業研究 II (研究報告)	

## 8-7 薬学科

### 8-7-1 教育研究上の目的

成田薬学部教育研究上の目的

薬学の分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、十分な知識と技能を有し、薬学の実践を担いうる応用能力及び豊かな人間性を備えた医療人としての薬剤師等の人材を育成する。

成田薬学部薬学科教育研究上の目的

薬学科は、薬学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、「くすり」に対する専門的な知識と、臨床現場で発揮される高い能力、技術を備え、調剤した「くすり」の適切な説明や薬物療法について、的確なアドバイスができる薬剤師の育成を目的とする。

### 8-7-2 アドミッションポリシー

#### 1. 求める学生像

本学が入学者に求める要件を十分理解し、薬剤師として、豊かな心、コミュニケーション能力、新しい知識の追求に向けた関心や意欲を持ち、日々進化する薬物療法における高度化・専門化及び国際化に対応し、学びを深めるための科学的根拠に基づく論理的な思考力を身につけることが期待できる人

#### 2. 薬学科の入学者に求める要件

##### 1) 知識・技能

高等学校等で学んだ教科に相応した基礎知識と、化学等の理数系科目の修得を通して身につけた科学的な思考力・理解力、また、語学系科目（英語）の修得を通して身につけた読解力を有していること。

##### 2) 思考力・判断力・表現力

薬剤師に必要な新しい知識を学ぶ意欲及び主体的な目標設定をもとに努力を継続する力、自ら思考し、判断したことを適切に表現する力を有していること。

##### 3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

本学の基本理念及び教育理念を十分理解し、薬剤師として「共に生きる社会」の実現に寄与する意志を持つ人、他者と協動的に連携を図り、地域とのつながりを大切に考え、薬学の発展に貢献したいという強い意欲をもとに自他ともに研鑽しあう意志を持つ人であること。

### 8-7-3 ディプロマポリシー

DP1：薬学に関する基礎および専門的な知識・技能をバランスよく有している。

DP2：問題の発見から解決までの一連のプロセスの中で、必要な情報を収集し、科学的根拠に基づき論理的に考え行動できる。

DP3：医療人を目指す者として、人間理解、国際的感覚を養い、相手に寄り添ったコミュニケーションを実施できる。

DP4：薬剤師を目指す者として、使命感・倫理観・責任感を養い、他職種との連携を通して薬剤師の役割を理解、実践できる。

DP5：保健・医療・福祉について、日本にとどまらず世界の情勢を広く理解し、地域に貢献する姿勢と実践能力を有している。

DP6：医療の担い手を目指す者として、幅広い教養と豊かな人間性を育み、生涯にわたって自他ともに研鑽しあえる姿勢および意欲を有している。

DP7：生命科学的知識および研究マインドを基に、薬物療法を実践する能力を有している。

### 8-7-4 カリキュラムポリシー

CP1：

a. 薬学の専門家として必要な知識・技能を修得するために、講義、演習、実習を相互に関連付けて科目を配置する。

b. 薬物治療の実践的能力を高めるために、知識・技能を統合した能動的学修を実施する。



CP2 :

- a. 問題発見から解決する能力および科学的根拠に基づいた論理的思考力を養うために、問題解決型学修 (PBL) をはじめとする能動的学修を講義、演習、実習で実施する。また、参加型実践的科目として卒業研究を配置する。
- b. 薬剤師として臨床での総合的実践能力を身につけるために、参加体験型学修である実務実習を行う。

CP3 :

- a. 医療人としてのコミュニケーション能力を養成するために、ロールプレイを含む参加型実習を行う。
- b. 薬剤師の役割を理解するために、他職種との連携教育を実施する。

CP4 :

- a. 薬剤師としての使命感・倫理観・責任感および豊かな人間性を涵養するために、スモールグループディスカッション (SGD) 等を含めた講義、演習、体験実習を配置する。
- b. 国際的な感覚を養うために、世界の保健福祉事情に触れ、語学能力を高める機会を設ける。
- c. 生涯にわたり自ら研鑽できる医療の担い手になるために、ポートフォリオを用いた形成的自己評価の機会を設ける。

## 8-7-5 学年ごとの教育目標

---

< 1 年次 >

- ・薬学で必要となる基礎科目 (化学系・物理系・生物系) の知識・技能を修得するとともに、問題発見から解決のプロセスに関する知識を修得する (CP1a, CP2a)
- ・社会人・医療人としてのコミュニケーションに関する知識を修得する (CP3a)
- ・薬剤師を含む医療職の職能を理解するとともに、薬剤師としての使命感・倫理観・責任感を養う (CP3b, CP4a)
- ・総合教育科目 (人間系、社会系、自然・情報系、総合系) を通して幅広い教養を身につけ、豊かな人間性を育む (CP4a)
- ・外国語を学修するとともに、海外の保健福祉事情に触れる (CP4b)

< 2 年次 >

- ・基礎薬学科目の知識・技能を広く修得するとともに、衛生薬学・医療薬学科目の知識・技能を修得する (CP1a)
- ・与えられた課題に関するデータを能動的に収集・分析・考察する能力を修得する (CP2a)
- ・コミュニケーション実習を通してコミュニケーションスキルの基礎を修得する (CP3a)
- ・多職種の中での薬剤師の役割を理解する (CP3b)
- ・語学能力を高め、医療英語を修得する (CP4b)

< 3 年次 >

- ・衛生薬学・医療薬学科目の知識・技能を広く修得する (CP1a)
- ・与えられた課題に関するデータを能動的に収集・分析・考察する能力を修得する (CP2a)
- ・医療コミュニケーションを修得するとともに、多職種の中での薬剤師の役割を実践することで専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につけ、薬剤師としての使命感・倫理観・責任感を養う (CP3a, CP3b, CP4a)
- ・組換え DNA・動物実験教育訓練を通して実習および卒業研究で必要となる研究倫理を理解する (CP4a)
- ・海外の保健福祉事情を知る (CP4b)

< 4 年次 >

- ・基礎薬学、衛生薬学、医療薬学を関連付けて修得する (CP1a)
- ・4 年次までに修得した知識、技能を活用し、薬物治療を適切に評価する (CP1b)
- ・自ら問題を発見し、解決に必要なデータを能動的に収集・分析・考察する能力を修得する (CP2a)
- ・医療コミュニケーションを修得するとともに、多職種の中での薬剤師の役割を実践することで専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につけ、薬剤師としての使命感・倫理観・責任感を養う (CP3a)
- ・研究倫理講習を通して卒業研究で必要となる研究倫理への理解を深める (CP4a)

< 5年次 >

- ・実務実習（病院・薬局）を通して薬剤師（実習生）として使命感・倫理観・責任感をもって行動するとともに、臨床で必要となる実践的能力を身につける（CP1b, CP2b, CP4a）
- ・科学的根拠に基づいて課題を発見したり、問題点を解決する能力を修得する（CP2a）

< 6年次 >

- ・薬学に関する全ての知識を統合し、患者に対する適切な薬物治療を選択・実践できる応用力を修得する（CP1a, CP1b）
- ・科学的根拠に基づいて課題を発見したり、問題点を解決する能力を修得する（CP2a）
- ・卒業研究発表および実務実習報告会などを通して取り組んだ問題、課題などを薬学的知見および科学的根拠に基づいてまとめ、プレゼンテーションする能力を修得する（CP2a）
- ・学内での講義・演習・実習および実務実習（病院・薬局）で養った薬剤師としての倫理観・責任感・使命感を総合的に身につける（CP4a）

### 8-7-6 卒業に必要な単位数（薬学科 2024 年度入学生）

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得すること。

なお、必修科目については、「授業科目一覧」を参照すること。

授業科目の区分			最低単位数	
			必修	選択
総合教育科目	人間系		4 単位	総合教育科目および 専門教育科目の中から 10 単位以上
	社会系		5 単位	
	自然・情報系		8 単位	
	総合系		1 単位	
	外国語系		4 単位	
	保健体育系			
	小 計		22 単位	
専門教育科目	専門基礎科目	学部共通	7 単位	10 単位以上
		学科専門	10 単位	
	専門科目		142 単位	
	小 計		159 単位	
合 計			181 単位	10 単位以上
総 計			191 単位以上	

### 8-7-7 進級条件

#### (1) 1 学年から 2 学年への進級条件

1 学年の必修科目（34 単位）のうち、すべての実習単位（2 単位）を含む 28 単位以上を修得していること。

#### (2) 2 学年から 3 学年への進級条件

① 1 学年の必修科目（34 単位）のすべてを修得していること。

② 2 学年の必修科目（45 単位）のうち、すべての実習単位（5 単位）を含む 39 単位以上を修得していること。

③ 以上、①②の両方の条件を満たしていること。

#### (3) 3 学年から 4 学年への進級条件

① 2 学年の必修科目（79 単位）のすべてを修得していること。

② 3 学年の必修科目（39 単位）のうち、すべての実習科目（5 単位）を含む 33 単位以上を修得していること。

③ 以上、①②の両方の条件を満たしていること。

#### (4) 4 学年から 5 学年への進級条件

4 学年までの必修科目の単位（146 単位）をすべて修得していること。

#### ◆進級した場合

前年次の不合格必修科目については、受講し、定期試験を受け、単位を修得すること。

#### ◆留年した場合

① 合格した科目の単位は認められる。

② 不合格の必修科目は再履修し修得しなければならない。

③ 不合格になった選択科目は、新たに希望して選択するものとする。

④ 必修・選択科目とも前年度不合格であった科目の評点は取消し、無効とする。

⑤ 在学年限について：同一学年における在学年数を 2 年以内とする（休学期間を除く）。但し、5、6 学年は通算で 4 年間在籍できる。

### 8-7-8 GPA 制度の取り扱いについて

---

成績評価(f-GPA)が 2.0 未満の学生については、保護者を含めて学業へ取り組み等について面談を行う。なお、GPA 制度については「6. 成績」を参照のこと。

### 8-7-9 科目履修条件

---

- (1) 5、6 学年において実務実習を履修するための条件
- ① 共用試験 (CBT、OSCE) に合格すること。
  - ② 実務実習生にふさわしい知識・技能・態度のバランスがとれていること。

#### CHECK

##### 共用試験 (CBT、OSCE)

- CBT : Computer Based Testing
- OSCE : Objective Structured Clinical Examination

共用試験 (CBT、OSCE) は、5、6 年次に実施される実務実習を履修するための条件となる。

- 共用試験の中の CBT は知識を問う試験で、コンピュータを活用した多肢選択式試験となっています。薬学教育モデル・コアカリキュラムの範囲から多くの問題が備蓄されており、無作為に出題される 310 問を 6 時間で解きます。
- 共用試験の中の OSCE は参加型実務実習 (病院・保険薬局) を行うにあたって、必要とされる態度・技能 (臨床能力) がためられる実技試験であり、6 種類のステーションの中にそれぞれ、課題が含まれています。

### 8-7-10 履修登録上限単位数

---

すべての学年において、1 年間に履修登録できる単位数を、50 単位未満とする。

[成田薬学部 薬学科 (2024年度入学生) ]

1. 総合教育科目一覧

授業科目の分類	授業科目の名称	配当年次						単位数		時間	備考
		1	2	3	4	5	6	必修	選択		
人間系	文学論	1	2	3	4	5	6		2	30	
	演劇論	1	2	3	4	5	6		1	15	
	心理学	1						2		30	
	哲学	1	2	3	4	5	6		2	30	
	コミュニケーション概論	1						2		30	
	雑談と傾聴～話す力と聴く力～	1	2	3	4	5	6		2	30	
	人間学	1	2	3	4	5	6		2	30	
	歴史学	1	2	3	4	5	6		2	30	
	倫理学	1	2	3	4	5	6		2	30	
	宗教学	1	2	3	4	5	6		2	30	
	日本近現代史	1	2	3	4	5	6		2	30	
	文化人類学	1	2	3	4	5	6		2	30	
	教育学	1	2	3	4	5	6		2	30	
	教育方法論	1	2	3	4	5	6		2	30	
	死生学-死を通して生を考える	1	2	3	4	5	6		2	30	
社会系	法学	1						2		30	
	法と道徳・倫理	1	2	3	4	5	6		2	30	
	我が国の社会福祉・医療保障政策の知識				4			1		30	
	経済の仕組み	1	2	3	4	5	6		2	30	
	経済の歴史	1	2	3	4	5	6		2	30	
	世界の経済	1	2	3	4	5	6		2	30	
	アジア諸国の経済・社会・文化	1	2	3	4	5	6		2	30	
	世界の中の和文化	1	2	3	4	5	6		1	15	
	経営の仕組み	1	2	3	4	5	6		2	30	
	組織運営管理論	1	2	3	4	5	6		2	30	
	社会学(人間と社会)	1	2	3	4	5	6		2	30	
	マスメディア論	1	2	3	4	5	6		2	30	
	新聞でみた日本と世界	1	2	3	4	5	6		2	30	
	国際関係論	1	2	3	4	5	6		2	30	
	国際医療福祉論	1	2	3	4	5	6		2	30	
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)		2					1		30	
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)		2					1		45	
	ボランティア論	1	2	3	4	5	6		2	30	
	ボランティアコーディネート論	1	2	3	4	5	6		2	30	
	手話入門	1	2	3	4	5	6		2	30	
防災と生活デザイン	1	2	3	4	5	6		2	30		
自然・情報系	疫学・保健医療統計学	1	2	3	4	5	6		2	30	
	数学	1						2		30	
	物理学	1							2	30	
	化学	1						2		30	
	生物学	1						2		30	
	データリテラシー	1						1		30	
	医療データサイエンスⅠ(DS基礎)		2	3	4	5	6		1	30	
	医療データサイエンスⅡ(AI基礎)		2	3	4	5	6		1	30	
	医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報-	1						1		30	
	医学/医療史	1	2	3	4	5	6		2	30	
人間工学	1	2	3	4	5	6		2	30		
総合系	大学入門講座-医療人・社会人として成長するために-	1						1		30	
	郷土論	1	2	3	4	5	6		1	15	
	医療福祉教養講義	1	2	3	4	5	6		1	15	
	メディカルマナー入門	1	2	3	4	5	6		2	30	
	食と人間	1	2	3	4	5	6		1	15	

授業科目の分類	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間	備考	
			必修	選択			
総合教育科目	外国語系	英語講読 1 (Primary)	1	1		30	
		英語講読 2 (Basic)	2	1		30	
		英語CALL 1 (Primary)	1	1		30	
		英語CALL 2 (Basic)	2	1		30	
		英語講読 3 (Intermediate)	2 3 4 5 6		1	30	
		英語講読 4 (Advanced)	2 3 4 5 6		1	30	
		英語会話 1 (Primary)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		英語会話 2 (Basic)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		英語会話 3 (Intermediate)	2 3 4 5 6		1	30	
		英語会話 4 (Advanced)	2 3 4 5 6		1	30	
		英語ライティング 1 (Primary)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		英語ライティング 2 (Basic)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		国際医療通訳入門	1 2 3 4 5 6		1	30	
		資格英語 1 (Primary)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		資格英語 2 (Basic)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		基礎英文法 1 (Primary)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		基礎英文法 2 (Basic)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		上級英語文献講読	1 2 3 4 5 6		1	30	
		上級英語会話 1 (発展)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		上級英語会話 2 (総合)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		ドイツ語入門 (会話含む)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		ドイツ語基礎 (会話含む)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		中国語入門 (会話含む)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		中国語基礎 (会話含む)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		韓国語入門 (会話含む)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		韓国語基礎 (会話含む)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		フランス語入門 (会話含む)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		フランス語基礎 (会話含む)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		スペイン語入門 (会話含む)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		スペイン語基礎 (会話含む)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		タイ語入門 (会話含む)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		タイ語基礎 (会話含む)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		ベトナム語入門 (会話含む)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		ベトナム語基礎 (会話含む)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		ビルマ語入門 (会話含む)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		ビルマ語基礎 (会話含む)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		日本語 I-A (文法・表現)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		日本語 I-B (記述)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		日本語 I-C (読解)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		日本語 I-D (会話)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		日本語 II-A (文法・表現)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		日本語 II-B (記述)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		日本語 II-C (読解)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		日本語 II-D (会話)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		日本語 III-A (文法・表現)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		日本語 III-B (記述)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		日本語 III-C (読解)	1 2 3 4 5 6		1	30	
		日本語 III-D (会話)	1 2 3 4 5 6		1	30	
	医療福祉専門漢字	1 2 3 4 5 6		1	30		
	医療福祉専門語彙	1 2 3 4 5 6		1	30		
	保健体育系	健康科学理論	1 2 3 4 5 6		1	15	
		健康科学実践	1 2 3 4 5 6		1	30	

2. 専門教育科目一覧

授業科目の分類	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間	備考
			必修	選択		
専門基礎科目 (学部共通)	救急医学	1 2 3 4 5 6		1	15	
	感染と免疫	1 2 3 4 5 6		2	30	
	リハビリテーション概論	1 2 3 4 5 6		2	30	
	関連職種連携論	2		2	30	
	ケアマネジメント論	1 2 3 4 5 6		1	15	
	ケースワーク論	1 2 3 4 5 6		1	15	
	医療管理学	1 2 3 4 5 6		2	30	
	保健医療福祉制度論	1 2 3 4 5 6		2	30	
	社会福祉学	1 2 3 4 5 6		2	30	
	臨床心理学概論	1		2	30	
	医療情報学概論	1 2 3 4 5 6		2	30	
	福祉支援工学概論	1 2 3 4 5 6		2	30	
	関連職種連携ワーク	3		1	30	
	関連職種連携実習	5		1	45	
	リスクマネジメント論	2 3 4 5 6		2	30	
	電子カルテシステム入門	2		1	15	
	エビデンスベースドプラクティス(研究と文献)	1 2 3 4 5 6		1	15	
	レクリエーション概論	1 2 3 4 5 6		1	15	
	医療関連法規Ⅰ (医薬品全般に関わる法律)	3		1	15	
	医療関連法規Ⅱ (医薬品開発と薬害に関する法律の理解)	4		1	15	
	災害保健学	1 2 3 4 5 6		1	15	
	予防保健学	1 2 3 4 5 6		1	15	
	国際医療保健学	1 2 3 4 5 6		1	15	
異文化体験実習	1 2 3 4 5 6		1	45		
専門基礎科目	公衆衛生学Ⅰ (保健統計、疫学、制度)	2		2	30	
	公衆衛生学Ⅱ (感染症と予防)	3		1	15	
	薬学演習Ⅰ (物理・化学・生物：基礎)	2		1	30	
	薬学演習Ⅱ (物理・化学・生物：応用)	3		1	30	
	薬学演習Ⅲ (医療倫理・ヒューマニズム)	3		1	30	
	病原微生物学	2		2	30	
	コミュニケーション実習	2		1	45	
	基礎薬学実習	1		1	45	
専門科目	薬学概論	1		2	30	
	医薬品レギュラトリーサイエンス概論	6		1	15	
	医療データサイエンス概論	4		1	15	
	医療データサイエンス演習	6		1	30	
	早期体験実習	1		1	45	
	分析化学Ⅰ (化学平衡と滴定)	1		2	30	
	分析化学Ⅱ (機器分析)	2		2	30	
	分析化学Ⅲ (分離分析と臨床分析)	3		2	30	
	薬品物理化学Ⅰ (物性とエネルギー)	1		2	30	
	薬品物理化学Ⅱ (平衡と変化)	2		2	30	
	放射化学	2		2	30	
	日本薬局方Ⅰ (通則、総則、一般試験法)	3		1	15	
	日本薬局方Ⅱ (代表的な医薬品の試験と生産管理)	6		1	15	
	物理系薬学実習	2		1	45	
	有機化学Ⅰ (脂肪族化合物1)	1		2	30	
	有機化学Ⅱ (脂肪族化合物2)	2		2	30	
	有機化学Ⅲ (芳香族化合物)	2		2	30	
	生薬学	2		2	30	
	天然物化学	2		1	15	
	生物有機化学	3		1	15	
	医薬品構造化学Ⅰ (コア構造と作用機構)	4		1	15	
	医薬品構造化学Ⅱ (代表的医薬品の構造と作用)	6		1	15	
	医薬品構造解析演習	2		1	30	
	化学系薬学実習Ⅰ (有機合成)	2		1	45	
	化学系薬学実習Ⅱ (天然資源)	2		1	45	
	有機化学演習	1		1	30	
	免疫学	3		2	30	

授業科目の分類	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間	備考
			必修	選択		
専門教育科目	生化学Ⅰ（生体分子）	1	2		30	
	生化学Ⅱ（生体エネルギー・代謝）	2	2		30	
	分子生物学	2	2		30	
	細胞生物学	2	1		15	
	解剖生理学Ⅰ（外皮系、骨格系・筋肉系、循環器系）	1	2		30	
	解剖生理学Ⅱ（神経系、内分泌系）	2	2		30	
	分子生物学実習	3	1		45	
	免疫微生物学実習	3	1		45	
	基礎統計学	1	1		15	
	疾病と病態生理学Ⅰ（内分泌系、神経精神系、循環器系疾患）	2	2		30	
	疾病と病態生理学Ⅱ（消化器系、呼吸器系、代謝性疾患）	2	2		30	
	薬理学Ⅰ（総論）	2	1		15	
	薬理学Ⅱ（末梢神経薬理、中枢神経薬理等）	2	2		30	
	薬理学Ⅲ（免疫・炎症薬理、循環器薬理、消化器薬理等）	3	2		30	
	薬理学Ⅳ（呼吸器薬理、内分泌薬理等）	3	1		15	
	化学療法学	3	2		30	
	がん薬物療法学	3	2		30	
	ゲノム医療	3	1		15	
	臨床検査医学	4	2		30	
	OTC医薬品概論	3	2		30	
	漢方医学Ⅰ（漢方の基礎）	3	2		30	
	漢方医学Ⅱ（漢方の応用）	4		1	15	
	医薬品情報学Ⅰ（医薬品情報の収集と活用）	3	2		30	
	医薬品情報学Ⅱ（EBMと臨床研究）	4	1		15	
	医薬品安全性学	4	2		30	
	薬物治療学Ⅰ（神経精神系疾患、内分泌系疾患等）	4	2		30	
	薬物治療学Ⅱ（循環器系疾患、呼吸器系疾患等）	4	2		30	
	薬物治療学Ⅲ（症例・病態解析）	6	1		30	
	フィジカルアセスメント実習	4	1		45	
	生物系薬学実習	3	1		45	
	物理薬剤学	3	1		15	
	製剤設計とDDS	3	2		30	
	薬物動態学	4	2		30	
	臨床薬物動態学	4	2		30	
	薬剤学実習	3	1		45	
	衛生化学Ⅰ（食品・栄養）	2	2		30	
	衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）	3	2		30	
	環境衛生学	3	2		30	
	衛生系薬学実習	3	1		45	
	臨床薬学Ⅰ（調剤の基礎）	3	2		30	
	臨床薬学Ⅱ（調剤の実践）	4	2		30	
	臨床薬学Ⅲ（薬物療法の実践）	4	2		30	
	臨床薬学Ⅳ（チーム医療・地域医療の実践その前に）	4	1		15	
	医療系薬学実習Ⅰ（調剤の基礎と情報収集）	4	1		45	
	医療系薬学実習Ⅱ（調剤の実践と服薬指導）	4	1		45	
医療系薬学実習Ⅲ（薬物療法の実践）	4	1		45		
薬局実務実習	5 6	10		450		
病院実務実習	5 6	10		450		
卒業研究	5 6	8		360		
実務実習事前演習	4	2		60		
総合薬学演習Ⅰ（薬剤師の使命を含む基礎項目の確認）	6	1		30		
総合薬学演習Ⅱ（理解力および問題解決能力の養成）	6	1		30		



成田薬学部薬学科 DP-教育目標カリキュラムマップ(2024年度以降入学生版)

- :ヒューマンズム教育
- :医療倫理教育
- :語学教育
- :医療安全教育
- :問題解決能力醸成教育
- (AL):アクティブラーニングを含む
- 水色文字は選択科目

		ディプロマ・ポリシー(DP)							
		[DP1]	[DP2]	[DP3]	[DP4]	[DP5]	[DP6]	[DP7]	
		薬学に関する基礎および専門的な知識・技能をバランスよく有している。	問題の発見から解決までの一連のプロセスの中で、必要な情報を収集し、科学的根拠に基づき、論理的に考え、行動できる。	医療人としての人間理解、国際的感覚を養い、相手に寄り添ったコミュニケーションを実施できる。	薬剤師としての使命感・倫理観・責任感を養い、他職種との連携を通して薬剤師の役割を理解、実践できる。	保健・医療・福祉について、日本にとどまらず世界の情勢を広く理解し、地域に貢献する姿勢と実践能力を有している。	医療の担い手として幅広い教養と豊かな人間性を育み、生涯にわたって自他ともに研鑽しあえる姿勢および意欲を有している。	生命科学的知識および研究マインドを基に、薬物療法を実践する能力を有している。	
1 年 次	[CP1a, CP2a] 薬学で必要となる基礎科目(化学系・物理系・生物系)の知識・技能を修得するとともに、問題発見から解決のプロセスに関する知識を修得する。	[DP1/CP1a, CP2a] 基礎統計学、数学、分析化学Ⅰ、薬品物理化学Ⅰ、化学、有機化学Ⅰ、有機化学演習(AL)、生物学、生化学Ⅰ、解剖生理学Ⅰ、物理学	[DP2/CP1a, CP2a] 大学入門講座-医療人・社会人として成長するために●●●●(AL)、化学、基礎薬学実習(AL)、有機化学演習(AL)	[DP3/CP1a, CP2a]	[DP4/CP1a, CP2a]	[DP5/CP1a, CP2a]	[DP6/CP1a, CP2a] 有機化学演習(AL)	[DP7/CP1a, CP2a]	
	[CP3a] 社会人・医療人としてのコミュニケーションに関する知識を修得する。	[DP1/CP3a]	[DP2/CP3a]	[DP3/CP3a] コミュニケーション概論●、臨床心理学概論●、有機化学演習(AL)	[DP4/CP3a]	[DP5/CP3a]	[DP6/CP3a]	[DP7/CP3a]	
	[CP3b, CP4a] 薬剤師を含む医療職の職能を理解するとともに、薬剤師としての使命感・倫理観・責任感を養う	[DP1/CP3b, CP4a]	[DP2/CP3b, CP4a]	[DP3/CP3b, CP4a]	[DP4/CP3b, CP4a] 薬学概論●●●●(AL)、早期体験実習●●●●(AL)、大学入門講座-医療人・社会人として成長するために●●●●(AL)、医療必修-医療の倫理とプロ意識-医療情報●●●●●●●●●●(AL)	[DP5/CP3b, CP4a]	[DP6/CP3b, CP4a] 感染と免疫、リハビリテーション概論、ケースワーク論、医療管理学、保健医療福祉制度論、社会福祉学、医療情報学概論、福祉支援工学概論	[DP7/CP3b, CP4a]	
	[CP4a] 総合教育科目(人間系、社会系、自然・情報系、総合系)を通して幅広い教養を身につけ、豊かな人間性を育む。	[DP1/CP4a]	[DP2/CP4a]	[DP3/CP4a]	[DP4/CP4a]	[DP5/CP4a]	[DP6/CP4a] 法学、テーラレタリー、医療必修-医療の倫理とプロ意識-医療情報●●●●●●●●●●(AL)、心理学●、文学論、演劇論、哲学、雑談と傾聴～話す力と聴く力～、人間学、歴史学、倫理学●、宗教学、日本近現代史、文化人類学、教育学、教育方法論、死生学-死を通して生を考える●、法と道徳・倫理●、経済の仕組み、経済の歴史、世界の経済、アジア諸国の経済・社会・文化、世界の中の和と文化、経営の仕組み、組織運営管理論、社会学、マスメディア論、新聞でみた日本と世界、国際関係論、国際医療福祉論、ボランティア論、ボランティアコーディネート論、手話入門、防災と生活デザイン、疫学・保健医療統計学、医学/医療史、人間工学、郷土論、医療福祉教養講義、メディカルマナー入門、食と人間●、健康科学理論、健康科学実践、災害保険学、予防保険学、国際医療保険学、異文化理解●	[DP7/CP4a]	
[CP4b] 外国語を学修するとともに、海外の保健福祉事情に触れる。	[DP1/CP4b]	[DP2/CP4b]	[DP3/CP4b]	[DP4/CP4b]	[DP5/CP4b] 英語講義1●、英語CALL1●、英語会話1●、英語会話2●、英語ライティング1●、英語ライティング2●、国際医療通訳入門●、資格英語1●、資格英語2●、基礎英文法1●、基礎英文法2●、上級英語会話1●、上級英語会話2●、上級英語文獻講義●、フランス語入門●、フランス語基礎●、ドイツ語入門●、ドイツ語基礎●、スペイン語入門●、スペイン語基礎●、中国語入門●、中国語基礎●、韓国語入門●、韓国語基礎●、タイ語入門●、タイ語基礎●、ベトナム語入門●、ベトナム語基礎●、ビルマ語入門●、ビルマ語基礎●	[DP6/CP4b]	[DP7/CP4b]		
2 年 次	[CP1a] 基礎薬学科目の知識・技能を広く修得するとともに、衛生薬学・医療薬学科目の知識・技能を修得する。	[DP1/CP1a] 分析化学Ⅱ、薬品物理化学Ⅱ、放射化学、生薬学、天然物化学、有機化学Ⅱ、有機化学Ⅲ、医薬品構造解析演習(AL)、化学系薬学実習Ⅱ(AL)、生化学Ⅱ、分子生物学、細胞生物学、解剖生理学Ⅱ、病原微生物学、疾病と病態生理学Ⅰ、疾病と病態生理学Ⅱ、薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、衛生化学Ⅰ、公衆衛生学Ⅰ、薬学演習Ⅰ(AL)	[DP2/CP1a] 有機化学Ⅱ、有機化学Ⅲ、化学系薬学実習Ⅰ(AL)、化学系薬学実習Ⅱ(AL)	[DP3/CP1a]	[DP4/CP1a]	[DP5/CP1a]	[DP6/CP1a] 医療データサイエンスⅠ(DS基礎)、医療データサイエンスⅡ(AI基礎)	[DP7/CP1a] 薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ	
	[CP2a] 与えられた課題に関するデータを能動的に収集・分析・考察する能力を修得する。	[DP1/CP2a]	[DP2/CP2a] 物理系薬学実習(AL)、化学系薬学実習Ⅰ(AL)、化学系薬学実習Ⅱ(AL)、医療データサイエンスⅠ(DS基礎)、医療データサイエンスⅡ(AI基礎)	[DP3/CP2a]	[DP4/CP2a]	[DP5/CP2a]	[DP6/CP2a] エビデンスベースドプラクティス(研究と文献)	[DP7/CP2a]	
	[CP3a] コミュニケーション実習を通してコミュニケーションスキルの基礎を修得する。	[DP1/CP3a]	[DP2/CP3a]	[DP3/CP3a] コミュニケーション実習●●●●(AL)	[DP4/CP3a]	[DP5/CP3a]	[DP6/CP3] コミュニケーション実習●●●●(AL)	[DP7/CP3a]	
	[CP3b] 多職種の中での薬剤師の役割を理解する。	[DP1/CP3b]	[DP2/CP3b]	[DP3/CP3b]	[DP4/CP3b] 関連職種連携論●	[DP5/CP3b]	[DP6/CP3b] 関連職種連携論●電子カルテシステム入門、レクレーション概論	[DP7/CP3b]	
各 年 次 の 教 育 目 標 ( 到 達 目 標)	[CP4b] 国際感覚を養うために世界の保健福祉事情に触れ、語学能力を高めて医学英語を修得する。	[DP1/CP4b]	[DP2/CP4b]	[DP3/CP4b] 海外保健福祉事情Ⅰ、海外保健福祉事情Ⅱ●●●●●●●●●●(AL)	[DP4/CP4b]	[DP5/CP4b] 海外保健福祉事情Ⅰ、英語講義2●、英語CALL2●、英語講義3●、英語講義4●、英語会話1●、英語会話2●、英語会話3●、英語会話4●、英語ライティング1●、英語ライティング2●、国際医療通訳入門●、資格英語1●、資格英語2●、基礎英文法1●、基礎英文法2●、上級英語会話1●、上級英語会話2●、上級英語文獻講義●、フランス語入門●、フランス語基礎●、ドイツ語入門●、ドイツ語基礎●、スペイン語入門●、スペイン語基礎●、中国語入門●、中国語基礎●、韓国語入門●、韓国語基礎●、タイ語入門●、タイ語基礎●、ベトナム語入門●、ベトナム語基礎●、ビルマ語入門●、ビルマ語基礎●	[DP6/CP4b] 海外保健福祉事情Ⅱ●●●●●●●●●●(AL)	[DP7/CP4b]	
	[CP1a] 衛生薬学・医療薬学科目の知識・技能を広く修得する。	[DP1/CP1a] 分析化学Ⅲ、日本薬局方Ⅰ、免疫学、化学療法学、薬理学Ⅲ、薬理学Ⅳ、がん薬物療法学、ゲノム医療、OTC医薬品概論●●●●(AL)、漢方医学Ⅰ、医薬品情報学Ⅰ●●●●、医療関係法規Ⅰ●●●●、生物系薬学実習(AL)、物理薬理学、製剤設計とDDS(AL)、薬剤学実習(AL)、衛生化学Ⅱ、環境衛生学、公衆衛生学Ⅱ、衛生系薬学実習(AL)、臨床薬学Ⅰ●●●●、薬学演習Ⅱ(AL)	[DP2/CP1a] 生物系薬学実習(AL)、医薬品情報学Ⅰ●●●●、薬剤学実習(AL)、臨床薬学Ⅰ●●●●	[DP3/CP1a]	[DP4/CP1a] ゲノム医療、臨床薬学Ⅰ●●●●、医療関係法規Ⅰ●●●●、臨床薬学Ⅰ●●●●	[DP5/CP1a] 臨床薬学Ⅰ●●●●	[DP6/CP1a] 救急医学、リスクマネジメント論	[DP7/CP1a] 化学療法学、薬理学Ⅲ、薬理学Ⅳ、がん薬物療法学、ゲノム医療、OTC医薬品概論●●●●(AL)、漢方医学Ⅰ、医薬品情報学Ⅰ●●●●、生物系薬学実習(AL)	
	[CP2a]	[DP1/CP2a]	[DP2/CP2a]	[DP3/CP2a]	[DP4/CP2a]	[DP5/CP2a]	[DP6/CP2a]	[DP7/CP2a]	



		ディプロマ・ポリシー (DP)										
		[DP1] 薬学に関する基礎および専門的な知識・技能をバランスよく有している。	[DP2] 問題の発見から解決までの一連のプロセスの中で、必要な情報を収集し、科学的根拠に基づき、論理的に考え、行動できる。	[DP3] 医療人としての人間理解、国際的感覚を養い、相手に寄り添ったコミュニケーションを実施できる。	[DP4] 薬剤師としての使命感・倫理観・責任感を養い、他職種との連携を通して薬剤師の役割を理解、実践できる。	[DP5] 保健・医療・福祉について、日本にとどまらず世界の情勢を広く理解し、地域に貢献する姿勢と実践能力を有している。	[DP6] 医療の担い手として幅広い教養と豊かな人間性を育み、生涯にわたって自他とともに研鑽しあえる姿勢および意欲を有している。	[DP7] 生命科学的知識および研究マインドを基に、薬物療法を実践する能力を有している。				
進 目 標 ・ S B O S ( )	3 年 次	与えられた課題に関するデータを能動的に収集・分析・考察する能力を修得する。	生物有機化学、生物系薬学実習 (AL)、医薬品情報学 I ●									
		[CP3a, CP3b, CP4a] 医療コミュニケーションを修得するとともに、多職種の中での薬剤師の役割を実践することで専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につけ、薬剤師としての使命感・倫理観・責任感を養う。	[DP1/CP3a, CP3b, CP4a]		[DP2/CP3a, CP3b, CP4a] 関連職種連携ワーク ●●●● (AL)	[DP3/CP3a, CP3b, CP4a]	[DP4/CP3a, CP3b, CP4a] 関連職種連携ワーク ●●●● (AL)、薬学演習 III ●●●● (AL)	[DP5/CP3a, CP3b, CP4a]	[DP6/CP3] 関連職種連携ワーク ●●●● (AL)	[DP7/CP3a, CP3b, CP4a]		
		【CP4a】 組換えDNA・動物実験教育訓練を通して実習および卒業研究で必要となる研究倫理を理解する。	[DP1/CP4a] 生物系薬学実習 (AL)	[DP2/CP4a] 免疫微生物学実習 (AL)、生物系薬学実習 (AL)	[DP3/CP4a]	[DP4/CP4a]	[DP5/CP4a]	[DP6/CP4a]	[DP7/CP4a] 生物系薬学実習 (AL)			
		【CP4b】 海外の保健福祉事情を知る。	[DP1/CP4b]	[DP2/CP4b]	[DP3/CP4b]	[DP4/CP4b]	[DP5/CP4b] 薬学演習 III ●●●● (AL)	[DP6/CP4b]	[DP7/CP4b]			
4 年 次	【CP1a】 基礎薬学、衛生薬学、医療薬学を関連付けて修得する。	[DP1/CP1a] 医薬品構造化学 I、医薬品情報学 II、医薬品安全性学 ●●●● 薬物治療学 I、薬物治療学 II、臨床検査医学、薬物動態学、臨床薬物動態学、医療関係法規 II ●●●●、実務実習事前演習 ●●●● (AL)、臨床薬学 II ●●●●、臨床薬学 III ●●●● (AL)、医療系薬学実習 II ●●●● (AL)、医療系薬学実習 III ●●●● (AL)、臨床薬学 IV ●●●● (AL)、漢方医学 II ●●●● (AL)	[DP2/CP1a] 臨床薬物動態学、医療系薬学実習 II ●●●● (AL)、医療系薬学実習 III ●●●● (AL)、臨床薬学 II ●●●●、臨床薬学 III ●●●● (AL)、臨床薬学 IV ●●●● (AL)	[DP3/CP1a]	[DP4/CP1a] 実務実習事前演習 ●●●● (AL)、臨床薬学 III ●●●● (AL)、臨床薬学 IV ●●●● (AL)、医療関係法規 II ●●●●	[DP5/CP1a] 我が国の社会福祉・医療保障政策の知識 ●●●● (AL)、実務実習事前演習 ●●●● (AL)、臨床薬学 III ●●●● (AL)、臨床薬学 IV ●●●● (AL)	[DP6/CP1a] 我が国の社会福祉・医療保障政策の知識 ●●●● (AL)、実務実習事前演習 ●●●● (AL)、臨床薬学 III ●●●● (AL)、臨床薬学 IV ●●●● (AL)	[DP7/CP1a] 漢方医学 II ●●●●、臨床検査医学、医薬品情報学 II、医薬品安全性学 ●●●●、薬物治療学 I ●●●●、薬物治療学 II ●●●●、臨床薬学 III ●●●● (AL)、臨床薬学 IV ●●●● (AL)				
	【CP1b】 4年次までに修得した知識、技能を活用し、薬物治療を適切に評価する。	[DP1/CP1b] 臨床薬学 II ●●●●、実務実習事前演習 ●●●● (AL)、医療系薬学実習 I ●●●● (AL)、医療系薬学実習 II ●●●● (AL)、医療系薬学実習 III ●●●● (AL)	[DP2/CP1b] 臨床薬学 II ●●●●、臨床薬学 III ●●●● (AL)、医療系薬学実習 I ●●●● (AL)、医療系薬学実習 II ●●●● (AL)、医療系薬学実習 III ●●●● (AL)	[DP3/CP1b] 医療系薬学実習 I ●●●● (AL)、医療系薬学実習 II ●●●● (AL)、医療系薬学実習 III ●●●● (AL)	[DP4/CP1b] 医療系薬学実習 I ●●●● (AL)、医療系薬学実習 II ●●●● (AL)、医療系薬学実習 III ●●●● (AL)	[DP5/CP1b] 医療系薬学実習 I ●●●● (AL)、医療系薬学実習 II ●●●● (AL)、医療系薬学実習 III ●●●● (AL)	[DP6/CP1b] 臨床薬学 III ●●●● (AL)、医療系薬学実習 II ●●●● (AL)、医療系薬学実習 III ●●●● (AL)	[DP7/CP1b] 医薬品情報学 II ●●●●、医療系薬学実習 II ●●●● (AL)、医療系薬学実習 III ●●●● (AL)				
	【CP2a】 自ら問題を発見し、解決に必要なデータを能動的に収集・分析・考察する能力を修得する。	[DP1/CP2a] 医療データサイエンス概論 (AL)、医薬品構造化学 I、臨床薬学 III (AL) ●●●●	[DP2/CP2a] 医療データサイエンス概論 (AL)、医薬品情報学 II、フィジカルアセスメント実習 (AL)、臨床薬学 II ●●●● (AL)、臨床薬学 III ●●●● (AL)	[DP3/CP2a] 臨床薬学 III ●●●● (AL)	[DP4/CP2a] 医療系薬学実習 III ●●●● (AL)	[DP5/CP2a] 臨床薬学 III ●●●● (AL)	[DP6/CP2a] 臨床薬学 III ●●●● (AL)、医療系薬学実習 I ●●●● (AL)	[DP7/CP2a] 医療データサイエンス概論 (AL)、医薬品情報学 II ●●●●、フィジカルアセスメント実習 (AL)、医療系薬学実習 I ●●●● (AL)				
	【CP3a】 医療コミュニケーションを修得するとともに、多職種の中での薬剤師の役割を実践することで専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につけ、薬剤師としての使命感・倫理観・責任感を養う。	[DP1/CP3a]	[DP2/CP3a]	[DP3/CP3a] 医療系薬学実習 I ●●●● (AL)、医療系薬学実習 II ●●●● (AL)、医療系薬学実習 III ●●●● (AL)	[DP4/CP3a] 医療系薬学実習 I ●●●● (AL)、医療系薬学実習 II ●●●● (AL)、医療系薬学実習 III ●●●● (AL)	[DP5/CP3a]	[DP6/CP3a]	[DP7/CP3a]				
	【CP4a】 研究倫理講習を通して卒業研究で必要となる研究倫理への理解を深める。	[DP1/CP4a]	[DP2/CP4a]	[DP3/CP4a]	[DP4/CP4a] 研究倫理講習 (準正規科目) ●●●●	[DP5/CP4a]	[DP6/CP4a]	[DP7/CP4a]				
5 年 次	【CP1b, CP2b, CP4a】 実務実習 (病院・薬局)を通して薬剤師 (実習生)として使命感・倫理観・責任感をもって行動するとともに、臨床で必要となる実践的能力を身につける。	[DP1/CP1b, CP2b, CP4a] 薬局実務実習 ●●●● (AL)、病院実務実習 ●●●● (AL)、関連職種連携実習 ●●●● (AL)	[DP2/CP1b, CP2b, CP4a] 薬局実務実習 ●●●● (AL)、病院実務実習 ●●●● (AL)、関連職種連携実習 ●●●● (AL)	[DP3/CP1b, CP2b, CP4a] 薬局実務実習 ●●●● (AL)、病院実務実習 ●●●● (AL)、関連職種連携実習 ●●●● (AL)	[DP4/CP1b, CP2b, CP4a] 薬局実務実習 ●●●● (AL)、病院実務実習 ●●●● (AL)、関連職種連携実習 ●●●● (AL)	[DP5/CP1b, CP2b, CP4a] 薬局実務実習 ●●●● (AL)、病院実務実習 ●●●● (AL)、関連職種連携実習 ●●●● (AL)	[DP6/CP1b, CP2b, CP4a] 薬局実務実習 ●●●● (AL)、病院実務実習 ●●●● (AL)、関連職種連携実習 ●●●● (AL)	[DP7/CP1b, CP2b, CP4a] 薬局実務実習 ●●●● (AL)、病院実務実習 ●●●● (AL)、関連職種連携実習 ●●●● (AL)				
	【CP2a】 科学的根拠に基づいて課題を発見したり、問題点を解決する能力を修得する。	[DP1/CP2a]	[DP2/CP2a] 卒業研究 ●●●● (AL)	[DP3/CP2a]	[DP4/CP2a]	[DP5/CP2a]	[DP6/CP2a]	[DP7/CP2a]				
6 年 次	【CP1a, CP1b】 薬学に関する全ての知識を統合し、患者に対する適切な薬物治療を選択・実践できる応用力を修得する。	[DP1/CP1a, CP1b] 総合薬学演習 I ●●●● (AL)、総合薬学演習 II ●●●● (AL)、医薬品構造化学 II (AL)、薬物治療学 III ●●●● (AL)、日本薬局方 II、医薬品レギュラトリーサイエンス概論 (AL)、医療データサイエンス演習 (AL)	[DP2/CP1a, CP1b] 医薬品構造化学 II (AL)、薬物治療学 III ●●●● (AL)、医薬品レギュラトリーサイエンス概論 (AL)、医療データサイエンス演習 (AL)	[DP3/CP1a, CP1b]	[DP4/CP1a, CP1b]	[DP5/CP1a, CP1b]	[DP6/CP1a, CP1b]	[DP7/CP1a, CP1b] 医薬品構造化学 II (AL)、薬物治療学 III ●●●● (AL)、医療データサイエンス演習				
	【CP2a】 科学的根拠に基づいて課題を発見したり、問題点を解決する能力を修得する。	[DP1/CP2a] 医薬品レギュラトリーサイエンス概論 (AL)、医療データサイエンス演習 (AL)	[DP2/CP2a] 卒業研究 ●●●● (AL)、医薬品レギュラトリーサイエンス概論 (AL)、医療データサイエンス演習 (AL)	[DP3/CP2a]	[DP4/CP2a]	[DP5/CP2a]	[DP6/CP2a]	[DP7/CP2a] 医療データサイエンス演習				
	【CP2a】 卒業研究発表および実務実習報告会などを通して取り組んだ問題、課題などを薬学的知見および科学的根拠に基づいてまとめ、プレゼンテーションする能力を修得する。	[DP1/CP2a]	[DP2/CP2a] 卒業研究 ●●●● (AL)、薬局実務実習 ●●●● (AL)、病院実務実習 ●●●● (AL)	[DP3/CP2a]	[DP4/CP2a]	[DP5/CP2a]	[DP6/CP2a]	[DP7/CP2a]				
	【CP4a】 学内での講義・演習・実習および実務実習 (病院・薬局)で養った薬剤師としての倫理観・責任感・使命感を総合的に身につける。	[DP1/CP4a] 総合薬学演習 I ●●●● (AL)、総合薬学演習 II ●●●● (AL)	[DP2/CP4a] 総合薬学演習 I ●●●● (AL)、総合薬学演習 II ●●●● (AL)	[DP3/CP4a] 総合薬学演習 I ●●●● (AL)、総合薬学演習 II ●●●● (AL)	[DP4/CP4a] 総合薬学演習 I ●●●● (AL)、総合薬学演習 II ●●●● (AL)	[DP5/CP4a] 総合薬学演習 I ●●●● (AL)、総合薬学演習 II ●●●● (AL)	[DP6/CP4a] 総合薬学演習 I ●●●● (AL)、総合薬学演習 II ●●●● (AL)	[DP7/CP4a]				

## 8-8 アセスメント・ポリシー

本学では、教育成果を可視化し、教育改善を実施する目的で、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を踏まえて、教育課程や学生の学修成果を測定・評価する方法（アセスメント・ポリシー）を定めています。測定・評価は入学時から卒業時までとし、機関レベル（大学）・教育課程レベル（学部・学科）・科目レベル（授業科目）の3段階で多面的に実施します。

### 1. 機関レベル（大学）

学生の卒業率、退学率、志望進路（就職率、進学率）等から教育課程及び学修成果の達成状況を評価します。

### 2. 教育課程レベル（学部・学科）

学部・学科の所定の教育課程における卒業要件達成状況（単位取得状況、GPA）、資格・免許の取得状況等から教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を評価します。

### 3. 科目レベル（授業科目）

シラバスで提示された学修目標に対する評価や授業評価アンケート等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を評価します。

○具体的な評価方法等は次の表のとおりです。

一部、各学科により実施していない項目があります。

	入学時 アドミッション・ポリシーを 満たす人材かどうかの評価	在学中 カリキュラム・ポリシーに 則って学修が進められて いるかどうかの評価	卒業時 ディプロマ・ポリシーを 満たす人材になったか どうかの評価
機関レベル (大学)	・入学試験 ・調査書等の記載内容 ・面接、志願理由書等	・休学率 ・退学率 ・学修行動調査	・卒業率 ・学位授与数 ・就職率 ・進学率(主として大学院)
教育課程レベル (学部・学科)	・入学試験 ・調査書等の記載内容 ・面接、志願理由書等	・GPA <sup>※</sup> ・修得単位数 ・進級率 ・学修行動調査 ・OSCE <sup>※</sup>	・GPA <sup>※</sup> ・国家試験合格者数 ・国家試験合格率 ・資格取得率 ・進路状況 ・卒業時到達度アンケート
科目レベル (授業科目)	・入学時基礎学力調査 ・TOEIC Bridge Test	・成績評価(定期試験) ・学修ポートフォリオ ・授業評価アンケート ・TOEIC IP(L&R)	

※GPA：Grade Point Average 学生が履修登録した科目1単位当たりの成績平均値。

※OSCE：Objective Structured Clinical Examination（客観的臨床能力試験）学生の模擬患者に対するインタビューや臨床の現場に必要な基本的技能の実技を、評価者が観察し、客観的に評価する試験。